

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 生命科学専攻 （博士前期課程）

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ……」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜生命科学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名 埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570
埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		
専攻長	(ツカハラ シンジ) 塚原 伸治 (令和4年4月)	(コタケ トシヒサ) 小竹 敬久 (令和5年4月)	任期満了のため 令和5年4月1日(5)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
理工学研究科 生命科学専攻 修士(理学)	理学関係	2 年	55 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	110 人	—	基礎となる学部 理学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区 分	対象年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	55 () []	人 () []	55 () []	0.97 倍	—	0.97 倍	—		
	志願者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	57 () [3]	0 () [0]	71 () [1]						人 () []
	受験者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	53 () [2]	0 () [0]	68 () [1]						人 () []
	合格者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	53 () [2]	0 () [0]	64 () [1]						人 () []
B	入学者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	47 () [0]	0 () [0]	60 () [1]						人 () []
	入学定員超過率 B / A	—		—		—		—		0.85		1.09						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	47 [0] (－)	0 [0] (－)	60 [1] (－)	－ [－] (－)	
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	47 [0] (－)	0 [0] (－)	
3 年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
4 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計			－ [－] (－)	－ [－] (－)			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	47 [0] (－)	107 [1] (－)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
令和元年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
令和2年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
令和3年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
令和4年度	47 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
令和5年度	107 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
- （記入項目例）・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{47} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{107} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科 生命科学専攻＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課 程 共 通 科 目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・3～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・3～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・3～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・3～④		1								1
	特別研修A 1	1・2通		1								1
	特別研修A 2	1・2通		2								1
	特別研修A 3	1・2通		3								1
	特別研修A 4	1・2通		4								1
	特別研修B 1	1・2通		1								1
	特別研修B 2	1・2通		2								1
	特別研修B 3	1・2通		3								1
	特別研修B 4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習A	1・2①～②・3～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
小計（17科目）		－	0	34	0	0	0	0	0	0	0	10
専 攻 共 通 科 目	インターンシップ	1・2通		2				1				
	分子生物学特論1	1・2①～②		1		1						
	分子生物学特論2	1・2①～②		1		1						
	分子生物学特論3	1・2①～②		1		1						
	分子生物学特論4	1・2①～②		1			1					
	生体制御学特論1	1・2①～②		2		1						
	生体制御学特論2	1・2①～②		2		1						
	生体制御学特論3	1・2①～②		2								1
	生体制御学特論4	1・2①～②		2								3
	生体制御学特論5	1・2①～②		2								1
小計（10科目）		－	0	16	0	4	1	1	0	0	0	5
	分子生物学特別研究1	1通		6		5	5	1	3			5
	分子生物学特別研究2	2通		6		5	5	1	3			5
	分子遺伝学特論2	1・2③～④		2			1					
	分子遺伝学特論3	1・2③～④		2			1					
	分子遺伝学特論4	1・2③～④		2				1				
	分子遺伝学特論6	1・2①～②		2								1
	分子遺伝学特論7	1・2①～②		2			1					
	細胞情報学特論2	1・2③～④		2		1						
	細胞情報学特論3	1・2①～②		2			1					
	細胞情報学特論4	1・2①～②		2								1
	細胞情報学特論5	1・2①～②		2								1
	細胞情報学特論6	1・2①～②		2								1
	細胞情報学特論7	1・2①～②		2			1					
	分子細胞学特論1	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論3	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論5	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論6	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論7	1・2①～②		2								1
	生命科学特別講義	1・2通		2		2		1				
基礎分子生物学1	1・2①～②		2		2							

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通科目	技術者のための産業経営特論	1・2D～2・2D		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2D～2・2D		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ(未開講)	1・2D～2・2D		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ	1・2D		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2D～2・2D		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2D～2・2D		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2D～2・2D		1								1
	特別研修AⅠ	1・2通		1								1
	特別研修AⅡ	1・2通		2								1
	特別研修AⅢ	1・2通		3								1
	特別研修AⅣ	1・2通		4								1
	特別研修BⅠ	1・2通		1								1
	特別研修BⅡ	1・2通		2								1
	特別研修BⅢ	1・2通		3								1
	特別研修BⅣ	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2D～2・2D		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2D～2・2D		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2D～2・2D		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2D～2・2D		2								1
	課題解決型特別演習DⅠ	1・2D～2・2D		2								1
課題解決型特別演習DⅡ	1・2D～2・2D		2								1	
課題解決型特別演習E	1・2D～2・2D		2								1	
小計(22科目)	—	0	45	0	0	0	0	0	0	0	12	
専攻 共通科目	インターンシップ	1・2通		2				1				
	分子生物学特論Ⅰ(未開講)	1・2D～2・2D		1		1						
	分子生物学特論Ⅱ(未開講)	1・2D～2・2D		1		1						
	分子生物学特論Ⅲ	1・2D～2・2D		1		1						
	分子生物学特論Ⅳ	1・2D～2・2D		1			1					
	生体制御学特論Ⅰ(未開講)	1・2D～2・2D		2		1						
	生体制御学特論Ⅱ(未開講)	1・2D～2・2D		2		1						
	生体制御学特論Ⅲ	1・2D～2・2D		2								1
	生体制御学特論Ⅳ	1・2D～2・2D		2								3
	生体制御学特論Ⅴ	1・2D～2・2D		2								1
小計(10科目)	—	0	16	0	4	1	1	0	0	0	5	
	分子生物学特別研究Ⅰ	1通		6		6	4	1	4			7
	分子生物学特別研究Ⅱ	2通		6		6	4	1	4			7
	分子遺伝学特論Ⅱ	1・2D～2・2D		2			1					
	分子遺伝学特論Ⅲ(未開講)	1・2D～2・2D		2			1					
	分子遺伝学特論Ⅳ(未開講)	1・2D～2・2D		2				1				
	分子遺伝学特論Ⅵ	1・2D～2・2D		2								1
	分子遺伝学特論Ⅶ	1・2D～2・2D		2			1					
	細胞情報学特論Ⅱ(未開講)	1・2D～2・2D		2		1						
	細胞情報学特論Ⅲ	1・2D～2・2D		2			1					
	細胞情報学特論Ⅳ	1・2D～2・2D		2								1
	細胞情報学特論Ⅴ	1・2D～2・2D		2								1
	細胞情報学特論Ⅵ(未開講)	1・2D～2・2D		2								1
	細胞情報学特論Ⅶ	1・2D～2・2D		2		1						
	分子細胞学特論Ⅰ	1・2D～2・2D		2		1						
	分子細胞学特論Ⅲ(未開講)	1・2D～2・2D		2		1						
	分子細胞学特論Ⅳ	1・2D～2・2D		2								1
	分子細胞学特論Ⅴ	1・2D～2・2D		2		1						
	分子細胞学特論Ⅵ(未開講)	1・2D～2・2D		2		1						
	分子細胞学特論Ⅶ(未開講)	1・2D～2・2D		2								1
	生命科学特別講義	1・2通		2		2		1				
基礎分子生物学Ⅰ	1・2D～2・2D		2		2							

生 体 制 御 学 ブ ロ グ ラ ム	計算機構造創薬特論	1・2D～2	2							1
	微生物学輪講A	1通	2			1				
	微生物学輪講B	2通	2			1				
	遺伝学輪講A	1通	2			1				
	遺伝学輪講B	2通	2			1				
	発生生物学輪講1A	1通	2				1			
	発生生物学輪講1B	2通	2				1			
	発生生物学輪講2A	1通	2			1				
	発生生物学輪講2B	2通	2			1				
	発生生物学輪講3A	1通	2				1			
	発生生物学輪講3B	2通	2				1			
	調節生理学輪講1A	1通	2			1				
	調節生理学輪講1B	2通	2			1				
	調節生理学輪講2A	1通	2			1				
	調節生理学輪講2B	2通	2			1				
	細胞制御学輪講1A	1通	2			1				
	細胞制御学輪講1B	2通	2			1				
	適応生理学輪講A	1通	2			1				
	適応生理学輪講B	2通	2			1				
	細胞記憶学輪講A	1通	2							1
	細胞記憶学輪講B	2通	2							1
	生体応答制御学輪講A	1通	2							1
	生体応答制御学輪講B	2通	2							1
	生殖医療学輪講A	1通	2							1
	生殖医療学輪講B	2通	2							1
	腫瘍分子生物学輪講A	1通	2							1
	腫瘍分子生物学輪講B	2通	2							1
	計算機構造創薬輪講A	1通	2							1
	計算機構造創薬輪講B	2通	2							1
小計（106科目）	-	0	228	0	11	8	1	6	0	11
合計（133科目）	-	0	278	0	11	8	1	6	0	24

卒業要件及び履修方法

生命科学専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）を授与する。

（分子生物学プログラムの修了要件）

分子生物学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 分子生物学特別研究1（6単位）及び分子生物学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 分子生物学プログラムの専門科目から、輪講8単位以上を含む14単位以上を修得すること。
- 3) 2)には、生体制御学プログラムの専門科目における特論を4単位まで含めることができる。
- 4) 1)、2)及び3)で修得すべき26単位以外の4単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（生体制御学プログラムの修了要件）

生体制御学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 生体制御学特別研究1（6単位）及び生体制御学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 生体制御学プログラムの専門科目から、輪講4単位以上を含む12単位以上を修得すること。ただし、輪講は8単位まで修了要件に含めることができる。
- 3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 分子生物学特別研究1（6単位）及び分子生物学特別研究2（6単位）の2科目12単位又は生体制御学特別研究1（6単位）及び生体制御学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

生 体 制 御 学 ブ ロ グ ラ ム	計算機構造創薬特論	1・2D～2	2							1
	微生物学輪講A(未開講)	1・2D～2	2						1	
	微生物学輪講B(未開講)	1・2D～2	2						1	
	遺伝学輪講A	1・2D～2	2				1			
	遺伝学輪講B	1・2D～2	2				1			
	発生物学輪講1A(未開講)	1・2D～2	2					1		
	発生物学輪講1B(未開講)	1・2D～2	2					1		
	発生物学輪講2A	1・2D～2	2				1			
	発生物学輪講2B	1・2D～2	2				1			
	発生物学輪講3A	1・2D～2	2					1		
	発生物学輪講3B	1・2D～2	2					1		
	調節生理学輪講1A	1・2D～2	2				1			
	調節生理学輪講1B	1・2D～2	2				1			
	調節生理学輪講2A(未開講)	1・2D～2	2				1			
	調節生理学輪講2B(未開講)	1・2D～2	2				1			
	細胞制御学輪講1A(未開講)	1・2D～2	2				1			
	細胞制御学輪講1B(未開講)	1・2D～2	2				1			
	適応生理学輪講A(未開講)	1・2D～2	2				1			
	適応生理学輪講B(未開講)	1・2D～2	2				1			
	細胞記憶学輪講A	1・2D～2	2							1
	細胞記憶学輪講B	1・2D～2	2							1
	生体応答制御学輪講A(未開講)	1・2D～2	2							1
	生体応答制御学輪講B(未開講)	1・2D～2	2							1
	生殖医療学輪講A	1・2D～2	2							1
	生殖医療学輪講B	1・2D～2	2							1
	腫瘍分子生物学輪講A(未開講)	1・2D～2	2							1
	腫瘍分子生物学輪講B(未開講)	1・2D～2	2							1
	計算機構造創薬輪講A	1・2D～2	2							1
	計算機構造創薬輪講B	1・2D～2	2							1
小計（111科目）	—	0	238	0	12	7	1	7	0	14
合計（143科目）	—	0	299	0	12	7	1	7	0	29

卒業要件及び履修方法

生命科学専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）を授与する。

（分子生物学プログラムの修了要件）

分子生物学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 分子生物学特別研究1（6単位）及び分子生物学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 分子生物学プログラムの専門科目から、輪講8単位以上を含む14単位以上を修得すること。
- 3) 2)には、生体制御学プログラムの専門科目における特論を4単位まで含めることができる。
- 4) 1)、2)及び3)で修得すべき26単位以外の4単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（生体制御学プログラムの修了要件）

生体制御学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 生体制御学特別研究1（6単位）及び生体制御学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 生体制御学プログラムの専門科目から、輪講4単位以上を含む12単位以上を修得すること。ただし、輪講は8単位まで修了要件に含めることができる。
- 3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 分子生物学特別研究1（6単位）及び分子生物学特別研究2（6単位）の2科目12単位又は生体制御学特別研究1（6単位）及び生体制御学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、**環境分析化学特論**（2単位）、**地圏環境学特論**（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程共通科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ(未開講)	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・③～④		1								1
	特別研修A 1	1・2通		1								1
	特別研修A 2	1・2通		2								1
	特別研修A 3	1・2通		3								1
	特別研修A 4	1・2通		4								1
	特別研修B 1	1・2通		1								1
	特別研修B 2	1・2通		2								1
	特別研修B 3	1・2通		3								1
	特別研修B 4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	課題解決型特別演習D	1・2①～②		2								1
課題解決型特別演習E	1・2①～②		2								1	
小計（21科目）	－	0	42	0	0	0	0	0	0	0	12	
専攻共通科目	インターンシップ	1・2通		2				1				
	分子生物学特論1	1・2①～②		1		1						
	分子生物学特論2	1・2①～②		1		1						
	分子生物学特論3(未開講)	1・2①～②		1		1						
	分子生物学特論4(未開講)	1・2①～②		1			1					
	生体制御学特論1	1・2①～②		2		1						
	生体制御学特論2	1・2①～②		2		1						
	生体制御学特論3	1・2①～②		2								1
	生体制御学特論4	1・2①～②		2								3
	生体制御学特論5	1・2①～②		2								1
	小計（10科目）	－	0	16	0	4	1	1	0	0	0	5
	分子生物学特別研究1	1通		6		6	4	1	4			5
	分子生物学特別研究2	2通		6		6	4	1	4			5
	分子遺伝学特論2(未開講)	1・2③～④		2			1					
	分子遺伝学特論3	1・2③～④		2			1					
	分子遺伝学特論4	1・2③～④		2				1				
	分子遺伝学特論6(未開講)	1・2①～②		2								1
	分子遺伝学特論7(未開講)	1・2①～②		2			1					
	細胞情報学特論2	1・2③～④		2		1						
	細胞情報学特論3(未開講)	1・2①～②		2			1					
	細胞情報学特論4(未開講)	1・2①～②		2								1
	細胞情報学特論5(未開講)	1・2①～②		2								1
	細胞情報学特論6	1・2①～②		2								1
	細胞情報学特論7(未開講)	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論1(未開講)	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論3	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論5(未開講)	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論6	1・2①～②		2		1						
	分子細胞学特論7	1・2①～②		2								1
	生命科学特別講義	1・2通		2		2		1				
	基礎分子生物学1	1・2①～②		2		2						
	基礎分子生物学4	1・2①～②		2		2		1				
	基礎分子生物学5	1・2①～②		2		1	1					
	基礎分子生物学6	1・2①～②		2			1					
	細胞生化学輪講1A	1①～②		2					1			
	細胞生化学輪講1B	1③～④		2					1			
	細胞生化学輪講2A	2①～②		2					1			
	細胞生化学輪講2B	2③～④		2					1			
	生体物質生化学輪講1A	1①～②		2		1				1		

専門科目	分子生物学プログラム	生体物質生化学輪講1B	1③~④	2		1		1		
		生体物質生化学輪講2A	2①~②	2		1		1		
		生体物質生化学輪講2B	2③~④	2		1		1		
		生合成輪講1A	1①~②	2			1			
		生合成輪講1B	1③~④	2			1			
		生合成輪講2A	2①~②	2			1			
		生合成輪講2B	2③~④	2			1			
		環境生物学輪講1A	1①~②	2		1				
		環境生物学輪講1B	1③~④	2		1				
		環境生物学輪講2A	2①~②	2		1				
		環境生物学輪講2B	2③~④	2		1				
		タンパク質科学輪講1A	1①~②	2		1				
		タンパク質科学輪講1B	1③~④	2		1				
		タンパク質科学輪講2A	2①~②	2		1				
		タンパク質科学輪講2B	2③~④	2		1				
		細胞情報学輪講1A	1①~②	2		1				
		細胞情報学輪講1B	1③~④	2		1				
		細胞情報学輪講2A	2①~②	2		1				
		細胞情報学輪講2B	2③~④	2		1				
		遺伝子発現学輪講1A	1①~②	2		1		1		
		遺伝子発現学輪講1B	1③~④	2		1		1		
		遺伝子発現学輪講2A	2①~②	2		1		1		
		遺伝子発現学輪講2B	2③~④	2		1		1		
		分子微生物学輪講1A	1①~②	2			1			
		分子微生物学輪講1B	1③~④	2			1			
		分子微生物学輪講2A	2①~②	2			1			
		分子微生物学輪講2B	2③~④	2			1			
		植物環境科学輪講1A	1①~②	2		1	2			
		植物環境科学輪講1B	1③~④	2		1	2			
		植物環境科学輪講2A	2①~②	2		1	2			
		植物環境科学輪講2B	2③~④	2		1	2			
		微生物脂質科学輪講1A	1①~②	2						1
		微生物脂質科学輪講1B	1③~④	2						1
		微生物脂質科学輪講2A	2①~②	2						1
		微生物脂質科学輪講2B	2③~④	2						1
生体制御学プログラム		生体制御学特別研究1	1通	6		6	3	3		1
		生体制御学特別研究2	2通	6		6	3	3		1
		基礎生体制御学1 (未開講)	1・2③~④	2		1				
		基礎生体制御学2	1・2③~④	2		1				
		基礎生体制御学3	1・2③~④	2			1			
		基礎生体制御学4	1・2③~④	2		1				
		基礎生体制御学5	1・2③~④	2		1				
		微生物学特論 (未開講)	1・2①~②	2			1			
		遺伝学特論	1・2③~④	2		1				
		発生生物学特論1 (未開講)	1・2①~②	2			1			
		発生生物学特論2	1・2①~②	2		1				
		発生生物学特論3	1・2③~④	2			1			
		調節生理学特論1	1・2③~④	2		1				
		調節生理学特論2 (未開講)	1・2③~④	2		1				
		細胞制御学特論1	1・2①~②	2		1				
		適応生理学特論 (未開講)	1・2③~④	2		1				
		生体応答制御学特論 (未開講)	1・2①~②	2						1
		生殖医療学特論	1・2①~②	2						1
		計算機構造創薬特論	1・2①~②	2						1
		微生物学輪講A	1・2②~④	2			1			
		微生物学輪講B	1・2②~④	2			1			
		遺伝学輪講A (未開講)	1・2②~④	2		1				
		遺伝学輪講B (未開講)	1・2②~④	2		1				
		発生生物学輪講1A	1・2②~④	2			1			
		発生生物学輪講1B	1・2②~④	2			1			
		発生生物学輪講2A (未開講)	1・2②~④	2		1				

発生物理学輪講2B (未開講)	1・20～21	2	1							
発生物理学輪講3A (未開講)	1・20～21	2		1						
発生物理学輪講3B (未開講)	1・20～21	2		1						
調節生理学輪講1A (未開講)	1・20～21	2	1							
調節生理学輪講1B (未開講)	1・20～21	2	1							
調節生理学輪講2A	1・20～21	2	1							
調節生理学輪講2B	1・20～21	2	1							
細胞制御学輪講1A	1・20～21	2	1							
細胞制御学輪講1B	1・20～21	2	1							
適応生理学輪講A	1・20～21	2	1							
適応生理学輪講B	1・20～21	2	1							
細胞記憶学輪講A	1・20～21	2							1	
細胞記憶学輪講B	1・20～21	2							1	
生体応答制御学輪講A	1・20～21	2							1	
生体応答制御学輪講B	1・20～21	2							1	
生殖医療学輪講A	1・20～21	2							1	
生殖医療学輪講B	1・20～21	2							1	
腫瘍分子生物学輪講A	1・20～21	2							1	
腫瘍分子生物学輪講B	1・20～21	2							1	
計算機構造創薬輪講A	1・20～21	2							1	
計算機構造創薬輪講B	1・20～21	2							1	
小計（110科目）	—	0	236	0	12	7	1	7	0	11
合計（141科目）	—	0	294	0	12	7	1	7	0	26

卒業要件及び履修方法

生命科学専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）を授与する。

（分子生物学プログラムの修了要件）

分子生物学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 分子生物学特別研究1（6単位）及び分子生物学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 分子生物学プログラムの専門科目から、輪講8単位以上を含む14単位以上を修得すること。
- 3) 2) には、生体制御学プログラムの専門科目における特論を4単位まで含めることができる。
- 4) 1)、2)及び3) で修得すべき26単位以外の4単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（生体制御学プログラムの修了要件）

生体制御学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 生体制御学特別研究1（6単位）及び生体制御学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 生体制御学プログラムの専門科目から、輪講4単位以上を含む12単位以上を修得すること。ただし、輪講は8単位まで修了要件に含めることができる。
- 3) 1)及び2) で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 分子生物学特別研究1（6単位）及び分子生物学特別研究2（6単位）の2科目12単位又は生体制御学特別研究1（6単位）及び生体制御学特別研究2（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2) で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

- （注）
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習D」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論1」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論2」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論3」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論4」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・教員の昇任及び採用により、「分子生物学特別研究1」の専任教員等の配置を「教授5、准教授5、講師1、助教3、兼任・兼任5」から「教授6、准教授4、講師1、助教4、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の昇任及び採用により、「分子生物学特別研究2」の専任教員等の配置を「教授5、准教授5、講師1、助教3、兼任・兼任5」から「教授6、准教授4、講師1、助教4、兼任・兼任5」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子遺伝学特論4」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞情報学特論2」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞情報学特論5」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学特論7」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子細胞学特論3」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子細胞学特論6」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子細胞学特論7」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「基礎分子生物学4」の専任教員の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎分子生物学6」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講1A」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講1A」を新設。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講1B」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講1B」を新設。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講2A」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講2A」を新設。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講2B」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講2B」を新設。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講1A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講1B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講2A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講2B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「微生物学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「微生物学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「遺伝学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「遺伝学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生生物学輪講1A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生生物学輪講1B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生生物学輪講2A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生生物学輪講2B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生生物学輪講3A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生生物学輪講3B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講1A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講1B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講2A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講2B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞制御学輪講1A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞制御学輪講1B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「適応生理学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「適応生理学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞記憶学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞記憶学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生体応答制御学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生体応答制御学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生殖医療学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生殖医療学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「腫瘍分子生物学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「腫瘍分子生物学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「計算機構造創薬輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「計算機構造創薬輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。

【令和5年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習C」の単位数を「1」から「2」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅠ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅡ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論1」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論2」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論3」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子生物学特論4」を隔年開講の集中講義に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生体制御学特論1」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生体制御学特論2」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任及び採用により、「分子生物学特別研究1」の専任教員等の配置を「教授5、准教授5、講師1、助教3、兼任・兼担5」から「教授6、准教授4、講師1、助教4、兼任・兼担7」に変更。
- ・教員の昇任及び採用により、「分子生物学特別研究2」の専任教員等の配置を「教授5、准教授5、講師1、助教3、兼任・兼担5」から「教授6、准教授4、講師1、助教4、兼任・兼担7」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子遺伝学特論4」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞情報学特論2」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞情報学特論5」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学特論7」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子細胞学特論3」を隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「分子細胞学特論4」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子細胞学特論6」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分子細胞学特論7」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「基礎分子生物学4」の専任教員の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「教授2、講師1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎分子生物学6」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講1A」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼担1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講1A」を新設。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講1B」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼担1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講1B」を新設。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講2A」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼担1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講2A」を新設。
- ・教員の昇任により、「タンパク質科学輪講2B」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼担1」から「教授1」に変更し、「微生物脂質科学輪講2B」を新設。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講1A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講1B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講2A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「細胞情報学輪講2B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の採用及び配置換えにより、「生体制御学特別研究1」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、助教3、兼任・兼担1」から「教授6、准教授3、助教3、兼任・兼担2」に変更。
- ・教員の採用及び配置換えにより、「生体制御学特別研究2」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、助教3、兼任・兼担1」から「教授6、准教授3、助教3、兼任・兼担2」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎生体制御学2」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎生体制御学5」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生病学特論1」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2通」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学特論2」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「微生物学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「微生物学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「遺伝学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「遺伝学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生病学輪講1A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生病学輪講1B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生病学輪講2A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生病学輪講2B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生病学輪講3A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「発生病学輪講3B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講1A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講1B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講2A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「調節生理学輪講2B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞制御学輪講1A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞制御学輪講1B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「適応生理学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「適応生理学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞記憶学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「細胞記憶学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生体応答制御学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生体応答制御学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生殖医療学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生殖医療学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「腫瘍分子生物学輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「腫瘍分子生物学輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「計算機構造創薬輪講A」の配当年次を「1通」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「計算機構造創薬輪講B」の配当年次を「2通」から「1・2③～④」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	133 科目	0 科目	133 科目	0 科目 [0]	143 科目 [10]	0 科目 [0]	143 科目 [10]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	国際教育特別演習Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
2	分子生物学特論1	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
3	分子生物学特論2	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
4	生体制御学特論1	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
5	生体制御学特論2	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
6	分子遺伝学特論3	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
7	分子遺伝学特論4	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
8	細胞情報学特論2	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
9	細胞情報学特論6	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
10	分子細胞学特論3	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
11	分子細胞学特論6	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
12	分子細胞学特論7	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
13	基礎生体制御学2	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
14	基礎生体制御学4	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
15	遺伝学特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
16	発生生物学特論2	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
17	発生生物学特論3	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
18	生殖医療学特論	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
19	微生物学輪講A	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
20	微生物学輪講B	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
21	発生生物学輪講1A	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
22	発生生物学輪講1B	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
23	調節生理学輪講2A	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
24	調節生理学輪講2B	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
25	細胞制御学輪講1A	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
26	細胞制御学輪講1B	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
27	適応生理学輪講A	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
28	適応生理学輪講B	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
29	生体応答制御学輪講A	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
30	生体応答制御学輪講B	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
31	腫瘍分子生物学輪講A	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
32	腫瘍分子生物学輪講B	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>

隔年開講科目：令和6年度開講予定。

<学生への周知方法>

オンラインツール（WEB教務システム及びWEBシラバス）及びガイダンスにより周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{32}{133} = \boxed{24.06} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	
	校 舎 敷 地	167,509 m ²	0 m ²	0 m ²	167,509 m ²	
	運動場用地	95,531 m ²	0 m ²	0 m ²	95,531 m ²	
	小 計	263,040 m ²	0 m ²	0 m ²	263,040 m ²	
	そ の 他	131,515 m ²	0 m ²	0 m ²	131,515 m ²	
	合 計	394,555 m ²	0 m ²	0 m ²	394,555 m ²	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	
		140,745 m ² (140,745 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	140,745 m ² (140,745 m ²)	
(3) 教 室 等		講 義 室 92 室	演 習 室 87 93 97 室	実験実習室 279 270 272 室	情報処理学習施設 4 室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 2 室 (補助職員 0 人)
		新設学部等の名称			室 数	
(4) 専任教員研究室		理工学研究科 生命科学専攻			27 26 室	
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕点	視聴覚資料 点	機械・器具 点
	理工学研究科 生命科学専攻	903,761 [276,939] (906,343 [276,784])	22,199 [5,564] (22,345 [5,589])	13,541 [13,530] (13,914 [13,901])	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)
	計	903,761 [276,939] (906,343 [276,784])	22,199 [5,564] (22,345 [5,589])	13,541 [13,530] (13,914 [13,901])	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数	大学全体	
		8,439 m ²	919	911,944 917,969 918,333	書架増設のため(4) 書架増設のため(5)	
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体
		4,474 m ²	野球場	テニスコート 他		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次
		千円	千円	千円	千円	千円
		学生納付金以外の維持方法の概要				

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 学 校 名	埼 玉 大 学										平均入学定員 超過率0.7倍以 下の学科数	0	平均入学定員 超過率1.15倍 以上の学科数	0	収容定員充足 率0.7倍以下の 学科数	0	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数	1
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考					
教養学部	年	人	年次 人	人	—	倍	倍	倍	倍	年度	年度							
教養学科	4	160	3年次 30	700	学士 (教養)	1.05	—	1.11	1.04	—	昭和40	埼玉県さいたま市 桜区下大久保255						
経済学部	4	295	3年次 10	1,200	—	1.06	—	1.11	1.06	—								
経済学科(昼間コース)	4	280	3年次 10	1,140	学士 (経済学)	1.06	—	1.12	1.07	—	平成27	同上						
経済学科(夜間主コース)	4	15	—	60	学士 (経済学)	1.04	—	0.93	0.86	—	平成27	同上						
教育学部	4	380	—	1,520	—	1.02	1.02	1.05	1.03	—								
学校教育教員養成 課程	4	360	—	1,440	学士 (教育学)	1.02	1.02	1.05	1.03	—	平成11	同上						
養護教諭養成課程	4	20	—	80	学士 (教育学)	1.02	—	1.05	1.03	—	平成18	同上						
理学部	4	210	—	840	—	1.04	—	1.05	1.01	—								
数学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.09	—	1.15	1.07	—	平成7	同上						
物理学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.04	—	1.01	0.98	—	平成7	同上						
基礎化学科	4	50	—	200	学士 (理学)	1.04	—	1.03	1.00	—	平成7	同上						
分子生物学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.01	—	1.02	0.98	—	平成7	同上						
生体制御学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.03	—	1.03	1.02	—	平成7	同上						
工学部	4	490	—	1,960	—	1.01	1.01	1.07	1.02	—								
機械工学・システ ムデザイン学科	4	110	—	440	学士 (工学)	1.03	—	1.13	1.05	—	平成30	同上						
電気電子物理工学 科	4	110	—	440	学士 (工学)	0.99	—	1.07	0.99	—	平成30	同上						
情報工学科	4	80	—	320	学士 (工学)	1.04	1.03	1.06	1.02	—	平成30	同上						
応用化学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.00	—	1.02	0.98	—	平成30	同上						
環境社会デザイン 学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.02	1.02	1.07	1.04	—	平成30	同上						
大学全体	4	1,535	3年次 40	6,220	—	—	—	—	—	—	—	—						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜理工学研究科 生命科学専攻＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専 教授		川合 真紀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		川合 真紀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		川合 真紀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論1【隔年】 基礎分子生物学5※ 植物環境科学特論1A 植物環境科学特論1B 植物環境科学特論2A 植物環境科学特論2B			分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論1【隔年】 基礎分子生物学5※ 植物環境科学特論1A 植物環境科学特論1B 植物環境科学特論2A 植物環境科学特論2B			分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論1【隔年】 基礎分子生物学5※ 植物環境科学特論1A 植物環境科学特論1B 植物環境科学特論2A 植物環境科学特論2B
専 教授		小竹 敬久 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専 教授		小竹 敬久 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専 教授		小竹 敬久 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論6 生体物質生化学特論1A 生体物質生化学特論1B 生体物質生化学特論2A 生体物質生化学特論2B			分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論6【隔年】 生体物質生化学特論1A 生体物質生化学特論1B 生体物質生化学特論2A 生体物質生化学特論2B			分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論6【隔年】 生体物質生化学特論1A 生体物質生化学特論1B 生体物質生化学特論2A 生体物質生化学特論2B
専 教授		戸澤 諒 ＜令和4年4月＞ 博士(農学)	専 教授		戸澤 諒 ＜令和4年4月＞ 博士(農学)	専 教授		戸澤 諒 ＜令和4年4月＞ 博士(農学)
		分子生物学特論1 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論3 基礎分子生物学1※ タンパク質科学特論1A タンパク質科学特論1B タンパク質科学特論2A タンパク質科学特論2B			分子生物学特論1【隔年】 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論3【隔年】 基礎分子生物学1※ タンパク質科学特論1A タンパク質科学特論1B タンパク質科学特論2A タンパク質科学特論2B			分子生物学特論1【隔年】 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論3【隔年】 基礎分子生物学1※ タンパク質科学特論1A タンパク質科学特論1B タンパク質科学特論2A タンパク質科学特論2B
専 教授		西山 佳孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専 教授		西山 佳孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専 教授		西山 佳孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		分子生物学特論3 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論2 生命科学特別講義 基礎分子生物学4※ 環境生物学特論1A 環境生物学特論1B 環境生物学特論2A 環境生物学特論2B			分子生物学特論3【隔年】 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論2【隔年】 生命科学特別講義 基礎分子生物学4※ 環境生物学特論1A 環境生物学特論1B 環境生物学特論2A 環境生物学特論2B			分子生物学特論3【隔年】 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論2【隔年】 生命科学特別講義 基礎分子生物学4※ 環境生物学特論1A 環境生物学特論1B 環境生物学特論2A 環境生物学特論2B
専 教授		日原 由香子 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		日原 由香子 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		日原 由香子 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		分子生物学特論2 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論5【隔年】 生命科学特別講義 基礎分子生物学1※ 遺伝子発現学特論1A 遺伝子発現学特論1B 遺伝子発現学特論2A 遺伝子発現学特論2B			分子生物学特論2【隔年】 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論5【隔年】 生命科学特別講義 基礎分子生物学1※ 遺伝子発現学特論1A 遺伝子発現学特論1B 遺伝子発現学特論2A 遺伝子発現学特論2B			分子生物学特論2【隔年】 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論5【隔年】 生命科学特別講義 基礎分子生物学1※ 遺伝子発現学特論1A 遺伝子発現学特論1B 遺伝子発現学特論2A 遺伝子発現学特論2B
専 教授		小林 哲也 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		小林 哲也 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		小林 哲也 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学4【隔年】 調節生理学特論2【隔年】 調節生理学特論2A【隔年】 調節生理学特論2B【隔年】			生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学4【隔年】 調節生理学特論2【隔年】 調節生理学特論2A【隔年】 調節生理学特論2B【隔年】			生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学4【隔年】 調節生理学特論2【隔年】 調節生理学特論2A【隔年】 調節生理学特論2B【隔年】
専 教授		坂田 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		坂田 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		坂田 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学5 細胞制御学特論1【隔年】 細胞制御学特論1A【隔年】 細胞制御学特論1B【隔年】			生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学5 細胞制御学特論1【隔年】 細胞制御学特論1A【隔年】 細胞制御学特論1B【隔年】			生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学5 細胞制御学特論1【隔年】 細胞制御学特論1A【隔年】 細胞制御学特論1B【隔年】
専 教授		竹澤 大輔 ＜令和4年4月＞ Ph.D.(アメリカ合衆国)	専 教授		竹澤 大輔 ＜令和4年4月＞ Ph.D.(アメリカ合衆国)	専 教授		竹澤 大輔 ＜令和4年4月＞ Ph.D.(アメリカ合衆国)
		生体制御学特論1 生体制御学特論2 生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学2 適応生理学特論A【隔年】 適応生理学特論B【隔年】			生体制御学特論1 生体制御学特論2 生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学2 適応生理学特論A【隔年】 適応生理学特論B【隔年】			生体制御学特論1【隔年】 生体制御学特論2【隔年】 生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学2【隔年】 適応生理学特論A【隔年】 適応生理学特論B【隔年】
専 教授		田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学1【隔年】 遺伝学特論A【隔年】 遺伝学特論B【隔年】			生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学1【隔年】 遺伝学特論A【隔年】 遺伝学特論B【隔年】			生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2 基礎生体制御学1【隔年】 遺伝学特論A【隔年】 遺伝学特論B【隔年】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		インターンシップ 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子遺伝学特論4 生命科学特別講義 基礎分子生物学4※ 細胞生化学特論1A 細胞生化学特論1B 細胞生化学特論2A 細胞生化学特論2B
専 助教		高橋 大輔 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 生体物質生化学特論1A 生体物質生化学特論1B 生体物質生化学特論2A 生体物質生化学特論2B
専 助教		高橋 朋子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 遺伝子発現学特論1A 遺伝子発現学特論1B 遺伝子発現学特論2A 遺伝子発現学特論2B
専 助教		高橋 拓子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
専 助教		井上 悠子 ＜令和4年4月＞ 博士（食品栄養科学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
専 助教		竹見 祥大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
専 助教		吉原 亮平 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任 教授		新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 修士（工学）
		課題解決型特別演習A
兼任 教授		寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		インターンシップ 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子遺伝学特論4【隔年】 生命科学特別講義 基礎分子生物学4※ 細胞生化学特論1A 細胞生化学特論1B 細胞生化学特論2A 細胞生化学特論2B
専 助教		高橋 大輔 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 生体物質生化学特論1A 生体物質生化学特論1B 生体物質生化学特論2A 生体物質生化学特論2B
専 助教		高橋 朋子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 遺伝子発現学特論1A 遺伝子発現学特論1B 遺伝子発現学特論2A 遺伝子発現学特論2B
専 助教		高橋 拓子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
専 助教		野村 勇太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
専 助教		井上 悠子 ＜令和4年4月＞ 博士（食品栄養科学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
専 助教		竹見 祥大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
専 助教		吉原 亮平 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任 教授		新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任 教授		寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		インターンシップ 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子遺伝学特論4【隔年】 生命科学特別講義 基礎分子生物学4※ 細胞生化学特論1A 細胞生化学特論1B 細胞生化学特論2A 細胞生化学特論2B
専 助教		高橋 大輔 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 生体物質生化学特論1A 生体物質生化学特論1B 生体物質生化学特論2A 生体物質生化学特論2B
専 助教		高橋 朋子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 遺伝子発現学特論1A 遺伝子発現学特論1B 遺伝子発現学特論2A 遺伝子発現学特論2B
専 助教		高橋 拓子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
専 助教		野村 勇太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
専 助教		竹見 祥大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
専 助教		吉原 亮平 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
専 助教		川出 健介 ＜令和5年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任 教授		新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任 教授		寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授 (研究科長)	黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学博士 課題解決型特別演習C
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習
兼任	講師	松岡 聡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子遺伝学特論6【隔年】 タンパク質科学特論1A タンパク質科学特論1B タンパク質科学特論2A タンパク質科学特論2B
兼任	助教	古館 宏之 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任	連携教授	今本 尚子 ＜令和4年4月＞ 医学博士 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論5
兼任	連携教授	鈴木 匡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論7
兼任	連携教授	高橋 俊二 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論4【隔年】
兼任	連携教授	堂前 直 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論6【隔年】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学博士 課題解決型特別演習C
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士（工学） 課題解決型特別演習D
兼任	教授	石川 能幸 ＜令和4年8月＞ 経営学士 課題解決型特別演習E
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
兼任	准教授	松岡 聡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子遺伝学特論6【隔年】 微生物脂質科学特論1A 微生物脂質科学特論1B 微生物脂質科学特論2A 微生物脂質科学特論2B
兼任	助教	古館 宏之 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任	連携教授	今本 尚子 ＜令和4年4月＞ 医学博士 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論5【隔年】
兼任	連携教授	鈴木 匡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論7【隔年】
兼任	連携教授	高橋 俊二 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論4【隔年】
兼任	連携教授	堂前 直 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論6【隔年】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士（工学） 課題解決型特別演習DⅠ 課題解決型特別演習DⅡ
兼任	教授	石川 能幸 ＜令和4年8月＞ 経営学士 課題解決型特別演習E
兼任	教授	土屋 政幸 ＜令和5年4月＞ 医学博士 課題解決型特別演習C
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
兼任	准教授	松岡 聡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子遺伝学特論6【隔年】 微生物脂質科学特論1A 微生物脂質科学特論1B 微生物脂質科学特論2A 微生物脂質科学特論2B
兼任	准教授	米山 香織 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	古館 宏之 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任	助教	金谷 萌子 ＜令和5年4月＞ 博士（理学） 生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任	連携教授	今本 尚子 ＜令和4年4月＞ 医学博士 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論5【隔年】
兼任	連携教授	鈴木 匡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論7【隔年】
兼任	連携教授	高橋 俊二 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論4【隔年】
兼任	連携教授	堂前 直 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 細胞情報学特論6【隔年】
兼任	連携教授	関 原明 ＜令和5年4月＞ 博士（理学） 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 分子細胞学特論4【隔年】

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

・令和4年4月 野村勇太助教就任。

【令和5年度】

・井上悠子助教辞任により、川出健介助教就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
8	6	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
11	8	1	6	26	0	12	7	1	7	27	0
(12)	(7)	(1)	(7)	(27)	(0)						
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
20	11	6	0		20	12	7	0			
(20)	(12)	(7)	(0)		(20)	(12)	(7)	(0)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
12	7	1	7	27	0	12	7	1	7	27	0
[1]	[Δ1]	[0]	[1]	[1]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[1]	[1]	[0]
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
20	12	7	0		20	12	7	0			
[0]	[1]	[1]	[0]		[0]	[1]	[1]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{26} = \boxed{103.84} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{27} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	助教	井上 悠子	R5.3	選択	生体制御学特別研究1	①	R5.3.31付け任期満了のため辞任（5）						
				選択	生体制御学特別研究2	①							
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計 (D) + (F)						後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{26} = 3.84 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>
 対象科目は複数の教員で担当する科目であるため、専攻内の専任教員が代替しており教育上の問題はない。

<学生への周知方法>
 学生に対しては、オンラインツール (WEB教務システム及びWEBシラバス) により周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年度)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和４年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和４年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

【令和４年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和４年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。

【令和５年度から新たに調査対象となった学科等又は令和４年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜理工学研究科 生命科学専攻＞

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教育部長、副教育部長、各プログラム選出の教員からなる教育企画委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

必要に応じて随時（年2～3回程度）開催している。案件によりメール等での意見交換を随時行っている。

c 委員会の審議事項等

FD活動の企画及び実施に関する事項、FDに関する必要事項の他、研究科教育カリキュラムに係る事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ FDに関連した講演会
- ・ 学生による授業評価アンケート結果の共有
- ・ 新任教員のための研修会（全学的に実施）

b 実施方法

全教員を対象としたFDシンポジウムや学生による授業評価結果を共有し資質向上を図ることとしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

毎年度定期的に開催している。教員全員がいずれかの機会に参加できるように周知している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

アンケート結果などにより各教員へ周知し、授業改善への取組を促している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に全学的に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全教員に対して評価結果を配付し、学生からの意見をフィードバックしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

入学定員の充足状況、教員の配置状況、施設・設備の整備状況、教育課程の編成状況など、いずれも当初の計画に沿って着実に実施している。特に新たに開設した特別教育プログラムを含めた人材育成に重点的に取り組んでいる。今後も設置の趣旨・目的に沿って確実に実施すると共に、教育・研究の水準の向上に取り組んでいく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年10月頃 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和6年10月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和5年度に評価機関（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [☐ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☐ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☐ ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 物質科学専攻 （博士前期課程）

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ……」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜物質科学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名 埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570
埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		
専攻長	(タニイ ヨシアキ) 谷井 義彰 (令和4年4月)	(スズキ タケシ) 鈴木 健 (令和5年4月)	任期満了のため 令和5年4月1日(5)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
理工学研究科 物質科学専攻 修士(理学) 修士(工学)	理学関係 工学関係	2 年	114 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	228 人	—	基礎となる学部 理学部 工学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 114 () []	人 114 () []	人 114 () []	人 () []	1.13 倍	—	1.14 倍	—	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	146 () [1]	5 () [4]	170 () [9]	() []					
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	135 () [1]	3 () [2]	155 () [6]	() []					
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	126 () [0]	2 () [1]	144 () [5]	() []					
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	122 () [0]	2 () [1]	136 () [5]	() []					
入学定員超過率 B / A	—		—		—		—		1.08		1.19						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	122 [0] (—)	2 [1] (—)	136 [5] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	120 [0] (—)	2 [1] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	124 [1] (—)		258 [6] (—)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
令和元年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
令和2年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
令和3年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
令和4年度	124 人	2 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	2 人	0 人	進路変更(1人)、除籍(1人)
令和5年度	258 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		2 人		2 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{124} = \boxed{1.61} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{258} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<理工学研究科 物質科学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②		1								1
	特別研修A1	1・2通		1								1
	特別研修A2	1・2通		2								1
	特別研修A3	1・2通		3								1
	特別研修A4	1・2通		4								1
	特別研修B1	1・2通		1								1
	特別研修B2	1・2通		2								1
	特別研修B3	1・2通		3								1
	特別研修B4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習A	1・2①～②		2								1
課題解決型特別演習B	1・2①～②		2								1	
課題解決型特別演習C	1・2③		1		1							
	小計（17科目）	—	0	34	0	1	0	0	0	0	9	
専攻 共通 科目	有機金属錯体化学特論	1・2③～④		2								1
	精密有機合成化学特論	1・2①～②		2								1
	分光基礎論	1・2③～④		2								1
	界面ナノ分光特論	1・2③～④		2								1
	インターンシップⅠ	1・2通		1		1						
	インターンシップⅡ	1・2通		2		1						
	小計（6科目）	—	0	11	0	1	2	0	0	0	4	
物理 学 プ ロ ゲ	有機導体特論Ⅰ	1・2③～④		2			1					
	有機導体特論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	希土類化合物特論Ⅰ	1・2③		2			1					
	希土類化合物特論Ⅱ	1・2③		2			1					
	構造解析特論Ⅰ	1・2④		2						1		
	構造解析特論Ⅱ	1・2④		2						1		
	素粒子論Ⅰ	1・2③～④		2			1					
	素粒子論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	場の理論Ⅰ	1・2①～②		2		1						
	場の理論Ⅱ	1・2①～②		2		1						
	核物理学特論Ⅰ	1・2③～④		2						1		
	核物理学特論Ⅱ	1・2③～④		2						1		
	核物理学特論Ⅲ	1・2①～②		2		1						
	核物理学特論Ⅳ	1・2①～②		2		1						
	核物理学特論Ⅴ	1・2①～②		2			1					
	核物理学特論Ⅵ	1・2①～②		2			1					
	宇宙物理学特論Ⅰ	1・2③～④		2			1					
	宇宙物理学特論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	天体物理学特論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	天体物理学特論Ⅱ	1・2①～②		2			1					
	物性物理学特論Ⅰ	1・2③～④		2						1		
物性物理学特論Ⅱ	1・2③～④		2						1			
量子物性学特論Ⅰ	1・2③～④		2						1			

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～③		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ（未開講）	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ	1・2①		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～③		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～③		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～③		1								1
	特別研修A1	1・2通		1								1
	特別研修A2	1・2通		2								1
	特別研修A3	1・2通		3								1
	特別研修A4	1・2通		4								1
	特別研修B1	1・2通		1								1
	特別研修B2	1・2通		2								1
	特別研修B3	1・2通		3								1
	特別研修B4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～③		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2①～②		2								1
課題解決型特別演習DⅠ	1・2①～③		2								1	
課題解決型特別演習DⅡ	1・2③～④		2								1	
課題解決型特別演習E	1・2③～④		2								1	
小計（22科目）	－	0	45	0	0	0	0	0	0	0	12	
専攻 共通科目	有機金属錯体化学特論（未開講）	1・2③～④		2								1
	精密有機合成化学特論	1・2①～②		2								1
	分光基礎論（未開講）	1・2③～④		2								1
	界面ナノ分光特論（未開講）	1・2③～④		2								1
	インターンシップⅠ	1・2通		1		1	2					
	インターンシップⅡ	1・2通		2		1	2					
	小計（6科目）	－	0	11	0	1	2	0	0	0	4	
物理 学 プ ロ グ	有機導体特論Ⅰ	1・2③～④		2			1					
	有機導体特論Ⅱ（未開講）	1・2③～④		2			1					
	希土類化合物特論Ⅰ（未開講）	1・2③		2			1					
	希土類化合物特論Ⅱ	1・2①～③		2			1					
	構造解析特論Ⅰ（未開講）	1・2②		2								1
	構造解析特論Ⅱ	1・2②		2								1
	素粒子論Ⅰ	1・2③～④		2				1				
	素粒子論Ⅱ（未開講）	1・2③～④		2				1				
	場の理論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	場の理論Ⅱ（未開講）	1・2①～②		2			1					
	核物理学特論Ⅰ（未開講）	1・2③～④		2						1		
	核物理学特論Ⅱ	1・2③～④		2						1		
	核物理学特論Ⅲ（未開講）	1・2①～②		2			1					
	核物理学特論Ⅳ	1・2①～②		2			1					
	核物理学特論Ⅴ	1・2①～②		2			1					
	核物理学特論Ⅵ（未開講）	1・2①～②		2			1					
	宇宙物理学特論Ⅰ	1・2③～④		2				1				
	宇宙物理学特論Ⅱ（未開講）	1・2③～④		2				1				
	天体物理学特論Ⅰ	1・2①～②		2				1				
	天体物理学特論Ⅱ（未開講）	1・2①～②		2				1				
物性物理学特論Ⅰ	1・2①～③		2				1					
物性物理学特論Ⅱ（未開講）	1・2③～④		2				1					
量子物性学特論Ⅰ	1・2③～④		2						1			

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程共通科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・3③～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ(未開講)	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・3③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・3③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・3③～④		1								1
	特別研修AⅠ	1・2通		1								1
	特別研修AⅡ	1・2通		2								1
	特別研修AⅢ	1・2通		3								1
	特別研修AⅣ	1・2通		4								1
	特別研修BⅠ	1・2通		1								1
	特別研修BⅡ	1・2通		2								1
	特別研修BⅢ	1・2通		3								1
	特別研修BⅣ	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②・③		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	課題解決型特別演習D	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習E	1・2①～②		2								1
小計(21科目)	—	0	42	0	0	0	0	0	0	0	12	
専攻共通科目	有機金属錯体化学特論	1・2③～④		2								1
	精密有機合成化学特論(未開講)	1・2①～②		2								1
	分光基礎論	1・2③～④		2								1
	界面ナノ分光特論	1・2③～④		2								1
	インターンシップⅠ	1・2通		1		1	2					
	インターンシップⅡ	1・2通		2		1	2					
	小計(6科目)	—	0	11	0	1	2	0	0	0	4	
物理学プログラム	有機導体特論Ⅰ(未開講)	1・2③～④		2		1						
	有機導体特論Ⅱ	1・2③～④		2		1						
	希土類化合物特論Ⅰ	1・2③		2		1						
	希土類化合物特論Ⅱ(未開講)	1・2③		2		1						
	構造解析特論Ⅰ	1・2②		2								1
	構造解析特論Ⅱ(未開講)	1・2④		2								1
	素粒子論Ⅰ(未開講)	1・2③～④		2								
	素粒子論Ⅱ(未開講)	1・2③～④		2								
	場の理論Ⅰ(未開講)	1・2①～②		2		1						
	場の理論Ⅱ	1・2①～②		2		1						
	核物理学特論Ⅰ	1・2③～④		2					1			
	核物理学特論Ⅱ(未開講)	1・2③～④		2					1			
	核物理学特論Ⅲ	1・2①～②		2		1						
	核物理学特論Ⅳ(未開講)	1・2①～②		2		1						
	核物理学特論Ⅴ(未開講)	1・2①～②		2			1					
	核物理学特論Ⅵ	1・2①～②		2			1					
	宇宙物理学特論Ⅰ(未開講)	1・2③～④		2			1					
	宇宙物理学特論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	天体物理学特論Ⅰ(未開講)	1・2①～②		2			1					
	天体物理学特論Ⅱ	1・2①～②		2			1					
	物性物理学特論Ⅰ(未開講)	1・2③～④		2						1		
	物性物理学特論Ⅱ	1・2③～④		2						1		
	量子物性学特論Ⅰ(未開講)	1・2③～④		2						1		
	量子物性学特論Ⅱ	1・2③～④		2						1		
	磁性物理学特論Ⅰ(未開講)	1・2①～②		2			1					
	磁性物理学特論Ⅱ	1・2①～②		2			1					
	観測天文学特論Ⅰ	1・2通		2								1
観測天文学特論Ⅱ(未開講)	1・2通		2								1	
物理学特論AⅠ(未開講)	1・2①～②		1		1							
物理学特論AⅡ	1・2①～②		1		1							
物理学特論BⅠ(未開講)	1・2①～②		1		1							
物理学特論BⅡ	1・2①～②		1		1							

専門科目	基礎化学プログラム	物理学特論 C I (未開講)	1・20~2	1	1						
		物理学特論 C II	1・20~2	1	1						
		物理学特論 D I (未開講)	1・20~2	1	1						
		物理学特論 D II	1・20~2	1	1						
		物理学特別研究1	1通	6	5	5	3	5			
		物理学特別研究2	2通	6	5	5	3	5			
		物理学輪講 I	1・2通	3	5	5	3	5			
		物理学輪講 II	1・2通	3	5	5	3	5			
	基礎化学プログラム	量子化学特論	1・20~2	2	1						
		反応解析特論	1・20~4	2	1						
		磁気共鳴化学特論 (未開講)	1・20~2	2		1					
		有機反応化学特論 (未開講)	1・20~2	2	1						
		有機立体化学特論	1・20~4	2		1					
		有機典型元素化学特論 (未開講)	1・20~2	2	1						
		天然物化学特論 (未開講)	1・20~4	2			1				
		無機化学特論 (未開講)	1・20~2	2	1						
		構造錯体化学特論	1・20~4	2					1		
		結晶化学特論	1・20~2	2			1				
		有機元素化学特論 I	1・20~4	2		1					
電子スピン化学特論		1・20~4	2		1						
基礎化学特論 I a		1・20~2	1		1						
基礎化学特論 I b (未開講)		1・20~4	1		1						
基礎化学特論 II a		1・20~4	1			1					
基礎化学特論 II b (未開講)		1・20~4	1					1			
基礎化学特論 III a		1・20~4	1	1							
基礎化学特論 III b (未開講)	1・20~4	1	1								
基礎化学特別研究	1~2通	12	5	4	2	3	1				
基礎化学輪講 I a (未開講)	1・20~4	1	5	4	2		1				
基礎化学輪講 I b (未開講)	1・20~4	1	5	4	2		1				
基礎化学輪講 II a	1・20~4	1	5	4	2		1				
基礎化学輪講 II b	1・20~4	1	5	4	2		1				
応用化学プログラム	触媒工業化学特論 I (未開講)	1・20~2	2						1		
	触媒工業化学特論 II	1・20~4	2		1						
	無機材料化学特論	1・20~4	2		1						
	無機固体化学特論 (未開講)	1・20~2	2	1							
	化学工学特論	1・20~4	2		1						
	高分子工業化学特論 (未開講)	1・20~2	2						1		
	分析化学特論 I	1・20~2	2	1							
	線形レーザー分光化学特論 (未開講)	1・20~4	2	1							
	生体分子分光化学特論	1・20~2	2		1						
	機能分子合成特論	1・20~2	2	1							
	有機材料化学特論	1・20~2	2			1					
	有機元素化学特論 (未開講)	1・20~4	2		1						
	有機合成化学特論 I	1・20~2	2	1							
	有機合成化学特論 II (未開講)	1・20~4	2			1					
	有機合成反応特論 (未開講)	1・20~4	2		1						
	分子構造解析特論	1・20~4	2		1						
	生物物理化学特論	1・20~2	2	1							
	生体分子工学特論	1・20~4	2		1						
	界面組織体化学特論	1・20~4	2		1						
	超分子化学特論	1・20~4	2		1						
	資源循環制御科学	1・20~4	2	1							
	環境化学技術特論	1・20~4	2	1							
	応用化学特論 I	1①~②	1			1					
	応用化学特論 II	1③~④	1			1					
	応用化学特論 III	1③~④	1	1	5	2					
	応用化学特別研究	1~2通	12	8	10	2	6	1			
応用化学輪講 I	1通	2	8	10	2		1				
応用化学輪講 II	2通	2	8	10	2		1				
小計 (9 1 科目)	—	0	191	0	18	19	4	12	0	7	
合計 (1 1 8 科目)		—	0	244	0	18	19	4	12	0	24

卒業要件及び履修方法

物質科学専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）又は修士（工学）を授与する。

（物理学プログラムの修了要件）

物理学プログラムを履修する学生にあつては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 物理学特別研究Ⅰ（6単位）、物理学輪講Ⅰ（3単位）及び物理学輪講Ⅱ（3単位）の3科目12単位を修得すること。
- 2) 物理学プログラムの専門科目から12単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（基礎化学プログラムの修了要件）

基礎化学プログラムを履修する学生にあつては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 基礎化学特別研究（12単位）、基礎化学輪講Ⅰa（1単位）、基礎化学輪講Ⅰb（1単位）、基礎化学輪講Ⅱa（1単位）及び基礎化学輪講Ⅱb（1単位）の5科目16単位を修得すること。
- 2) 基礎化学プログラムの専門科目から4単位以上を修得すること。
- 3) 専攻共通科目及び専門科目から4単位以上を修得すること。
- 4) 1)、2)及び3)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（応用化学プログラムの修了要件）

応用化学プログラムを履修する学生にあつては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 応用化学特別研究（12単位）、応用化学輪講Ⅰ（2単位）及び応用化学輪講Ⅱ（2単位）の3科目16単位を修得すること。
- 2) 応用化学プログラムの専門科目から4単位以上を修得すること。
- 3) 専攻共通科目及び専門科目から4単位以上を修得すること。
- 4) 1)、2)及び3)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあつては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 物理学特別研究Ⅰ（6単位）、物理学輪講Ⅰ（3単位）及び物理学輪講Ⅱ（3単位）の3科目12単位、基礎化学特別研究（12単位）の1科目12単位又は応用化学特別研究（12単位）の1科目12単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

- （注）
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。**
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「課題解決型特別演習C」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習D」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「有機金属錯体化学特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「精密有機合成化学特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分光基礎論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「界面ナノ分光特論」を隔年開講に変更。
- ・講義分担の変更により、「インターシップⅠ」の担当教員を「教授1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・講義分担の変更により、「インターシップⅡ」の担当教員を「教授1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・教員の昇任により、「有機導体特論Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「有機導体特論Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「希土類化合物特論Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「希土類化合物特論Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「構造解析特論Ⅰ」の配当年次を「1・2④」から「1・2②」に変更し、教員の配置換えにより、専任教員等の配置を「助教1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「構造解析特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の退職により、「素粒子論Ⅰ」の後任を検討中。
- ・教員の退職により、「素粒子論Ⅱ」の後任を検討中。
- ・教員の配置換えにより、「磁性物理学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「磁性物理学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「物理学特論DⅠ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「物理学特論DⅡ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学特別研究1」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授5、准教授5、助教3、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学特別研究2」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授5、准教授5、助教3、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授5、准教授5、助教3、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授5、准教授5、助教3、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「構造錯体化学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「有機元素化学特論Ⅰ」を新設。
- ・教員の昇任により、「電子スピピン化学特論」を新設。
- ・講義分担の変更により、「基礎化学特論Ⅰa」の担当教員を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学特論Ⅱa」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更し、講義分担の変更により、担当教員を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「基礎化学特論Ⅱb」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学特論Ⅲa」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び配置換えにより、「基礎化学特別研究」の専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2、助教4」から「教授5、准教授4、講師2、助教3、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅰa」の配当年次を「1①～②」から「1・2①～②」に変更し、教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅰb」の配当年次を「1③～④」から「1・2③～④」に変更し、教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅱa」の配当年次を「2①～②」から「1・2①～②」に変更し、教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅱb」の配当年次を「2③～④」から「1・2③～④」に変更し、・教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「触媒工業化学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「高分子工業化学特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「有機材料化学特論」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「講師1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「超分子化学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「資源循環制御科学」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「環境化学技術特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「応用化学特論Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授5、講師1、兼任・兼任1」から「教授1、准教授5、講師2」に変更。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「応用化学特別研究」の専任教員等の配置を「教授8、准教授11、講師1、助教6、兼任・兼任1」から「教授8、准教授10、講師2、助教6、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「応用化学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授8、准教授11、講師1、兼任・兼任1」から「教授8、准教授10、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「応用化学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授8、准教授11、講師1、兼任・兼任1」から「教授8、准教授10、講師2、兼任・兼任1」に変更。

【令和5年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習C」の単位数を「1」から「2」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更し、教員の配置換えにより、専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅠ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅡ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「有機金属錯体化学特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「精密有機合成化学特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「分光基礎論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「界面ナノ分光特論」を隔年開講に変更。
- ・講義分担の変更により、「インターンシップⅠ」の担当教員を「教授1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・講義分担の変更により、「インターンシップⅡ」の担当教員を「教授1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・教員の昇任により、「有機導体特論Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「有機導体特論Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「希土類化合物特論Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「希土類化合物特論Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「構造解析特論Ⅰ」の配当年次を「1・2④」から「1・2②」に変更し、教員の配置換えにより、専任教員等の配置を「助教1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「構造解析特論Ⅱ」の配当年次を「1・2④」から「1・2②」に変更し、教員の配置換えにより、専任教員等の配置を「助教1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「核物理学特論Ⅴ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「核物理学特論Ⅵ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「物理物理学特論Ⅰ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更し、教員の昇任により、専任教員等の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「物理物理学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「磁性物理学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「磁性物理学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「観測宇宙物理学特論Ⅰ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「観測宇宙物理学特論Ⅱ」を新設。
- ・教員の昇任により、「物理学特論DⅠ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「物理学特論DⅡ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学特別研究1」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授6、准教授6、助教2、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学特別研究2」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授6、准教授6、助教2、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授6、准教授6、助教2、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「物理学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授3、准教授6、助教5、兼任・兼任5」から「教授6、准教授6、助教2、兼任・兼任5」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「構造錯体化学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「有機元素化学特論Ⅰ」を新設。
- ・教員の昇任により、「電子スピン化学特論」を新設。
- ・講義分担の変更により、「基礎化学特論Ⅰa」の担当教員を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学特論Ⅰb」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学特論Ⅱa」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更し、講義分担の変更により、担当教員を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「基礎化学特論Ⅱb」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学特論Ⅲa」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び配置換えにより、「基礎化学特別研究」の専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2、助教4」から「教授5、准教授4、講師2、助教3、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅰa」の配当年次を「1①～②」から「1・2①～②」に変更し、教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅰb」の配当年次を「1③～④」から「1・2③～④」に変更し、教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅱa」の配当年次を「2①～②」から「1・2①～②」に変更し、教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「基礎化学輪講Ⅱb」の配当年次を「2③～④」から「1・2③～④」に変更し、・教員の昇任、採用及び配置換えにより、専任教員等の配置を「教授5、准教授3、講師2」から「教授5、准教授4、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「触媒工業化学特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「触媒工業化学特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「高分子工業化学特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「分析化学特論Ⅱ」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「線形レーザー分光特論」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「有機材料化学特論」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「講師1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「超分子化学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「資源循環制御科学」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「環境化学技術特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「無機合成反応特論」を新設。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「応用化学特論Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授5、講師1、兼任・兼任1」から「教授2、准教授4、講師2」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び配置換えにより、「応用化学特別研究」の専任教員等の配置を「教授8、准教授11、講師1、助教6、兼任・兼任1」から「教授9、准教授10、講師2、助教6、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び配置換えにより、「応用化学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授8、准教授11、講師1、兼任・兼任1」から「教授9、准教授9、講師2、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び配置換えにより、「応用化学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授8、准教授11、講師1、兼任・兼任1」から「教授9、准教授9、講師2、兼任・兼任1」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	112 科目	0 科目	112 科目	0 科目 [0]	123 科目 [11]	0 科目 [0]	123 科目 [11]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	国際教育特別演習Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
2	有機金属錯体化学特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
3	分光基礎論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
4	界面ナノ分光特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
5	有機導体特論Ⅱ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
6	希土類化合物特論Ⅰ	2	1・2③	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
7	構造解析特論Ⅰ	2	1・2②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
8	素粒子論Ⅱ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
9	場の理論Ⅱ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
10	核物理学特論Ⅰ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
11	核物理学特論Ⅲ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
12	核物理学特論Ⅵ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
13	宇宙物理学特論Ⅱ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
14	天体物理学特論Ⅱ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
15	物性物理学特論Ⅱ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
16	量子物性学特論Ⅱ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
17	磁性物理学特論Ⅱ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
18	観測宇宙物理学特論Ⅱ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
19	観測天文学特論Ⅰ	2	1・2通	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
20	物理学特論AⅡ	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
21	物理学特論BⅡ	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
22	物理学特論CⅡ	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
23	物理学特論DⅡ	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
24	量子化学特論	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
25	反応解析特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
26	有機立体化学特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
27	構造錯体化学特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
28	結晶化学特論	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
29	有機元素化学特論Ⅰ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
30	電子スピン化学特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
31	基礎化学特論Ⅰa	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
32	基礎化学特論Ⅱa	1	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
33	基礎化学特論Ⅲa	1	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
34	基礎化学特論Ⅱa	1	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
35	基礎化学特論Ⅱb	1	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
36	触媒工業化学特論Ⅱ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
37	無機材料化学特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
38	分析化学特論Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
39	生体分子分光化学特論	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
40	機能分子合成特論	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
41	有機合成化学特論Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
42	無機合成反応特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。

- (注) ・ 配当年次に達しているに関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>

隔年開講科目：令和6年度開講予定。

<学生への周知方法>

オンラインツール（WEB教務システム及びWEBシラバス）及びガイダンスにより周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{42}{112} = \boxed{37.5} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	167,509 m ²	0 m ²	0 m ²	167,509 m ²					
	運動場用地	95,531 m ²	0 m ²	0 m ²	95,531 m ²					
	小 計	263,040 m ²	0 m ²	0 m ²	263,040 m ²					
	そ の 他	131,515 m ²	0 m ²	0 m ²	131,515 m ²					
	合 計	394,555 m ²	0 m ²	0 m ²	394,555 m ²					
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		140,745 m ² (140,745 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	140,745 m ² (140,745 m ²)					
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 改修等による増減（４） 種類変更等による増減（５）			
		92 室	87 93 97 室	279 270 272 室	4 室 (補助職員 0 人)	2 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		令和５年４月 専任教員を新規採用のため（５）			
		理工学研究科 物質科学専攻			55 54 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能 なため、大学全体の数		
	理工学研究科 物質科学専攻	903,761〔276,939〕 (906,343〔276,784〕)	22,199〔5,564〕 (22,345〔5,589〕)	13,541〔13,530〕 (13,914〔13,901〕)	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)	0 (0)			
	計	903,761〔276,939〕 (906,343〔276,784〕)	22,199〔5,564〕 (22,345〔5,589〕)	13,541〔13,530〕 (13,914〔13,901〕)	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)	0 (0)			
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 書架増設のため（４） 書架増設のため（５）		
		8,439 m ²		919		911,944 917,969 918,333				
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		4,474 m ²		野球場		テニスコート 他				
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
		教員１人当たり研究費等		千円	千円	図書購入費		千円		千円
		共 同 研 究 費 等		千円	千円	設備購入費		千円		千円
	学生１人当 り 納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	埼 玉 大 学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考					
教養学部	年	人	年次人	人	—	倍	倍	倍	倍	年度	年度							
教養学科	4	160	3年次30	700	学士(教養)	1.05	—	1.11	1.04	—	昭和40	埼玉県さいたま市桜区下大久保255						
経済学部	4	295	3年次10	1,200	—	1.06	—	1.11	1.06									
経済学科(昼間コース)	4	280	3年次10	1,140	学士(経済学)	1.06	—	1.12	1.07	—	平成27	同上						
経済学科(夜間主コース)	4	15	—	60	学士(経済学)	1.04	—	0.93	0.86	—	平成27	同上						
教育学部	4	380	—	1,520	—	1.02	1.02	1.05	1.03									
学校教育教員養成課程	4	360	—	1,440	学士(教育学)	1.02	1.02	1.05	1.03	—	平成11	同上						
養護教諭養成課程	4	20	—	80	学士(教育学)	1.02	—	1.05	1.03	—	平成18	同上						
理学部	4	210	—	840	—	1.04	—	1.05	1.01									
数学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.09	—	1.15	1.07	—	平成7	同上						
物理学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.04	—	1.01	0.98	—	平成7	同上						
基礎化学科	4	50	—	200	学士(理学)	1.04	—	1.03	1.00	—	平成7	同上						
分子生物学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.01	—	1.02	0.98	—	平成7	同上						
生体制御学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.03	—	1.03	1.02	—	平成7	同上						
工学部	4	490	—	1,960	—	1.01	1.01	1.07	1.02									
機械工学・システムデザイン学科	4	110	—	440	学士(工学)	1.03	—	1.13	1.05	—	平成30	同上						
電気電子物理工学科	4	110	—	440	学士(工学)	0.99	—	1.07	0.99	—	平成30	同上						
情報工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.04	1.03	1.06	1.02	—	平成30	同上						
応用化学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.00	—	1.02	0.98	—	平成30	同上						
環境社会デザイン学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.02	1.02	1.07	1.04	—	平成30	同上						
大学全体	4	1,535	3年次40	6,220	—	—	—	—	—	—	—	—						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜理工学研究科 物質科学専攻＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専 教授		鈴木 健 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		鈴木 健 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		鈴木 健 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		核物理学特論Ⅲ【隔年】 核物理学特論Ⅳ【隔年】 物理学特論CⅠ【隔年】 物理学特論CⅡ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ			核物理学特論Ⅲ【隔年】 核物理学特論Ⅳ【隔年】 物理学特論CⅠ【隔年】 物理学特論CⅡ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ			核物理学特論Ⅲ【隔年】 核物理学特論Ⅳ【隔年】 物理学特論CⅠ【隔年】 物理学特論CⅡ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ
専 教授		田代 信 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		田代 信 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		田代 信 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		物理学特論Ⅰ【隔年】 物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ			物理学特論Ⅰ【隔年】 物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ			物理学特論Ⅰ【隔年】 物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専 教授		谷井 義彰 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		谷井 義彰 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		谷井 義彰 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		場の理論Ⅰ【隔年】 場の理論Ⅱ【隔年】 物理学特論AⅠ【隔年】 物理学特論AⅡ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ			場の理論Ⅰ【隔年】 場の理論Ⅱ【隔年】 物理学特論AⅠ【隔年】 物理学特論AⅡ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ			場の理論Ⅰ【隔年】 場の理論Ⅱ【隔年】 物理学特論AⅠ【隔年】 物理学特論AⅡ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専 教授		石井 昭彦 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		石井 昭彦 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		石井 昭彦 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		有機反応化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅲa【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			有機反応化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅲa【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			有機反応化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅲa【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】
専 教授		上野 啓司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		上野 啓司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		上野 啓司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		無機化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅱa【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			無機化学特論【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			無機化学特論【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】
専 教授		斎藤 雅一 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		斎藤 雅一 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専 教授		斎藤 雅一 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		有機典型元素化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅲb【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			有機典型元素化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅲb【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			有機典型元素化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅲb【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】
専 教授		高柳 敏幸 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		高柳 敏幸 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		高柳 敏幸 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		量子化学特論【隔年】 基礎化学特論Ⅰa【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			量子化学特論【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			量子化学特論【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】
専 教授		若狹 雅信 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		若狹 雅信 ＜令和4年4月＞ 理学博士	専 教授		若狹 雅信 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		反応解析特論【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			反応解析特論【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】			反応解析特論【隔年】 基礎化学特別研究 基礎化学輪講Ⅰa【隔年】 基礎化学輪講Ⅰb【隔年】 基礎化学輪講Ⅱa【隔年】 基礎化学輪講Ⅱb【隔年】
専 教授		王 青躍 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専 教授		王 青躍 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専 教授		王 青躍 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		資源循環制御科学【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ			資源循環制御科学【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ			資源循環制御科学【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士
		課題解決型特別演習0 インターンシップⅠ インターンシップⅡ 触媒工業化学特論Ⅰ【隔年】 高分子工業化学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	齋藤 伸吾 <令和4年4月> 博士(工学)
		分析化学特論Ⅰ【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	武田 博明 <令和4年4月> 博士(理学)
		無機固体化学特論【隔年】 応用化学特論Ⅲ※ 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	根本 直人 <令和4年4月> 博士(学術)
		生物物理化学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	松岡 浩司 <令和4年4月> 博士(理学)
		機能分子合成特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	三浦 勝清 <令和4年4月> 博士(工学)
		有機合成化学特論Ⅰ【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	山口 祥一 <令和4年4月> 博士(理学)
		線形レーザー分光光学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	准教授	小坂 昌史 <令和4年4月> 博士(理学)
		希土類化合物特論Ⅰ【隔年】 希土類化合物特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専	准教授	佐藤 浩介 <令和4年4月> 博士(理学)
		宇宙物理学特論Ⅰ【隔年】 宇宙物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専	准教授	佐藤 文 <令和4年4月> 博士(理学)
		素粒子論Ⅰ【隔年】 素粒子論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専	准教授	谷口 弘三 <令和4年4月> 博士(理学)
		有機導体特論Ⅰ【隔年】 有機導体特論Ⅱ【隔年】 物理学特論Ⅰ【隔年】 物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士
		課題解決型特別演習0 触媒工業化学特論Ⅰ【隔年】 高分子工業化学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	齋藤 伸吾 <令和4年4月> 博士(工学)
		分析化学特論Ⅰ【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	武田 博明 <令和4年4月> 博士(理学)
		無機固体化学特論【隔年】 応用化学特論Ⅲ※ 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	根本 直人 <令和4年4月> 博士(学術)
		生物物理化学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	松岡 浩司 <令和4年4月> 博士(理学)
		機能分子合成特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	三浦 勝清 <令和4年4月> 博士(工学)
		有機合成化学特論Ⅰ【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	山口 祥一 <令和4年4月> 博士(理学)
		線形レーザー分光光学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	小坂 昌史 <令和4年4月> 博士(理学)
		希土類化合物特論Ⅰ【隔年】 希土類化合物特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専	准教授	佐藤 浩介 <令和4年4月> 博士(理学)
		宇宙物理学特論Ⅰ【隔年】 宇宙物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専		
専	教授	谷口 弘三 <令和4年4月> 博士(理学)
		有機導体特論Ⅰ【隔年】 有機導体特論Ⅱ【隔年】 物理学特論Ⅰ【隔年】 物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士
		触媒工業化学特論Ⅰ【隔年】 高分子工業化学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	齋藤 伸吾 <令和4年4月> 博士(工学)
		分析化学特論Ⅰ【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	武田 博明 <令和4年4月> 博士(理学)
		無機固体化学特論【隔年】 応用化学特論Ⅲ※ 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	根本 直人 <令和4年4月> 博士(学術)
		生物物理化学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	松岡 浩司 <令和4年4月> 博士(理学)
		機能分子合成特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	三浦 勝清 <令和4年4月> 博士(工学)
		有機合成化学特論Ⅰ【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	山口 祥一 <令和4年4月> 博士(理学)
		線形レーザー分光光学特論【隔年】 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	教授	小坂 昌史 <令和4年4月> 博士(理学)
		希土類化合物特論Ⅰ【隔年】 希土類化合物特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専	准教授	佐藤 浩介 <令和4年4月> 博士(理学)
		宇宙物理学特論Ⅰ【隔年】 宇宙物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専		
専	教授	谷口 弘三 <令和4年4月> 博士(理学)
		有機導体特論Ⅰ【隔年】 有機導体特論Ⅱ【隔年】 物理学特論Ⅰ【隔年】 物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		小林 拓矢 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		構造解析特論Ⅰ【隔年】 構造解析特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		品岡 寛 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		物性物理学特論Ⅰ【隔年】 物性物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		星野 晋太郎 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		量子物性学特論Ⅰ【隔年】 量子物性学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		長嶋 宏樹 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 助教		中田 憲男 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 助教		古川 俊輔 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 助教		矢後 友暁 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 助教		石原 日出一 ＜令和4年4月＞ 修士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		WANG Weiqian ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		小玉 翔平 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		坂口 美幸 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
専 助教		半田 友衣子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		小林 拓矢 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		構造解析特論Ⅰ【隔年】 構造解析特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		品岡 寛 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		物性物理学特論Ⅰ【隔年】 物性物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		星野 晋太郎 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		量子物性学特論Ⅰ【隔年】 量子物性学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		長嶋 宏樹 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 准教授		中田 憲男 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究 有機元素化学特論Ⅰ【隔年】 基礎化学特論Ⅰa【隔年】 基礎化学特論Ⅰb【隔年】 基礎化学特論Ⅱa【隔年】 基礎化学特論Ⅱb【隔年】
専 助教		古川 俊輔 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 准教授		矢後 友暁 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究 電子スピン化学特論 基礎化学特論Ⅰa【隔年】 基礎化学特論Ⅰb【隔年】 基礎化学特論Ⅱa【隔年】 基礎化学特論Ⅱb【隔年】
専 助教		Lim Hong En ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 助教		石原 日出一 ＜令和4年4月＞ 修士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		WANG Weiqian ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		小玉 翔平 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		坂口 美幸 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
専 助教		半田 友衣子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		小林 拓矢 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		構造解析特論Ⅰ【隔年】 構造解析特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 准教授		品岡 寛 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		物性物理学特論Ⅰ【隔年】 物性物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		星野 晋太郎 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		量子物性学特論Ⅰ【隔年】 量子物性学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学特論Ⅰ 物理学特論Ⅱ
専 助教		長嶋 宏樹 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 准教授		中田 憲男 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究 有機元素化学特論Ⅰ【隔年】 基礎化学特論Ⅰa【隔年】 基礎化学特論Ⅰb【隔年】 基礎化学特論Ⅱa【隔年】 基礎化学特論Ⅱb【隔年】
専 助教		古川 俊輔 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 准教授		矢後 友暁 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究 電子スピン化学特論 基礎化学特論Ⅰa【隔年】 基礎化学特論Ⅰb【隔年】 基礎化学特論Ⅱa【隔年】 基礎化学特論Ⅱb【隔年】
専 助教		Lim Hong En ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
専 助教		石原 日出一 ＜令和4年4月＞ 修士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		WANG Weiqian ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		小玉 翔平 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
専 助教		坂口 美幸 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
専 准教授		半田 友衣子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分析化学特論Ⅱ【隔年】 応用化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	松下 隆彦 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	教授	小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任	教授	長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任	教授	新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 修士(工学)
		課題解決型特別演習A
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		国際教育特別演習
兼任	准教授	大朝 由美子 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		観測天文学特論Ⅰ【隔年】 観測天文学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	講師	安武 幹雄 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		有機材料化学特論【隔年】 応用化学特論Ⅲ※ 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
兼任	助教	道村 真司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		磁性物理学特論Ⅰ【隔年】 磁性物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	松下 隆彦 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	教授	小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任	教授	長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任	教授	新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士(工学)
		課題解決型特別演習D
兼任	教授	石川 能幸 ＜令和4年8月＞ 経営学士
		課題解決型特別演習E
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
兼任	准教授	大朝 由美子 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		観測天文学特論Ⅰ【隔年】 観測天文学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専	講師	安武 幹雄 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		有機材料化学特論【隔年】 応用化学特論Ⅲ※ 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	准教授	道村 真司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		磁性物理学特論Ⅰ【隔年】 磁性物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	松下 隆彦 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		応用化学特別研究
専	助教	鈴木 陽太 ＜令和5年4月＞ 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	教授	小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任	教授	長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任	教授	新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士(工学)
		課題解決型特別演習DⅠ 課題解決型特別演習DⅡ
兼任	教授	石川 能幸 ＜令和4年8月＞ 経営学士
		課題解決型特別演習E
兼任	教授	土屋 政幸 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		課題解決型特別演習C
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
兼任	准教授	大朝 由美子 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		観測天文学特論Ⅰ【隔年】 観測天文学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
専	講師	安武 幹雄 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		有機材料化学特論【隔年】 応用化学特論Ⅲ※ 応用化学特別研究 応用化学輪講Ⅰ 応用化学輪講Ⅱ
専	准教授	道村 真司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		磁性物理学特論Ⅰ【隔年】 磁性物理学特論Ⅱ【隔年】 物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等			＜就任（予定）年月＞ 保有学位等			＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名						
兼任	連携教授	上坂 友洋 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	連携教授	上坂 友洋 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	連携教授	上坂 友洋 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ			物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ			物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ
兼任	連携教授	望月 優子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	連携教授	望月 優子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	連携教授	望月 優子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ			物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ			物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ
兼任	連携教授	金 有洙 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	連携教授	金 有洙 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	連携教授	金 有洙 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		界面ナノ分光特論			界面ナノ分光特論【隔年】			界面ナノ分光特論【隔年】
兼任	連携教授	俣 召民 ＜令和4年4月＞ 工学博士	兼任	連携教授	俣 召民 ＜令和4年4月＞ 工学博士	兼任	連携教授	俣 召民 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		有機金属錯体化学特論			有機金属錯体化学特論【隔年】			有機金属錯体化学特論【隔年】
兼任	連携教授	袖岡 幹子 ＜令和4年4月＞ 薬学博士	兼任	連携教授	袖岡 幹子 ＜令和4年4月＞ 薬学博士	兼任	連携教授	袖岡 幹子 ＜令和4年4月＞ 薬学博士
		精密有機合成化学特論			精密有機合成化学特論【隔年】			精密有機合成化学特論【隔年】
兼任	連携教授	田原 太平 ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	連携教授	田原 太平 ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	連携教授	田原 太平 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		分光基礎論			分光基礎論【隔年】			分光基礎論【隔年】
兼任	連携准教授	仁尾 真紀子 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）	兼任	連携准教授	仁尾 真紀子 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）	兼任	連携准教授	仁尾 真紀子 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）
		物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ			物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ			物理学特別研究1 物理学特別研究2 物理学論議Ⅰ 物理学論議Ⅱ
						兼任	連携准教授	上口 賢 ＜令和5年4月＞ 博士（理学） 無機合成反応特論【隔年】
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的財産権の概要とその活用			知的財産権の概要とその活用			知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報）	兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報）	兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報）
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ			科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ			科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化）	兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化）	兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化）
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ			科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ			科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	梶山 いづみ ＜令和4年4月＞ 文学士	兼任	講師	梶山 いづみ ＜令和4年4月＞ 文学士	兼任	講師	梶山 いづみ ＜令和4年4月＞ 文学士
		科学技術日本語Ⅲ			科学技術日本語Ⅲ			科学技術日本語Ⅲ

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・黒川秀樹教授（専任）異動により、教授（兼任）として就任。
- ・佐藤丈准教授就任辞退。後任未定であるが、令和4年12月から専任教員採用予定で公募中。
- ・藤原隆司准教授（専任）異動により、准教授（兼任）として就任。
- ・小林拓矢助教（専任）異動により、助教（兼任）として就任。
- ・令和4年4月 Lim Hong En助教就任。
- ・安武幹雄講師（兼任）異動により、講師（専任）として就任。
- ・道村真司助教（兼任）異動により、助教（専任）として就任。

【令和5年度】

- ・令和5年4月 吉田健太郎准教授就任。
- ・令和5年4月 鈴木陽太助教就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
17	12	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
16	20	3	15	54	0	20	20	4	11	55	0
(17)	(18)	(4)	(14)	(53)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
47	16	7	0			50	20	5	0		
(48)	(17)	(5)	(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
20	20	4	11	55	0	20	20	4	11	55	0
[4]	[0]	[1]	[Δ4]	[1]	[0]	[4]	[0]	[1]	[Δ4]	[1]	[0]
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
50	20	5	0			50	20	5	0		
[3]	[4]	[Δ2]	[0]	[3]	[4]	[Δ2]	[0]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{55}{54} = \boxed{101.85} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{55} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	佐藤 文	R3.10	選択	素粒子論Ⅰ【隔年】	③	R3.11.1付け他大学へ転任のため就任辞退（4）			
				選択	素粒子論Ⅱ【隔年】	③				
				選択	物理学特別研究1	①				
				選択	物理学特別研究2	①				
				選択	物理学輪講Ⅰ	①				
				選択	物理学輪講Ⅱ	①				
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合 計（ F ）					後任補充状況の集計（ G ）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（ a ） + （ b ） + （ c ）			①の合計数（ a ）		②の合計数（ b ）	③の合計数（ c ）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	4	科目	計	0	科目	計	2	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{54} = 1.85\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>
 対象科目は専攻内の専任教員が代替している又は代替する予定であり教育上の問題はない。

<学生への周知方法>
 学生に対しては、オンラインツール (WEB教務システム及びWEBシラバス) により周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年度)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜理工学研究科 物質科学専攻＞

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教育部長、副教育部長、各プログラム選出の教員からなる教育企画委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

必要に応じて随時（年2～3回程度）開催している。案件によりメール等での意見交換を随時行っている。

c 委員会の審議事項等

FD活動の企画及び実施に関する事項、FDに関する必要事項の他、研究科教育カリキュラムに係る事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ FDに関連した講演会
- ・ 学生による授業評価アンケート結果の共有
- ・ 新任教員のための研修会（全学的に実施）

b 実施方法

全教員を対象としたFDシンポジウムや学生による授業評価結果を共有し資質向上を図ることとしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

毎年度定期的に開催している。教員全員がいずれかの機会に参加できるように周知している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

アンケート結果などにより各教員へ周知し、授業改善への取組を促している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に全学的に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全教員に対して評価結果を配付し、学生からの意見をフィードバックしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

入学定員の充足状況、教員の配置状況、施設・設備の整備状況、教育課程の編成状況など、いずれも当初の計画に沿って着実に実施している。特に新たに開設した特別教育プログラムを含めた人材育成に重点的に取り組んでいる。今後も設置の趣旨・目的に沿って確実に実施すると共に、教育・研究の水準の向上に取り組んでいく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年10月頃 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和6年10月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和5年度に評価機関（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [☐ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 数理電子情報専攻 （博士前期課程）

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書 （改正前大学設置基準適用）

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ……」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜数理電子情報専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名

埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		
専攻長	(コムロ タカシ) 小室 孝 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
理工学研究科 数理電子情報 専攻 修士(理学) 修士(工学)	理学関係 工学関係	2 年	142 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	284 人	—	基礎となる学部 理学部 工学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	142 () []	人 () []	人 () []	人 () []	1.18 倍	—	1.19 倍	—	
志願者数	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	219 () [27]	7 () [4]	214 () [29]	— () []					
受験者数	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	201 () [21]	7 () [4]	195 () [20]	— () []					
合格者数	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	186 () [14]	5 () [3]	176 () [13]	— () []					
B 入学者数	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	— () []	169 () [10]	4 () [3]	165 () [13]	— () []					
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.21		1.16						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	169 [10] (－)	4 [3] (－)	165 [13] (－)	－ [－] (－)	
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	165 [9] (－)	4 [3] (－)	
3 年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
4 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計			－ [－] (－)	－ [－] (－)			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	173 [13] (－)	334 [25] (－)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
令和元年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
令和2年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
令和3年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
令和4年度	173 人	4 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	4 人	1 人	進路変更(3人) [除籍(1人)]
令和5年度	334 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		4 人		4 人	1 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{173} = \boxed{2.31} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{334} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<理工学研究科 数理電子情報専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②		1								1
	特別研修A1	1・2通		1		1						
	特別研修A2	1・2通		2		1						
	特別研修A3	1・2通		3		1						
	特別研修A4	1・2通		4		1						
	特別研修B1	1・2通		1		1						
	特別研修B2	1・2通		2		1						
	特別研修B3	1・2通		3		1						
	特別研修B4	1・2通		4		1						
	課題解決型特別演習A	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	小計（17科目）	—	0	34	0	1	0	0	0	0	9	
専攻 共通 科目	数理電子情報特論Ⅰ	1・2③～④		2		2	1					
	数理電子情報特論Ⅱ	1・2③～④		2		1	1		1			
	インターンシップ	1・2通		2		2						
	小計（3科目）	—	0	6	0	5	1	0	1	0	0	
数学 プロ グラム	数学特別研究1	1通		6		6	3		4			
	数学特別研究2	2通		6		6	3		4			
	解析学特論Ⅰ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅱ	1・2③～④		2		1						
	解析学特論Ⅲ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅳ	1・2③～④		2					1			
	解析学特論Ⅴ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅵ	1・2③～④		2			1					
	解析学特論Ⅶ	1・2③～④		2					1			
	幾何学特論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	幾何学特論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	幾何学特論Ⅲ	1・2①～②		2					1			
	幾何学特論Ⅳ	1・2③～④		2					1			
	幾何学特論Ⅴ	1・2①～②		2		1						
	幾何学特論Ⅵ	1・2③～④		2		1						
	代数学特論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	代数学特論Ⅲ	1・2①～②		2					1			
	代数学特論Ⅳ	1・2③～④		2					1			
	代数学特論Ⅴ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅵ	1・2③～④		2		1						
	数学特論Ⅰ	1・2①～②		2		1						
	数学特論Ⅱ	1・2①～②		2			1					
	数学特論Ⅲ	1・2③～④		2					1			
	数学特論Ⅳ	1・2③～④		2					1			
	数学特論Ⅴ	1・2③～④		2		1						
	数学特論Ⅵ	1・2③～④		2		1						
	数学特論Ⅶ	1・2①～②		2			1					

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ（未開講）	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ	1・2①		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～③		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～③		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～③		1								1
	特別研修A1	1・2通		1		1						
	特別研修A2	1・2通		2		1						
	特別研修A3	1・2通		3		1						
	特別研修A4	1・2通		4		1						
	特別研修B1	1・2通		1		1						
	特別研修B2	1・2通		2		1						
	特別研修B3	1・2通		3		1						
	特別研修B4	1・2通		4		1						
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～③		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2③～④		2								1
課題解決型特別演習C	1・2①～②		2								1	
課題解決型特別演習DⅠ	1・2①～②		2								1	
課題解決型特別演習DⅡ	1・2③～④		2								1	
課題解決型特別演習E	1・2③～④		2								1	
小計（22科目）	—	0	45	0	1	0	0	0	0	0	11	
専攻 共通 科目	数理電子情報特論Ⅰ（未開講）	1・2③～④		2		3						
	数理電子情報特論Ⅱ	1・2③～④		2		1	1		1			
	インターンシップ	1・2通		2		3						
	小計（3科目）	—	0	6	0	6	1	0	1	0	0	
数学 プロ グラム	数学特別研究1	1通		6		6	4		3			
	数学特別研究2	2通		6		6	4		3			
	解析学特論Ⅰ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅱ	1・2③～④		2		1						
	解析学特論Ⅲ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅳ（未開講）	1・2③～④		2					1			
	解析学特論Ⅴ	1・2③～④		2		1						
	解析学特論Ⅵ	1・2①～②		2			1					
	解析学特論Ⅶ	1・2③～④		2					1			
	幾何学特論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	幾何学特論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	幾何学特論Ⅲ	1・2①～②		2					1			
	幾何学特論Ⅳ	1・2③～④		2					1			
	幾何学特論Ⅴ	1・2③～④		2			1					
	幾何学特論Ⅵ	1・2①～②		2		1						
	代数学特論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅱ	1・2③～④		2			1					
	代数学特論Ⅲ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅳ（未開講）	1・2③～④		2			1					
	代数学特論Ⅴ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅵ	1・2③～④		2		1						
	数学特論Ⅰ	1・2③～④		2		1						
	数学特論Ⅱ（未開講）	1・2①～②		2			1					
	数学特論Ⅲ（未開講）	1・2③～④		2					1			
	数学特論Ⅳ（未開講）	1・2③～④		2			1					
	数学特論Ⅴ（未開講）	1・2③～④		2		1						
	数学特論Ⅵ	1・2①～②		2		1						
数学特論Ⅶ（未開講）	1・2①～②		2			1						

情報工学 プログラム	形式的手法特論	1・2③～④	2	1								
	サイバーセキュリティ特論	1・2③～④	2	1								
	複雑系フォトニクス特論	1・2①～②	2	1								
	センシングシステム特論	1・2③～④	2	1								
	画像応用システム特論	1・2①～②	2	1								
	確率の情報処理特論	1・2③～④	2		1							
	知識表現特論	1・2①～②	2		1							
	組込みリアルタイムシステム特論	1・2③～④	2		1							
	生命情報工学特論	1・2③～④	2								1	
	視覚情報処理システム特論	1・2③～④	2	1								
	地理情報科学特論	1・2①～②	2		1							
	情報理論特論	1・2①～②	2		1							
	情報処理特別演習	1・2通	4	1								
	プログラミング特別演習Ⅰ	1・2通	2	1								
	プログラミング特別演習Ⅱ	1・2通	2	1								
	プレゼンテーション特別演習	1・2通	2	6	7						2	
	情報工学輪講Ⅰ	1①～②	1	6	7						2	
	情報工学輪講Ⅱ	1③～④	1	6	7						2	
	小計（106科目）	－	0	245	0	23	22	0	17	0	8	
合計（126科目）			－	0	285	0	23	22	0	17	0	17

卒業要件及び履修方法

数理電子情報専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）又は修士（工学）を授与する。

(数学プログラムの修了要件)

数学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 数学特別研究1(6単位)及び数学特別研究2(6単位)の2科目12単位を修得すること。
- 2) 数学プログラムの専門科目から12単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

(電気電子物理工学プログラムの修了要件)

電気電子理工学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 電気電子物理工学特別研究Ⅰ（6単位）の1科目6単位を修得すること。
2) 電気電子物理工学プログラムの専門科目から18単位以上を修得すること。なお、電気電子物理工学特別研究Ⅱを履修するには、電気電子物理工学特別研究Ⅰの単位を修得していなければならない。
3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

(情報工学プログラムの修了要件)

情報工学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 情報工学特別研究Ⅰ(6単位)及びプレゼンテーション特別演習(2単位)の2科目8単位を修得すること。
- 2) 情報工学プログラムの専門科目から14単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき22単位以外の8単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

(融合教育プログラムの修了要件)

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 数学特別研究1(6単位)及び数学特別研究2(6単位)の2科目12単位、電気電子物理工學特別研究Ⅰ(6単位)の1科目6単位又は情報工學特別研究Ⅰ(6単位)及びプレゼンテーション特別演習(2単位)の2科目8単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
- ・(a)群から、環境経済学(2単位)又はPublic Policies and SDGs(2単位)の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論(2単位)、環境生物学特論(2単位)又は水環境工学特論(2単位)の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ(1単位)、農作物栽培技術演習(1単位)又はデータ解析学演習(1単位)の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき単位数以外の単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・③～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ(未開講)	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・③～④		1								1
	特別研修A1	1・2通		1		1						
	特別研修A2	1・2通		2		1						
	特別研修A3	1・2通		3		1						
	特別研修A4	1・2通		4		1						
	特別研修B1	1・2通		1		1						
	特別研修B2	1・2通		2		1						
	特別研修B3	1・2通		3		1						
	特別研修B4	1・2通		4		1						
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②・③～④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	課題解決型特別演習D	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習E	1・2①～②		2								1
	小計（21科目）	—	0	42	0	1	0	0	0	0	0	11
専攻 共通 科目	数理電子情報特論Ⅰ	1・2①～②・③～④		2		3						
	数理電子情報特論Ⅱ(未開講)	1・2①～②・③～④		2		1	1		1			
	インターンシップ	1・2通		2		3						
	小計（3科目）	—	0	6	0	6	1	0	1	0	0	
数学 プロ グラ ム	数学特別研究Ⅰ	1通		6		5	4		3			
	数学特別研究Ⅱ	2通		6		5	4		3			
	解析学特論Ⅰ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅱ	1・2①～②・③～④		2		1						
	解析学特論Ⅲ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅳ	1・2①～②・③～④		2					1			
	解析学特論Ⅴ	1・2①～②		2		1						
	解析学特論Ⅵ	1・2①～②		2			1					
	解析学特論Ⅶ(未開講)	1・2①～②・③～④		2					1			
	幾何学特論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	幾何学特論Ⅱ	1・2①～②・③～④		2			1					
	幾何学特論Ⅲ	1・2①～②		2					1			
	幾何学特論Ⅳ(未開講)	1・2①～②・③～④		2					1			
	幾何学特論Ⅴ	1・2①～②		2			1					
	幾何学特論Ⅵ	1・2①～②		2		1						
	代数学特論Ⅰ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅱ	1・2①～②・③～④		2			1					
	代数学特論Ⅲ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅳ	1・2①～②・③～④		2			1					
	代数学特論Ⅴ	1・2①～②		2			1					
	代数学特論Ⅵ	1・2①～②・③～④		2		1						
	数学特論Ⅰ(未開講)	1・2①～②		2		1						
	数学特論Ⅱ(未開講)	1・2①～②		2			1					
	数学特論Ⅲ	1・2①～②		2					1			
	数学特論Ⅳ	1・2①～②・③～④		2			1					
	数学特論Ⅴ(未開講)	1・2①～②・③～④		2		1						
	数学特論Ⅵ	1・2①～②		2		1						
	数学特論Ⅶ(未開講)	1・2①～②		2			1					
	数学特論Ⅷ(未開講)	1・2①～②		2		1						
	数学特論Ⅸ	1・2①～②		2					1			
	数学特論Ⅹ(未開講)	1・2①～②		2						1		
	数学特論Ⅺ	1・2①～②		2							1	
数学特論Ⅻ(未開講)	1・2①～②		2			1						
数学特論ⅩⅢ(未開講)	1・2①～②		2		1							
数学輪講Ⅰ	1・2通		3		1							

専門科目	数学論講Ⅱ	1・2通	3		1								
	数学論講Ⅲ	1・2通	3		1								
	数学論講Ⅴ	1・2通	3		1								
	数学論講Ⅵ	1・2通	3					1					
	数学論講Ⅶ	1・2通	3		1								
	数学論講Ⅷ	1・2通	3			1							
	数学論講Ⅸ	1・2通	3			1							
	数学論講Ⅹ	1・2通	3					1					
	数学論講Ⅺ	1・2通	3			1							
	数学論講Ⅻ	1・2通	3			1							
	数学論講ⅩⅢ (未開講)	1・2通	3										
	数学論講ⅩⅣ	1・2通	3					1					
電気電子物理学プログラム	電気電子物理学特別研究Ⅰ	1通	6		13	11		5				1	
	電気電子物理学特別研究Ⅱ	2通	6		13	11		5				1	
	エネルギー制御特論	1・2③～④	2		1								
	電力工学特論	1・2①～②	2		1								
	電機制御特論	1・2③～④	2		1								
	人間支援システム特論	1・2①～②	2			1							
	マイクロ波回路特論	1・2①～②	2		1								
	電磁波工学特論	1・2③～④	2			1							
	電磁界解析特論	1・2①～②	2			1							
	デジタルシステム特論	1・2①～②	2		1								
	光波センシング特論	1・2③～④	2			1							
	電子応用計測特論	1・2③～④	2		1								
	スマートセンシング特論	1・2③～④	2								1		
	先端計算機工学特論	1・2①～②	2		1								
	超伝導集積回路工学特論	1・2①～②	2			1							
	光エレクトロニクス物性特論	1・2①～②	2		1								
	先端エレクトロニクス材料特論	1・2①	2			1							
	半導体工学特論	1・2①～②	2			1							
	量子化材料物性工学特論	1・2③～④	2		1								
	薄膜表面工学特論	1・2①～②	2		1								
	情報記録材料工学特論	1・2③～④	2			1							
	機能磁性学特論	1・2③～④	2		1								
	ハイブリッド磁気工学特論	1・2①～②	2			1							
	マテリアルリサーチストラテジー特論	1・2①～②	2			1							
	環境応用光学特論	1・2③～④	2		1								
	システム制御特論	1・2①～②	2		1								
	エネルギー変換材料特論	1・2①～②	2			1							
	量子光デバイス工学特論	1・2③～④	2									1	
	有機半導体工学特論	1・2③～④	2									1	
	新材料の製品化プロセス特論	1・2①～②	2									2	
	水素変換材料工学特論	1・2①～②	2									1	
	放電プラズマ工学特論	1・2①～②	2										
	電気電子物理学輪講Ⅰ	1①～②	1		13	11		7				1	
	電気電子物理学輪講Ⅱ	1③～④	1		13	11		7				1	
	電気電子物理学輪講Ⅲ	2①～②	1		13	11		7				1	
	電気電子物理学輪講Ⅳ	2③～④	1		13	11		7				1	
情報工学プログラム	情報工学特別研究Ⅰ	1通	6		8	7		5				1	
	情報工学特別研究Ⅱ	2通	6		8	7		5				1	
	数値解析特論 (未開講)	1・2③～④	2		1								
	信号処理特論	1・2①～②	2		1								
	光情報工学特論	1・2③～④	2			1							
	離散アルゴリズム特論	1・2①	2			1							
	形式的手法特論 (未開講)	1・2③～④	2		1								
	サイバーセキュリティ特論	1・2③～④	2		1								
	複雑系フォトニクス特論	1・2①～②	2		1								
	センシングシステム特論	1・2③～④	2		1								
	画像応用システム特論	1・2①～②	2		1								
	確率的情報処理特論	1・2③～④	2		1								
	知識表現特論	1・2①～②	2			1							

プログラム	組込みリアルタイムシステム特論	1・2③～④	2			1							
	生命情報工学特論	1・2③～④	2										1
	視覚情報処理システム特論	1・2③～④	2			1							
	地理情報科学特論	1・2㊦	2					1					
	情報理論特論	1・2①～②	2					1					
	ネットワーク科学特論	1・2㉙㉚	2					1					
	情報処理特別演習	1・2通	4			1							
	プログラミング特別演習Ⅰ	1・2通	2			1							
	プログラミング特別演習Ⅱ	1・2通	2			1							
	プレゼンテーション特別演習	1・2通	2			8	7						1
	情報工学輪講Ⅰ	1①～②	1			8	7						1
	情報工学輪講Ⅱ	1③～④	1			8	7						1
	小計（108科目）	－	0	249	0	26	22	0	15	0	7		
	合計（132科目）	－	0	297	0	26	22	0	15	0	18		

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習D」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・講義分担の変更により、「数理電子情報特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2、准教授1」から「教授3」に変更。
- ・講義分担の変更により、「インターンシップ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・教員の昇任及び退職により、「数学特別研究1」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、助教4」から「教授5、准教授4、助教3」に変更。
- ・教員の昇任及び退職により、「数学特別研究2」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、助教4」から「教授5、准教授4、助教3」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「解析学特論Ⅴ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「解析学特論Ⅵ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「幾何学特論Ⅴ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更し、教員の退職により、専任教員の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「幾何学特論Ⅵ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「代数学特論Ⅲ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「代数学特論Ⅳ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「数学特論Ⅲ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「数学特論Ⅳ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「数学特論Ⅵ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「数学特論Ⅷ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の退職により、「数学特論Ⅹ」の後任を検討中。
- ・教員の昇任により、「数学特論Ⅺ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の退職により、「数学特論ⅩⅢ」の後任を検討中。
- ・教員の昇任により、「電気電子物理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教6、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教5、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「電気電子物理学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教6、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教5、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「電力工学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「光エレクトロニクス物性特論」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「機能磁性学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「マテリアルリサーチストラテジー特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「水素変換材料工学特論」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「放電プラズマ工学特論」を新設。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用、退職及び配置換えにより、「情報工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、助教5、兼任・兼任2」から「教授8、准教授7、助教5、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用、退職及び配置換えにより、「情報工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、助教5、兼任・兼任2」から「教授8、准教授7、助教5、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「数値解析特論」の専任教員の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「数値解析特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「形式的手法特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「サイバーセキュリティ特論」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「確率的情報処理特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「地理情報科学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①」に変更。
- ・教員の昇任により、「ネットワーク科学特論」を新設。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「プレゼンテーション特別演習」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、兼任・兼任2」から「教授8、准教授7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「情報工学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、兼任・兼任2」から「教授8、准教授7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「情報工学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、兼任・兼任2」から「教授8、准教授7、兼任・兼任1」に変更。

【令和5年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習C」の単位数を「1」から「2」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅠ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅡ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・講義分担の変更により、「数理電子情報特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2、准教授1」から「教授3」に変更。
- ・講義分担の変更により、「インターンシップ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「数学特別研究1」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、助教4」から「教授6、准教授4、助教3」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「数学特別研究2」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、助教4」から「教授6、准教授4、助教3」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「解析学特論Ⅴ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「解析学特論Ⅵ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「幾何学特論Ⅴ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更し、教員の退職により、専任教員の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「幾何学特論Ⅵ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「代数学特論Ⅲ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「代数学特論Ⅳ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「数学特論Ⅰ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の昇任により、「数学特論Ⅳ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「数学特論Ⅵ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「数学特論Ⅷ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の退職により、「数学特論Ⅹ」の後任を検討中。
- ・開講講義数のバランスのため、「数学特論ⅩⅢ」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の昇任により、「数学特論ⅩⅢ」の専任教員の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「電気電子物理学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教6、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教5、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「電気電子物理学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教6、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教5、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「電力工学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「スマートセンシング特論」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「光エレクトロニクス物性特論」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「先端エレクトロニクス材料特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任により、「機能磁性学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「マテリアルリサーチストラテジー特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「水素変換材料工学特論」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「放電プラズマ工学特論」を新設。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「電気電子物理学輪講Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授12、助教8、兼任・兼任1」から「教授13、准教授11、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用、退職及び配置換えにより、「情報工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、助教5、兼任・兼任2」から「教授10、准教授7、助教4、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任、採用、退職及び配置換えにより、「情報工学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、助教5、兼任・兼任2」から「教授10、准教授7、助教4、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の配置換えにより、「数値解析特論」の専任教員の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更し、開講講義数のバランスのため、「数値解析特論」を隔年開講に変更。
- ・教員の退職により、「光情報工学特論」の後任を検討中。
- ・開講講義数のバランスのため、「離散アルゴリズム特論」の配当年次を「1・2①」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「形式的手法特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「サイバーセキュリティ特論」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「確率的情報処理特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「組込みリアルタイムシステム特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「地理情報科学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①」に変更。
- ・教員の昇任により、「ネットワーク科学特論」を新設。
- ・教員の昇任により、「光ハードウェア機械学習特論」を新設。
- ・教員の昇任により、「ビジュアル情報特論」を新設。
- ・教員の昇任により、「インタラクティブ工学特論」を新設。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「プレゼンテーション特別演習」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、兼任・兼任2」から「教授10、准教授7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「情報工学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、兼任・兼任2」から「教授10、准教授7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の昇任及び配置換えにより、「情報工学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授7、兼任・兼任2」から「教授10、准教授7、兼任・兼任1」に変更。

(注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	126 科目	0 科目	126 科目	0 科目 [0]	136 科目 [10]	0 科目 [0]	136 科目 [10]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	国際教育特別演習Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
2	数理電子情報特論Ⅰ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
3	解析学特論Ⅳ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
4	代数学特論Ⅳ	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
5	数学特論Ⅱ	2	1・2①～②	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
6	数学特論Ⅲ	2	1・2③～④	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
7	数学特論Ⅳ	2	1・2③～④	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
8	数学特論Ⅴ	2	1・2③～④	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
9	数学特論Ⅶ	2	1・2①～②	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
10	数学特論Ⅸ	2	1・2①～②	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
11	数学特論Ⅹ	2	1・2①～②	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
12	数学特論Ⅻ	2	1・2①～②	専門	選択	数学特論13科目のうち、毎年5科目を開講するため。代替措置無し。
13	光情報工学特論	2	1・2③～④	専門	選択	担当教員退職のため。後任検討中。
14	サイバーセキュリティ特論	2	1・2③～④	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>

隔年開講科目：令和6年度開講予定。

数学特論：専門分野、学生の履修状況を考慮し、必要に応じて開講予定。

光情報工学特論：専攻内には他科目が十分に開講されており、また今後他教員が代替する予定であり教育上の問題はない。

<学生への周知方法>

オンラインツール（WEB教務システム及びWEBシラバス）及びガイダンスにより周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{14}{126} = \boxed{11.11} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	
	校 舎 敷 地	167,509 m ²	0 m ²	0 m ²	167,509 m ²	
	運動場用地	95,531 m ²	0 m ²	0 m ²	95,531 m ²	
	小 計	263,040 m ²	0 m ²	0 m ²	263,040 m ²	
	そ の 他	131,515 m ²	0 m ²	0 m ²	131,515 m ²	
	合 計	394,555 m ²	0 m ²	0 m ²	394,555 m ²	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	
		140,745 m ² (140,745 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	140,745 m ² (140,745 m ²)	
(3) 教 室 等		講 義 室 92 室	演 習 室 87 93 97 室	実験実習室 279 270 272 室	情報処理学習施設 4 室 (補助職員 0 人)	語学学習施設 2 室 (補助職員 0 人)
		新設学部等の名称			室 数	
(4) 専任教員研究室		理工学研究科 数理電子情報専攻			65 62 室	
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点
	理工学研究科 数理電子情報 専攻	903,761 [276,939] (906,343 [276,784])	22,199 [5,564] (22,345 [5,589])	13,541 [13,530] (13,914 [13,901])	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)
	計	903,761 [276,939] (906,343 [276,784])	22,199 [5,564] (22,345 [5,589])	13,541 [13,530] (13,914 [13,901])	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		
		8,439 m ²	919	911,944 917,969 918,333		
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体
		4,474 m ²	野球場	テニスコート 他		
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次
		千円	千円	千円	千円	千円
		学生納付金以外の維持方法の概要				

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 学 校 名	埼 玉 大 学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考					
教養学部	年	人	年次人	人	—	倍	倍	倍	倍	年度	年度							
教養学科	4	160	3年次30	700	学士(教養)	1.05	—	1.11	1.04	—	昭和40	埼玉県さいたま市桜区下大久保255						
経済学部	4	295	3年次10	1,200	—	1.06	—	1.11	1.06									
経済学科(昼間コース)	4	280	3年次10	1,140	学士(経済学)	1.06	—	1.12	1.07	—	平成27	同上						
経済学科(夜間主コース)	4	15	—	60	学士(経済学)	1.04	—	0.93	0.86	—	平成27	同上						
教育学部	4	380	—	1,520	—	1.02	1.02	1.05	1.03									
学校教育教員養成課程	4	360	—	1,440	学士(教育学)	1.02	1.02	1.05	1.03	—	平成11	同上						
養護教諭養成課程	4	20	—	80	学士(教育学)	1.02	—	1.05	1.03	—	平成18	同上						
理学部	4	210	—	840	—	1.04	—	1.05	1.01									
数学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.09	—	1.15	1.07	—	平成7	同上						
物理学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.04	—	1.01	0.98	—	平成7	同上						
基礎化学科	4	50	—	200	学士(理学)	1.04	—	1.03	1.00	—	平成7	同上						
分子生物学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.01	—	1.02	0.98	—	平成7	同上						
生体制御学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.03	—	1.03	1.02	—	平成7	同上						
工学部	4	490	—	1,960	—	1.01	1.01	1.07	1.02									
機械工学・システムデザイン学科	4	110	—	440	学士(工学)	1.03	—	1.13	1.05	—	平成30	同上						
電気電子物理工学科	4	110	—	440	学士(工学)	0.99	—	1.07	0.99	—	平成30	同上						
情報工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.04	1.03	1.06	1.02	—	平成30	同上						
応用化学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.00	—	1.02	0.98	—	平成30	同上						
環境社会デザイン学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.02	1.02	1.07	1.04	—	平成30	同上						
大学全体	4	1,535	3年次40	6,220	—	—	—	—	—	—	—	—						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<理工学研究科 数理電子情報専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	岸本 崇 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究I 数学特別研究2 代数学特論VI 数学特論I 数学特論VII
専	教授	下川 航也 <令和4年4月> 博士(数理学) 数学特別研究I 数学特別研究2 幾何学特論V 数学特論X 数学特論XIII
専	教授	長澤 壯之 <令和4年4月> 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4 数理電子情報特論I※【隔年】 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論V 数学特論V 数学特論III
専	教授	福井 敏純 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究1 数学特別研究2 幾何学特論VI 数学特論XIII 数学特論II
専	教授	Bez Richard Neal <令和4年4月> Doctor of Philosophy (イギリス) 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論I 解析学特論II 数学特論III 数学特論IV 数学特論I
専	教授	町原 秀二 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論III 数学特論VI 数学特論V
専	教授	伊藤 和人 <令和4年4月> 博士(工学) 電気電子物理工学特別研究I 電気電子物理工学特別研究II デジタルシステム特論 電気電子物理工学特論I 電気電子物理工学特論II 電気電子物理工学特論III 電気電子物理工学特論IV
専	教授	内田 秀和 <令和4年4月> 博士(工学) 数理電子情報特論II※【隔年】 電気電子物理工学特別研究I 電気電子物理工学特別研究II 電子応用計測特論 電気電子物理工学特論I 電気電子物理工学特論II 電気電子物理工学特論III 電気電子物理工学特論IV

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	岸本 崇 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究I 数学特別研究2 代数学特論VI 数学特論I 数学特論VII
専	教授	長澤 壯之 <令和4年4月> 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論V 数学特論V 数学特論III
専	教授	福井 敏純 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究1 数学特別研究2 幾何学特論VI 数学特論XIII 数学特論II
専	教授	Bez Richard Neal <令和4年4月> Doctor of Philosophy (イギリス) 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論I 解析学特論II 数学特論III 数学特論IV 数学特論I
専	教授	町原 秀二 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論III 数学特論VI 数学特論V 数理電子情報特論I※【隔年】 インターンシップ
専	教授	伊藤 和人 <令和4年4月> 博士(工学) 電気電子物理工学特別研究I 電気電子物理工学特別研究II デジタルシステム特論 電気電子物理工学特論I 電気電子物理工学特論II 電気電子物理工学特論III 電気電子物理工学特論IV
専	教授	内田 秀和 <令和4年4月> 博士(工学) 数理電子情報特論II※【隔年】 電気電子物理工学特別研究I 電気電子物理工学特別研究II 電子応用計測特論 電気電子物理工学特論I 電気電子物理工学特論II 電気電子物理工学特論III 電気電子物理工学特論IV

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	岸本 崇 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究I 数学特別研究2 代数学特論VI 数学特論I 数学特論VII
専	教授	長澤 壯之 <令和4年4月> 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論V 数学特論V 数学特論III
専	教授	福井 敏純 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究1 数学特別研究2 幾何学特論VI 数学特論XIII 数学特論II
専	教授	Bez Richard Neal <令和4年4月> Doctor of Philosophy (イギリス) 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論I 解析学特論II 数学特論III 数学特論IV 数学特論I
専	教授	町原 秀二 <令和4年4月> 博士(理学) 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論III 数学特論VI 数学特論V 数理電子情報特論I※【隔年】 インターンシップ
専	教授	横山 知郎 <令和5年4月> 博士(数理学) 数学特別研究1 数学特別研究2 数学特論XIII
専	教授	伊藤 和人 <令和4年4月> 博士(工学) 電気電子物理工学特別研究I 電気電子物理工学特別研究II デジタルシステム特論 電気電子物理工学特論I 電気電子物理工学特論II 電気電子物理工学特論III 電気電子物理工学特論IV
専	教授	内田 秀和 <令和4年4月> 博士(工学) 数理電子情報特論II※【隔年】 電気電子物理工学特別研究I 電気電子物理工学特別研究II 電子応用計測特論 電気電子物理工学特論I 電気電子物理工学特論II 電気電子物理工学特論III 電気電子物理工学特論IV

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	栗木 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	栗木 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	栗木 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 視覚情報処理システム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 視覚情報処理システム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 視覚情報処理システム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ
専	教授	小林 貴訓 ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)	専	教授	小林 貴訓 ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)	専	教授	小林 貴訓 ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 画像応用システム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 画像応用システム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 画像応用システム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ
専	教授	小室 孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	小室 孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	小室 孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ センシングシステム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ センシングシステム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ センシングシステム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ
専	教授	島村 徹也 ＜令和4年4月＞ 工学博士	専	教授	島村 徹也 ＜令和4年4月＞ 工学博士	専	教授	島村 徹也 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		インターンシップ 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 信号処理特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			インターンシップ 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 信号処理特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			インターンシップ 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 信号処理特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ
専	教授	吉浦 紀晃 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	教授	吉浦 紀晃 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	教授	吉浦 紀晃 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 形式の手法特論 サイバーセキュリティ特論 情報処理特別演習 プログラミング特別演習Ⅰ プログラミング特別演習Ⅱ プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 形式の手法特論【 隔年 】 サイバーセキュリティ特論【 隔年 】 情報処理特別演習 プログラミング特別演習Ⅰ プログラミング特別演習Ⅱ プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 形式の手法特論【 隔年 】 サイバーセキュリティ特論【 隔年 】 情報処理特別演習 プログラミング特別演習Ⅰ プログラミング特別演習Ⅱ プレゼンテーション特別演習 情報工学輪講Ⅰ 情報工学輪講Ⅱ
専	准教授	海老原 円 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	准教授	海老原 円 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	准教授	海老原 円 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数学特論Ⅲ 代数学特論Ⅳ 代数学特論Ⅴ 代数学特論Ⅵ 代数学特論Ⅶ 代数学特論Ⅷ 代数学特論Ⅸ			数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数学特論Ⅲ 代数学特論Ⅳ 代数学特論Ⅴ 代数学特論Ⅵ 代数学特論Ⅶ 代数学特論Ⅷ 代数学特論Ⅸ			数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数学特論Ⅲ 代数学特論Ⅳ 代数学特論Ⅴ 代数学特論Ⅵ 代数学特論Ⅶ 代数学特論Ⅷ 代数学特論Ⅸ
専	准教授	櫻井 陽平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	准教授	櫻井 陽平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	准教授	櫻井 陽平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 幾何学特論Ⅰ 幾何学特論Ⅱ 幾何学特論Ⅲ 幾何学特論Ⅳ 幾何学特論Ⅴ 幾何学特論Ⅵ 幾何学特論Ⅶ 幾何学特論Ⅷ 幾何学特論Ⅸ			数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 幾何学特論Ⅰ 幾何学特論Ⅱ 幾何学特論Ⅲ 幾何学特論Ⅳ 幾何学特論Ⅴ 幾何学特論Ⅵ 幾何学特論Ⅶ 幾何学特論Ⅷ 幾何学特論Ⅸ			数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 幾何学特論Ⅰ 幾何学特論Ⅱ 幾何学特論Ⅲ 幾何学特論Ⅳ 幾何学特論Ⅴ 幾何学特論Ⅵ 幾何学特論Ⅶ 幾何学特論Ⅷ 幾何学特論Ⅸ
専	准教授	佐藤 洋平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	准教授	佐藤 洋平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	准教授	佐藤 洋平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 解析学特論Ⅰ 解析学特論Ⅱ 解析学特論Ⅲ 解析学特論Ⅳ 解析学特論Ⅴ 解析学特論Ⅵ 解析学特論Ⅶ 解析学特論Ⅷ 解析学特論Ⅸ			数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 解析学特論Ⅰ 解析学特論Ⅱ 解析学特論Ⅲ 解析学特論Ⅳ 解析学特論Ⅴ 解析学特論Ⅵ 解析学特論Ⅶ 解析学特論Ⅷ 解析学特論Ⅸ			数学特別研究Ⅰ 数学特別研究Ⅱ 解析学特論Ⅰ 解析学特論Ⅱ 解析学特論Ⅲ 解析学特論Ⅳ 解析学特論Ⅴ 解析学特論Ⅵ 解析学特論Ⅶ 解析学特論Ⅷ 解析学特論Ⅸ
専	准教授	大平 昌敬 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	准教授	大平 昌敬 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	准教授	大平 昌敬 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論 電気電子物理工学輪講Ⅰ 電気電子物理工学輪講Ⅱ 電気電子物理工学輪講Ⅲ 電気電子物理工学輪講Ⅳ			電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論 電気電子物理工学輪講Ⅰ 電気電子物理工学輪講Ⅱ 電気電子物理工学輪講Ⅲ 電気電子物理工学輪講Ⅳ			電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論 電気電子物理工学輪講Ⅰ 電気電子物理工学輪講Ⅱ 電気電子物理工学輪講Ⅲ 電気電子物理工学輪講Ⅳ

[illegible]

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	山納 康 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電力工学特論 電気電子物理工学論Ⅰ 電気電子物理工学論Ⅱ 電気電子物理工学論Ⅲ 電気電子物理工学論Ⅳ	専	教授	山納 康 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電力工学特論 電気電子物理工学論Ⅰ 電気電子物理工学論Ⅱ 電気電子物理工学論Ⅲ 電気電子物理工学論Ⅳ	専	教授	山納 康 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電力工学特論 電気電子物理工学論Ⅰ 電気電子物理工学論Ⅱ 電気電子物理工学論Ⅲ 電気電子物理工学論Ⅳ
専	准教授	安積 卓也 ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 組込みリアルタイムシステム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	安積 卓也 ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 組込みリアルタイムシステム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	教授	安積 卓也 ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 組込みリアルタイムシステム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ
専	准教授	大久保 潤 ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 確率的情報処理特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	教授	大久保 潤 ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 確率的情報処理特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	教授	大久保 潤 ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 確率的情報処理特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ
専	准教授	後藤 祐一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 数理電子情報特論Ⅰ※【隔年】 数理電子情報特論Ⅱ※【隔年】 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 知識表現特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	後藤 祐一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 数理電子情報特論Ⅱ※【隔年】 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 知識表現特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	後藤 祐一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 数理電子情報特論Ⅱ※【隔年】 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 知識表現特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ
専	准教授	堤田 成政 ＜令和4年4月＞ 博士(地球環境学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 地理情報科学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	堤田 成政 ＜令和4年4月＞ 博士(地球環境学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 地理情報科学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	堤田 成政 ＜令和4年4月＞ 博士(地球環境学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 地理情報科学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ
専	准教授	松田 哲直 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 情報理論特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	松田 哲直 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 情報理論特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	松田 哲直 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 情報理論特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ
専	准教授	山田 敏規 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 離散アルゴリズム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	山田 敏規 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 離散アルゴリズム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	山田 敏規 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 離散アルゴリズム特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ
専	准教授	吉川 宣一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 光情報工学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ	専	准教授	吉川 宣一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 光情報工学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ			
						専	准教授	PUNPONGSANON PARINYA ＜令和5年4月＞ 博士(工学) 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ インタラクティブ工学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論Ⅰ 情報工学論Ⅱ
専	助教	江頭 信二 ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学) 数学特別研究1 数学特別研究2 幾何学特論Ⅲ 幾何学特論Ⅳ【隔年】 数学特論Ⅴ 数学論議Ⅳ	専	助教	江頭 信二 ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学) 数学特別研究1 数学特別研究2 幾何学特論Ⅲ 幾何学特論Ⅳ【隔年】 数学特論Ⅴ 数学論議Ⅳ	専	助教	江頭 信二 ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学) 数学特別研究1 数学特別研究2 幾何学特論Ⅲ 幾何学特論Ⅳ【隔年】 数学特論Ⅴ 数学論議Ⅳ
専	助教	金光 秋博 ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学) 数学特別研究1 数学特別研究2 数学特論Ⅲ 数学論議ⅣⅣ	専	助教	金光 秋博 ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学) 数学特別研究1 数学特別研究2 数学特論Ⅲ 数学論議ⅣⅣ	専	助教	金光 秋博 ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学) 数学特別研究1 数学特別研究2 数学特論Ⅲ 数学論議ⅣⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		Jean Stefan KOSKIVIRTA ＜令和4年4月＞ PhD in Mathematics (75ｼｽ)
		数学特別研究1 数学特別研究2 代数学特論Ⅲ 代数学特論Ⅳ【隔年】 数学特論Ⅳ 数学特論Ⅴ
専 助教		高橋 悠樹 ＜令和4年4月＞ PhD in Mathematics (7ﾌｻｶ)
		数理電子情報特論Ⅱ※【隔年】 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論Ⅳ【隔年】 解析学特論Ⅶ【隔年】 数学特論Ⅹ 数学特論Ⅵ
専 助教		石川 良 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		福田 優貴 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		清水 麻希 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		成瀬 雅人 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		藤川 紗千恵 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		間邊 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		三澤 亮太 ＜令和4年4月＞ 博士（情報学）
		電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		吉住 年弘 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		藤本 純治 ＜令和4年7月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 准教授		Jean Stefan KOSKIVIRTA ＜令和4年4月＞ PhD in Mathematics (75ｼｽ)
		数学特別研究1 数学特別研究2 代数学特論Ⅲ 代数学特論Ⅳ【隔年】 数学特論Ⅳ 数学特論Ⅴ
専 助教		高橋 悠樹 ＜令和4年4月＞ PhD in Mathematics (7ﾌｻｶ)
		数理電子情報特論Ⅱ※【隔年】 数学特別研究1 数学特別研究2 解析学特論Ⅳ【隔年】 解析学特論Ⅶ【隔年】 数学特論Ⅹ 数学特論Ⅵ
専 助教		石川 良 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 准教授		福田 優貴 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ 放電プラズマ工學特論
専 助教		清水 麻希 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		成瀬 雅人 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		藤川 紗千恵 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		間邊 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		吉住 年弘 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
専 助教		藤本 純治 ＜令和4年7月＞ 博士（理学）
		電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	菅野 円隆 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	菅野 円隆 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	菅野 円隆 <令和4年4月> 博士(工学)
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 光ハードウェア機械学習特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論講Ⅰ 情報工学論講Ⅱ
専	助教	木村 慧 <令和4年4月> 博士(情報理工学)						
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ						
専	助教	島田 裕 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	島田 裕 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	島田 裕 <令和4年4月> 博士(工学)
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ ネットワーク科学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論講Ⅰ 情報工学論講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ ネットワーク科学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論講Ⅰ 情報工学論講Ⅱ
専	助教	杉浦 陽介 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	杉浦 陽介 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	杉浦 陽介 <令和4年4月> 博士(工学)
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ
専	助教	安井 希子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	安井 希子 <令和4年4月> 博士(工学)			
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			
			専	助教	入山 太朗 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	入山 太朗 <令和4年4月> 博士(工学)
					情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ
			専	助教	鈴木 亮太 <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	鈴木 亮太 <令和4年4月> 博士(工学)
					情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ
						専	助教	清川 宏晴 <令和5年4月> 博士(工学)
								情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ
兼任	教授	小林 裕一 <令和4年4月> 経済学士	兼任	教授	小林 裕一 <令和4年4月> 経済学士	兼任	教授	小林 裕一 <令和4年4月> 経済学士
		技術者のための産業経営特論			技術者のための産業経営特論			技術者のための産業経営特論
兼任	教授	新井 正敏 <令和4年4月> 修士(工学)	兼任	教授	新井 正敏 <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	教授	新井 正敏 <令和4年4月> 博士(工学)
		課題解決型特別演習A			課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ			課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任	教授	寺本 進 <令和4年4月> 工学士	兼任	教授	寺本 進 <令和4年4月> 工学士	兼任	教授	寺本 進 <令和4年4月> 工学士
		課題解決型特別演習B			課題解決型特別演習B			課題解決型特別演習B
兼任	教授 (研究科長)	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士	兼任	教授	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士			
		課題解決型特別演習C			課題解決型特別演習C			
兼任	教授	重原 孝臣 <令和4年4月> 理学博士	専	教授	重原 孝臣 <令和4年4月> 理学博士	専	教授	重原 孝臣 <令和4年4月> 理学博士
		情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 数値解析特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学論講Ⅰ 情報工学論講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 数値解析特論【隔年】 プレゼンテーション特別演習 情報工学論講Ⅰ 情報工学論講Ⅱ			情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 数値解析特論【隔年】 プレゼンテーション特別演習 情報工学論講Ⅰ 情報工学論講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習
兼任	准教授	長谷川 有貴 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ スマートセンシング特論 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
兼任	准教授	松永 康佑 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 生命情報工学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学特論Ⅰ 情報工学特論Ⅱ
兼任	連携教授	平山 秀樹 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 量子光デバイス工学特論
兼任	連携教授	阿部 英樹 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 水素変換材料工学特論
兼任	連携准教授	青山 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 有機半導体工学特論
兼任	連携准教授	栗原 英紀 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 新材料の製品化プロセス特論
兼任	連携准教授	半田 隆志 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 新材料の製品化プロセス特論
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報） 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化） 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士（工学） 課題解決型特別演習D
兼任	教授	石川 能幸 ＜令和4年8月＞ 経営学士 課題解決型特別演習E
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
兼任	准教授	長谷川 有貴 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ スマートセンシング特論 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
兼任	准教授	松永 康佑 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 生命情報工学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学特論Ⅰ 情報工学特論Ⅱ
兼任	連携教授	平山 秀樹 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 量子光デバイス工学特論
兼任	連携教授	阿部 英樹 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 水素変換材料工学特論
兼任	連携准教授	青山 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 有機半導体工学特論
兼任	連携准教授	栗原 英紀 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 新材料の製品化プロセス特論
兼任	連携准教授	半田 隆志 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 新材料の製品化プロセス特論
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報） 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化） 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士（工学） 課題解決型特別演習DⅠ 課題解決型特別演習DⅡ
兼任	教授	石川 能幸 ＜令和4年8月＞ 経営学士 課題解決型特別演習E
兼任	教授	土屋 政幸 ＜令和6年4月＞ 医学博士 課題解決型特別演習C
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
専任	准教授	長谷川 有貴 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 電気電子物理工学特別研究Ⅰ 電気電子物理工学特別研究Ⅱ スマートセンシング特論 電気電子物理工学特論Ⅰ 電気電子物理工学特論Ⅱ 電気電子物理工学特論Ⅲ 電気電子物理工学特論Ⅳ
兼任	准教授	松永 康佑 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 情報工学特別研究Ⅰ 情報工学特別研究Ⅱ 生命情報工学特論 プレゼンテーション特別演習 情報工学特論Ⅰ 情報工学特論Ⅱ
兼任	連携教授	平山 秀樹 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 量子光デバイス工学特論
兼任	連携教授	阿部 英樹 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 水素変換材料工学特論
兼任	連携准教授	青山 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 有機半導体工学特論
兼任	連携准教授	栗原 英紀 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 新材料の製品化プロセス特論
兼任	連携准教授	半田 隆志 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 新材料の製品化プロセス特論
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報） 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化） 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士
		科学技術日本語Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士
		科学技術日本語Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士
		科学技術日本語Ⅲ

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。

その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**

- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上位に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・ 下川航也教授就任辞退。後任未定であるが、令和5年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・ 三澤亮太助教就任辞退。後任補充のため令和4年7月から専任教員（助教）採用内定。
- ・ 木村慧助教就任辞退。後任補充のため令和4年4月から専任教員（入山助教）採用。
- ・ 令和4年4月 入山太嗣助教就任。
- ・ 令和4年4月 鈴木亮太助教就任。
- ・ 重原孝臣教授（兼担）異動により、教授（専任）として就任。
- ・ 令和4年7月 藤本純治助教就任。

【令和5年度】

- ・ 吉川宣一准教授辞任。後任未定であるが、令和6年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・ 安井希子助教辞任。後任未定であるが、令和6年4月から専任教員採用予定で公募予定。
- ・ 令和5年4月 横山知郎教授就任。
- ・ 令和5年4月 岩崎慶教授就任。
- ・ 令和5年4月 PUNPONGSANON PARINYA 准教授就任。
- ・ 令和5年4月 清川宏暁助教就任。
- ・ 土方泰斗准教授（専任）異動により、准教授（兼担）へ配置換。
- ・ 長谷川有貴准教授（兼担）異動により、准教授（専任）として就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
21	14	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
23	22	0	17	62	0	29	22	0	14	65	0
(26)	(22)	(0)	(14)	(62)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
55	23	7	0		61	29	4	0			
(57)	(26)	(5)	(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
29	22	0	14	65	0	29	22	0	14	65	0
[6]	[0]	[0]	[Δ3]	[3]	[0]	[6]	[0]	[0]	[Δ3]	[3]	[0]
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
61	29	4	0		61	29	4	0			
[6]	[6]	[Δ3]	[0]		[6]	[6]	[Δ3]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{65}{62} = \boxed{104.83} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{65} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	下川 航也	R4.3	選択	数学特別研究Ⅰ	①	R4.4.1付け他大学へ転任のため就任辞退（４）						
				選択	数学特別研究Ⅱ	①							
				選択	幾何学特論Ⅴ	①							
				選択	数学特論Ⅹ	③							
				選択	数学論講ⅩⅢ	③							
2	助教	三澤 亮太	R4.3	選択	電気電子物理工学論講Ⅰ	①	R4.4.1付け他機関へ採用のため就任辞退（４）						
				選択	電気電子物理工学論講Ⅱ	①							
				選択	電気電子物理工学論講Ⅲ	①							
				選択	電気電子物理工学論講Ⅳ	①							
3	助教	木村 慧	R3.9	選択	情報工学特別研究Ⅰ	①	R3.10.1付け他大学へ転任のため就任辞退（４）						
				選択	情報工学特別研究Ⅱ	①							
合 計（Ｄ）						後任補充状況の集計（Ｅ）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
3	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	11	科目	選択	9	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	9	科目	計	0	科目	計	2	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	准教授	吉川 宣一	R5.3	選択	情報工学特別研究Ⅰ	①	R5.3.31付け他大学へ転任のため辞任（５）						
				選択	情報工学特別研究Ⅱ	①							
				選択	光情報工学特論	③							
				選択	プレゼンテーション特別演習	①							
				選択	情報工学論講Ⅰ	①							
2	助教	安井 希子	R5.3	選択	情報工学特別研究Ⅱ	①	R5.3.31付け他機関へ転任のため辞任（５）						
				選択	情報工学特別研究Ⅰ	①							
				選択	情報工学特別研究Ⅱ	①							
合 計（Ｆ）						後任補充状況の集計（Ｇ）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
2	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	8	科目	選択	7	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	7	科目	計	0	科目	計	1	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
5	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	19	科目	選択	16	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	19	科目	計	16	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{5}{62} = 8.06\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D)+(F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計						後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>
対象科目は専攻内の専任教員が代替している又は代替する予定であり教育上の問題はない。

<学生への周知方法>
学生に対しては、オンラインツール (WEB教務システム及びWEBシラバス) により周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年度)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<理工学研究科 数理電子情報専攻>

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教育部長、副教育部長、各プログラム選出の教員からなる教育企画委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

必要に応じて随時（年2～3回程度）開催している。案件によりメール等での意見交換を随時行っている。

c 委員会の審議事項等

FD活動の企画及び実施に関する事項、FDに関する必要事項の他、研究科教育カリキュラムに係る事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ FDに関連した講演会
- ・ 学生による授業評価アンケート結果の共有
- ・ 新任教員のための研修会（全学的に実施）

b 実施方法

全教員を対象としたFDシンポジウムや学生による授業評価結果を共有し資質向上を図ることとしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

毎年度定期的に開催している。教員全員がいずれかの機会に参加できるように周知している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

アンケート結果などにより各教員へ周知し、授業改善への取組を促している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に全学的に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全教員に対して評価結果を配付し、学生からの意見をフィードバックしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

入学定員の充足状況、教員の配置状況、施設・設備の整備状況、教育課程の編成状況など、いずれも当初の計画に沿って着実に実施している。特に新たに開設した特別教育プログラムを含めた人材育成に重点的に取り組んでいる。今後も設置の趣旨・目的に沿って確実に実施すると共に、教育・研究の水準の向上に取り組んでいく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年10月頃 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和6年10月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和5年度に評価機関（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [☐ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 機械科学専攻 (博士前期課程)

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ……」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜機械科学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名

埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		
専攻長	(アライ ヨシオ) 荒居 善雄 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
理工学研究科 機械科学専攻 修士(工学)	工学関係	2年	70人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	140人	—	基礎となる学部 工学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	70 () []	人 () []	70 () []	1.21倍	—	1.21倍	—		
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	124 () [19]	4 () [4]	115 () [11]						() []
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	108 () [11]	4 () [4]	99 () [8]						() []
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	91 () [0]	2 () [2]	93 () [5]						() []
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	87 () [0]	2 () [2]	81 () [5]						() []
入学定員超過率 B/A									1.27		1.15						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	87 [0] (－)	2 [2] (－)	81 [5] (－)	－ [－] (－)	
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	87 [0] (－)	2 [2] (－)	
3 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
4 年次											－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計			－ [－] (－)		－ [－] (－)						－ [－] (－)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
令和元年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
令和2年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
令和3年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
令和4年度	89 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
令和5年度	170 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{89} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{170} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科 機械科学専攻＞

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・3①～④		2							1	
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2							1	
	国際教育特別演習	1・2①～②		2							1	
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・3①～④		1							2	
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・3①～④		1							2	
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・3①～④		1							1	
	特別研修A 1	1・2通		1							1	
	特別研修A 2	1・2通		2							1	
	特別研修A 3	1・2通		3							1	
	特別研修A 4	1・2通		4							1	
	特別研修B 1	1・2通		1							1	
	特別研修B 2	1・2通		2							1	
	特別研修B 3	1・2通		3							1	
	特別研修B 4	1・2通		4							1	
	課題解決型特別演習A	1・2①～②・3①～④		2							1	
課題解決型特別演習B	1・2①～②		2							1		
課題解決型特別演習C	1・2③		1							1		
小計（17科目）			—	0	34	0	0	0	0	0	10	
専 門 科 目	機 械 科 学 ブ ロ グ ラ ム	機械科学特別研究Ⅰ	1通	3			11	10		1		
		機械科学特別研究Ⅱ	2通	3			11	10		1		
		機械科学輪講Ⅰ	1通	3			11	10		5		
		機械科学輪講Ⅱ	2通	3			11	10		5		
		材料力学特論	1・2③		2		1					
		生産工学特論	1・2③～④		2			1				
		加工工学特論	1・2③～④		2			1				
		機械要素特論	1・2③		2		1					
		流体力学特論	1・2①～②		2			1				
		熱エネルギー特論	1・2③～④		2		1					
		マンマシンインターフェイス特論	1・2②		2		1					
		ロボティクス特論	1・2②		2		1					
		機械システム制御特論	1・2①～②		2		1					
		トランスファー・エンジニアリング特論	1・2③～④		2		1					
		加工物性特論	1・2③～④		2		1					
		破壊力学特論	1・2④		2		1					
		材料工学特論	1・2①		2		1					
		材料評価工学特論	1・2④		2			1				
		機械運動学特論	1・2②		2			1				
		気体力学特論	1・2①～②		2		1					
		反応性気体力学特論	1・2③～④		2			1				
		メカトロニクスシステム特論	1・2③～④		2		1					
		バイオロボット工学特論	1・2①～②		2			1				
		機械力学特論	1・2④		2		1					
		動システム解析特論	1・2④		2		1					
		ロボット設計学特論	1・2①～②		2			1				
		機械システムダイナミクス特論	1・2①		2			1				
		ユーザビリティ工学特論	1・2③～④		2			1				
		認知工学特論	1・2②		2			1				
		インターンシップ	1・2通		1			1				
		小計（30科目）			—	12	51	0	11	10	0	5
合計（47科目）			—	12	85	0	11	10	0	5	0	10

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・3①～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ（未開講）	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ	1・2①		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・3①～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・3①～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・3①～④		1								1
	特別研修A 1	1・2通		1								1
	特別研修A 2	1・2通		2								1
	特別研修A 3	1・2通		3								1
	特別研修A 4	1・2通		4								1
	特別研修B 1	1・2通		1								1
	特別研修B 2	1・2通		2								1
	特別研修B 3	1・2通		3								1
	特別研修B 4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②・③～④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習DⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習DⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習E	1・2①～②・③～④		2								1
	小計（22科目）	—	0	45	0	0	0	0	0	0	0	12
専 門 科 目	機械科学特別研究Ⅰ	1通	3			12	9	1				
	機械科学特別研究Ⅱ	2通	3			12	9	1				
	機械科学輪講Ⅰ	1通	3			12	9	1	6			
	機械科学輪講Ⅱ	2通	3			12	9	1	6			
	材料力学特論	1・2①～②		2	1							
	生産工学特論	1・2③～④		2		1						
	加工工学特論	1・2③～④		2	1							
	機械要素特論	1・2③		2	1							
	流体力学特論	1・2①～②		2		1						
	熱エネルギー特論	1・2③～④		2	1							
	マンマシンインターフェイス特論（未開講）	1・2②		2	1							
	ロボティクス特論	1・2②		2	1							
	機械システム制御特論	1・2①～②		2	1							
	トランスファー・エンジニアリング特論	1・2③～④		2	1							
	加工物性特論	1・2③～④		2	1							
	破壊力学特論（未開講）	1・2④		2								
	材料工学特論	1・2①		2	1							
	材料評価工学特論	1・2④		2	1							
	機械運動学特論	1・2①		2		1						
	気体力学特論（未開講）	1・2①～②		2	1							
	反応性気体力学特論	1・2③～④		2		1						
	メカトロニクスシステム特論	1・2③～④		2	1							
	バイオロボット工学特論	1・2①～②		2		1						
	機械力学特論	1・2④		2	1							
	動システム解析特論	1・2④		2	1							
	ロボット設計学特論	1・2①～②		2		1						
	機械システムダイナミクス特論（未開講）	1・2①		2		1						
	ユーザビリティ工学特論	1・2③～④		2		1						
	認知工学特論	1・2②		2		1						
	インターンシップ	1・2通		1		1						
	小計（30科目）	—	12	51	0	12	9	1	6	0	0	
合計（52科目）		—	12	96	0	12	9	1	6	0	12	

卒業要件及び履修方法

機械科学専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（工学）を授与する。

（機械科学プログラムの修了要件）

機械科学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
- 2) 機械科学プログラムの専門科目から12単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

卒業要件及び履修方法

機械科学専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（工学）を授与する。

（機械科学プログラムの修了要件）

機械科学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
- 2) 機械科学プログラムの専門科目から12単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

【令和4年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任		
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
課程共通科目		技術者のための産業経営特論	1・2①～②・③～④		2								1	
		知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1	
		国際教育特別演習Ⅰ	1・2①～②		2								1	
		国際教育特別演習Ⅱ(未開講)	1・2①～②		2								1	
		科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・③～④		1								2	
		科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・③～④		1								2	
		科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・③～④		1								1	
		特別研修A1	1・2通		1								1	
		特別研修A2	1・2通		2								1	
		特別研修A3	1・2通		3								1	
		特別研修A4	1・2通		4								1	
		特別研修B1	1・2通		1								1	
		特別研修B2	1・2通		2								1	
		特別研修B3	1・2通		3								1	
		特別研修B4	1・2通		4								1	
		課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1	
		課題解決型特別演習AⅡ	1・2①～②		2								1	
		課題解決型特別演習B	1・2①～②・③～④		2								1	
		課題解決型特別演習C	1・2③		1								1	
		課題解決型特別演習D	1・2①～②		2								1	
	課題解決型特別演習E	1・2①～②		2								1		
	小計（21科目）	—	0	42	0	0	0	0	0	0	0	12		
専門科目	機械科学プログラム	機械科学特別研究Ⅰ	1通	3			13	9						
		機械科学特別研究Ⅱ	2通	3			13	9						
		機械科学輪講Ⅰ	1通	3			13	9			5			
		機械科学輪講Ⅱ	2通	3			13	9			5			
		材料力学特論	1・2③		2		1							
		生産工学特論	1・2③～④		2			1						
		加工学特論	1・2③～④		2		1							
		機械要素特論	1・2③		2		1							
		流体力学特論	1・2①～②		2			1						
		熱エネルギー特論	1・2③～④		2		1							
		マンマシンインターフェイス特論	1・2②		2		1							
		ロボティクス特論(未開講)	1・2②		2		1							
		機械システム制御特論	1・2①～②		2		1							
		トランスファー・エンジニアリング特論	1・2③～④		2		1							
		加工物性特論(未開講)	1・2③～④		2		1							
		破壊力学特論	1・2④		2		1							
		材料工学特論	1・2①		2		1							
		材料評価工学特論	1・2④		2		1							
		機械運動学特論	1・2②		2			1						
		気体力学特論	1・2①～②		2		1							
		反応性気体力学特論	1・2③～④		2			1						
		メカトロニクスシステム特論	1・2③～④		2		1							
		バイオリボット工学特論	1・2①～②		2			1						
		機械力学特論	1・2④		2		1							
		動システム解析特論	1・2④		2		1							
		ロボット設計学特論	1・2①～②		2			1						
		機械システムダイナミクス特論	1・2①		2			1						
		ユーザビリティ工学特論	1・2③～④		2			1						
		認知工学特論	1・2②		2			1						
			インターンシップ	1・2通		1		1						
			小計（30科目）	—	12	51	0	13	9	0	5	0	0	
合計（51科目）		—	12	93	0	13	9	0	5	0	0	12		

卒業要件及び履修方法

機械科学専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（工学）を授与する。

（機械科学プログラムの修了要件）

機械科学プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
- 2) 機械科学プログラムの専門科目から12単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は、4単位までとする。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 1) 機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
- 2) 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 3) 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

- （注）
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習D」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・教員の昇任により、「機械科学特別研究Ⅰ」の専任教員の配置を「教授11、准教授10、助教1」から「教授13、准教授9」に変更。
- ・教員の昇任により、「機械科学特別研究Ⅱ」の専任教員の配置を「教授11、准教授10、助教1」から「教授13、准教授9」に変更。
- ・教員の昇任及び採用により、「機械科学輪講Ⅰ」の専任教員の配置を「教授11、准教授10、助教5」から「教授13、准教授9、助教5」に変更。
- ・教員の昇任及び採用により、「機械科学輪講Ⅱ」の専任教員の配置を「教授11、准教授10、助教5」から「教授13、准教授9、助教5」に変更。
- ・教員の昇任により、「加工学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「マンマシンインターフェイス特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「ロボティクス特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「トランスファー・エンジニアリング特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「加工物性特論」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「材料評価工学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教員の昇任により、「インターンシップ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。

【令和5年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習C」の単位数を「1」から「2」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅠ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅡ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「機械科学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授10、助教1」から「教授12、准教授9、講師1」に変更。
- ・教員の昇任、採用及び退職により、「機械科学特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授10、助教1」から「教授12、准教授9、講師1」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「機械科学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授10、助教5」から「教授12、准教授9、講師1、助教6」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「機械科学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授10、助教5」から「教授12、准教授9、講師1、助教6」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「材料力学特論」の配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の昇任により、「加工学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「マンマシンインターフェイス特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「ロボティクス特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「トランスファー・エンジニアリング特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「加工物性特論」を隔年開講に変更。
- ・教員の退職により、「破壊力学特論」の後任を検討中。
- ・教員の昇任により、「材料評価工学特論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「機械運動学特論」の配当年次を「1・2②」から「1・2①」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「気体力学特論」を隔年開講に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「機械システムダイナミクス特論」を隔年開講に変更。
- ・教員の昇任により、「インターンシップ」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	43 科目	0 科目	47 科目	4 科目 [0]	48 科目 [5]	0 科目 [0]	52 科目 [5]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	国際教育特別演習Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
2	マンマシンインターフェイス特論	2	1・2②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
3	破壊力学特論	2	1・2④	専門	選択	担当教員退職のため。後任検討中。
4	気体力学特論	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
5	機械システムダイナミクス特論	2	1・2①	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>

隔年開講科目：令和6年度開講予定。

破壊力学特論：専攻内には他科目が充分に開講されており、また今後他教員が代替する予定であり教育上の問題はない。

<学生への周知方法>

オンラインツール（WEB教務システム及びWEBシラバス）及びガイダンスにより周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{5}{47} = \boxed{10.63} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	167,509 m ²	0 m ²	0 m ²	167,509 m ²					
	運動場用地	95,531 m ²	0 m ²	0 m ²	95,531 m ²					
	小 計	263,040 m ²	0 m ²	0 m ²	263,040 m ²					
	そ の 他	131,515 m ²	0 m ²	0 m ²	131,515 m ²					
	合 計	394,555 m ²	0 m ²	0 m ²	394,555 m ²					
(2)校舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		140,745 m ² (140,745 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	140,745 m ² (140,745 m ²)					
(3)教室等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 改修等による増減（４） 種別変更等による増減（５）			
		92 室	87 93 97 室	279 270 272 室	4 室 (補助職員 0 人)	2 室 (補助職員 0 人)				
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		令和４年４月 専任助教１名を新規 採用のため（４） 令和５年４月 専任教員を新規採用のため（５）				
		理工学研究科 機械科学専攻		28 27 26 室						
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能 なため、大学全体の数		
	理工学研究科 機械科学専攻	903,761〔276,939〕 (906,343〔276,784〕)	22,199〔5,564〕 (22,345〔5,589〕)	13,541〔13,530〕 (13,914〔13,901〕)	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)	0 (0)			
	計	903,761〔276,939〕 (906,343〔276,784〕)	22,199〔5,564〕 (22,345〔5,589〕)	13,541〔13,530〕 (13,914〔13,901〕)	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)	0 (0)			
(6)図書館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 書架増設のため（４） 書架増設のため（５）		
		8,439 m ²		919		911,944 917,969 918,333				
(7)体育館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		4,474 m ²		野球場		テニスコート 他				
(8)経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
		教員１人当たり研究費等		千円	千円	図書購入費	千円	千円		千円
		共 同 研 究 費 等		千円	千円	設備購入費	千円	千円		千円
	学生１人当たり 納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5) 図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和 5 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において 赤字で見え消し した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 学 校 名	埼 玉 大 学										平均入学定員 超過率0.7倍以 下の学科数	0	平均入学定員 超過率1.15倍 以上の学科数	0	収容定員充足 率0.7倍以下の 学科数	0	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数	1
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考					
教養学部	4	160	年次 人	700	—	1.05	—	1.11	1.04	—	昭和40	埼玉県さいたま市 桜区下大久保255						
教養学科	4	160	3年次 30	700	学士 (教養)	1.05	—	1.11	1.04	—	昭和40							
経済学部	4	295	3年次 10	1,200	—	1.06	—	1.11	1.06	—	平成27							
経済学科(昼間コース)	4	280	3年次 10	1,140	学士 (経済学)	1.06	—	1.12	1.07	—	平成27							
経済学科(夜間主コース)	4	15	—	60	学士 (経済学)	1.04	—	0.93	0.86	—	平成27							
教育学部	4	380	—	1,520	—	1.02	1.02	1.05	1.03	—	平成11	同上						
学校教育教員養成 課程	4	360	—	1,440	学士 (教育学)	1.02	1.02	1.05	1.03	—	平成18	同上						
養護教諭養成課程	4	20	—	80	学士 (教育学)	1.02	—	1.05	1.03	—	平成18	同上						
理学部	4	210	—	840	—	1.04	—	1.05	1.01	—	平成7	同上						
数学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.09	—	1.15	1.07	—	平成7	同上						
物理学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.04	—	1.01	0.98	—	平成7	同上						
基礎化学科	4	50	—	200	学士 (理学)	1.04	—	1.03	1.00	—	平成7	同上						
分子生物学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.01	—	1.02	0.98	—	平成7	同上						
生体制御学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.03	—	1.03	1.02	—	平成7	同上						
工学部	4	490	—	1,960	—	1.01	1.01	1.07	1.02	—	平成30	同上						
機械工学・システ ムデザイン学科	4	110	—	440	学士 (工学)	1.03	—	1.13	1.05	—	平成30	同上						
電気電子物理工学 科	4	110	—	440	学士 (工学)	0.99	—	1.07	0.99	—	平成30	同上						
情報工学科	4	80	—	320	学士 (工学)	1.04	1.03	1.06	1.02	—	平成30	同上						
応用化学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.00	—	1.02	0.98	—	平成30	同上						
環境社会デザイン 学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.02	1.02	1.07	1.04	—	平成30	同上						
大学全体	4	1,535	3年次 40	6,220	—	—	—	—	—	—	—	—						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜理工学研究科 機械科学専攻＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		荒居 善雄 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 材料力学特論
専 教授		荒木 稚子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 破壊力学特論
専 教授		池野 順一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ トランスファー・エンジニアリング特論 加工物性特論
専 教授		小原 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 熱エネルギー特論
専 教授		薩山 健介 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 材料工学特論
専 教授		高崎 正也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械システム制御特論 メカトロニクスシステム特論
専 教授		長嶺 拓夫 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械力学特論
専 教授		平原 裕行 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 気体力学特論
専 教授		山本 浩 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械要素特論
専 教授		渡邊 鉄也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 動システム解析特論

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		荒居 善雄 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 材料力学特論
専 教授		荒木 稚子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 破壊力学特論
専 教授		池野 順一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ トランスファー・エンジニアリング特論 加工物性特論【隔年】
専 教授		小原 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 熱エネルギー特論
専 教授		薩山 健介 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 材料工学特論
専 教授		高崎 正也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械システム制御特論 メカトロニクスシステム特論
専 教授		長嶺 拓夫 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械力学特論
専 教授		平原 裕行 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 気体力学特論
専 教授		山本 浩 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械要素特論
専 教授		渡邊 鉄也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 動システム解析特論

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		荒居 善雄 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 材料力学特論
専 教授		
専 教授		池野 順一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ トランスファー・エンジニアリング特論【隔年】 加工物性特論【隔年】
専 教授		小原 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 熱エネルギー特論
専 教授		薩山 健介 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 材料工学特論
専 教授		高崎 正也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械システム制御特論 メカトロニクスシステム特論
専 教授		長嶺 拓夫 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械力学特論
専 教授		平原 裕行 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 気体力学特論【隔年】
専 教授		山本 浩 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 機械要素特論
専 教授		渡邊 鉄也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論Ⅰ 機械科学論Ⅱ 動システム解析特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		阿部 壮志 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		鄭 穎 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		成澤 慶宣 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		山田 典晴 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		山田 洋平 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
兼任 教授		小林 裕一 <令和4年4月> 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 <令和4年4月> 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任 教授		新井 正敏 <令和4年4月> 修士(工学)
		課題解決型特別演習A
兼任 教授		寺本 進 <令和4年4月> 工学士
		課題解決型特別演習B
兼任 教授(研究科長)		黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士
		課題解決型特別演習C

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 准教授		阿部 壮志 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ 生産工学特論
専 助教		鄭 穎 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		成澤 慶宣 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		山田 典晴 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		山田 洋平 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		大澤 優輔 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		木山 素仁 <令和5年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		末田 美和 <令和5年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
兼任 教授		小林 裕一 <令和4年4月> 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 <令和4年4月> 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任 教授		新井 正敏 <令和4年4月> 博士(工学)
		課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任 教授		寺本 進 <令和4年4月> 工学士
		課題解決型特別演習B
		黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士
		課題解決型特別演習C

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 准教授		阿部 壮志 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ 生産工学特論
専 講師		長谷川 圭介 <令和5年4月> 博士(情報理工学)
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		鄭 穎 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		成澤 慶宣 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		山田 洋平 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		大澤 優輔 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
専 助教		木山 素仁 <令和5年4月> 博士(工学)
		機械科学論議Ⅰ 機械科学論議Ⅱ
兼任 教授		小林 裕一 <令和4年4月> 経済学士
		技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 <令和4年4月> 理学博士
		特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4
兼任 教授		新井 正敏 <令和4年4月> 博士(工学)
		課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任 教授		寺本 進 <令和4年4月> 工学士
		課題解決型特別演習B
		黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士
		課題解決型特別演習C

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任 教授		伊佐 俊紀 <令和4年8月> 修士(工学) 課題解決型特別演習D	兼任 教授		伊佐 俊紀 <令和4年8月> 修士(工学) 課題解決型特別演習DⅠ 課題解決型特別演習DⅡ
			兼任 教授		石川 能幸 <令和4年8月> 経営学士 課題解決型特別演習E	兼任 教授		石川 能幸 <令和4年8月> 経営学士 課題解決型特別演習E
						兼任 教授		土屋 政幸 <令和5年4月> 医学博士 課題解決型特別演習C
兼任	准教授	長沢 誠 <令和4年4月> 修士(教育学) 国際教育特別演習	兼任	准教授	長沢 誠 <令和4年4月> 修士(教育学) 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】	兼任	准教授	長沢 誠 <令和4年4月> 修士(教育学) 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
兼任	講師	有馬 百子 <令和4年4月> 博士(工学) 知的財産権の概要とその活用	兼任	講師	有馬 百子 <令和4年4月> 博士(工学) 知的財産権の概要とその活用	兼任	講師	有馬 百子 <令和4年4月> 博士(工学) 知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 <令和4年4月> 修士(文化情報) 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ	兼任	講師	小林 寛典 <令和4年4月> 修士(文化情報) 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ	兼任	講師	小林 寛典 <令和4年4月> 修士(文化情報) 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 <令和4年4月> 学士(外国文化) 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ	兼任	講師	吉田 美幸 <令和4年4月> 学士(外国文化) 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ	兼任	講師	吉田 美幸 <令和4年4月> 学士(外国文化) 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士 科学技術日本語Ⅲ	兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士 科学技術日本語Ⅲ	兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士 科学技術日本語Ⅲ

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。

その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**

- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・ 令和4年4月 大澤優輔助教就任。

【令和5年度】

- ・ 荒木稚子教授辞任。後任未定であるが、令和6年4月から専任教員採用予定で公募予定。
- ・ 山田典靖助教辞任。後任未定であるが、令和6年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・ 令和5年4月 長谷川圭介講師就任。
- ・ 令和5年4月 木山景仁助教就任。
- ・ 令和5年4月 末田美和助教就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
10	7	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
11	10	0	5	26	0	12	9	1	6	28	0
(13)	(9)	(0)	(5)	(27)	(0)						
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
22	11	3	1		24	12	3	1			
(23)	(13)	(3)	(1)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
12	9	1	6	28	0	12	9	1	6	28	0
[1]	[Δ1]	[1]	[1]	[2]	[0]	[1]	[Δ1]	[1]	[1]	[2]	[0]
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			
24	12	3	1		24	12	3	1			
[2]	[1]	[0]	[0]		[2]	[1]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{26} = \boxed{107.69} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{28} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	荒木 稚子	R5.3	必修	機械科学特別研究Ⅰ	①	R5.3.31付け他大学へ転任のため辞任（５）						
				必修	機械科学特別研究Ⅱ	①							
				必修	機械科学輪講Ⅰ	①							
				必修	機械科学輪講Ⅱ	①							
				選択	破壊力学特論	③							
2	助教	山田 典靖	R5.3	必修	機械科学輪講Ⅰ	①	R5.3.31付け他機関へ転任のため辞任（５）						
				必修	機械科学輪講Ⅱ	①							
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
2	人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	6	科目	計	0	科目	計	1	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)								
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
2	人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	6	科目	計	0	科目	計	1	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{26} = 7.69 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>
 対象科目は専攻内の専任教員が代替している又は代替する予定であり教育上の問題はない。

<学生への周知方法>
 学生に対しては、オンラインツール (WEB教務システム及びWEBシラバス) により周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年度)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜理工学研究科 機械科学専攻＞

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教育部長、副教育部長、各プログラム選出の教員からなる教育企画委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

必要に応じて随時（年2～3回程度）開催している。案件によりメール等での意見交換を随時行っている。

c 委員会の審議事項等

FD活動の企画及び実施に関する事項、FDに関する必要事項の他、研究科教育カリキュラムに係る事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ FDに関連した講演会
- ・ 学生による授業評価アンケート結果の共有
- ・ 新任教員のための研修会（全学的に実施）

b 実施方法

全教員を対象としたFDシンポジウムや学生による授業評価結果を共有し資質向上を図ることとしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

毎年度定期的に開催している。教員全員がいずれかの機会に参加できるように周知している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

アンケート結果などにより各教員へ周知し、授業改善への取組を促している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に全学的に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全教員に対して評価結果を配付し、学生からの意見をフィードバックしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

入学定員の充足状況、教員の配置状況、施設・設備の整備状況、教育課程の編成状況など、いずれも当初の計画に沿って着実に実施している。特に新たに開設した特別教育プログラムを含めた人材育成に重点的に取り組んでいる。今後も設置の趣旨・目的に沿って確実に実施すると共に、教育・研究の水準の向上に取り組んでいく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年10月頃 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和6年10月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和5年度に評価機関（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [☐ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 環境社会基盤専攻（博士前期課程）

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜環境社会基盤専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名

埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		
専攻長	(フジノ タケシ) 藤野 毅 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
理工学研究科 環境社会基盤 専攻 修士(工学)	工学関係	2 年	55 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	110 人	—	基礎となる学部 工学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	55 (—) [—]	55 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	1.08 倍	—	1.09 倍	—	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	62 (—) [18]	8 (—) [8]	80 (—) [26]	— (—) [—]					
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	56 (—) [17]	8 (—) [8]	67 (—) [26]	— (—) [—]					
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	56 (—) [17]	8 (—) [8]	65 (—) [24]	— (—) [—]					
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	51 (—) [17]	8 (—) [8]	61 (—) [23]	— (—) [—]					
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	1.07	1.10	—	—					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	51 [17] (－)	8 [8] (－)	61 [23] (－)	－ [－] (－)	
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	49 [15] (－)	8 [8] (－)	
3 年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
4 年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計			－ [－] (－)	－ [－] (－)			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	59 [25] (－)	118 [46] (－)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
令和元年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
令和2年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
令和3年度	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
令和4年度	59 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
令和5年度	118 人	0 人	平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{59} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{118} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<理工学研究科 環境社会基盤専攻>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
課程共通科目		技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
		知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
		国際教育特別演習	1・2①～②		2								1
		科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②		1								2
		科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②		1								2
		科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②		1								1
		特別研修A1	1・2通		1								1
		特別研修A2	1・2通		2								1
		特別研修A3	1・2通		3								1
		特別研修A4	1・2通		4								1
		特別研修B1	1・2通		1								1
		特別研修B2	1・2通		2								1
		特別研修B3	1・2通		3								1
		特別研修B4	1・2通		4								1
		課題解決型特別演習A	1・2①～②		2								1
		課題解決型特別演習B	1・2①～②		2								1
		課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	小計（17科目）	—	0	34	0	0	0	0	0	0	0	10	
専門科目	環境社会基盤国際プログラム	環境社会基盤国際特別研究Ⅰ	1通		6		11	8		6			
		環境社会基盤国際特別研究Ⅱ	2通		6		11	8		6			
		環境社会基盤国際特別研究Ⅲ	2通		12		11	8		6			
		構造物のための数値解析(E)	1・2①～②		2		1	1					
		地盤材料学(E)	1・2①～②		2		1						
		地形プロセス学特論(E)	1・2①～②		2			1					
		地図デザイン序説(JE)	1・2①		2		1						
		地盤地震工学特論(E)	1・2③～④		2		1						
		振動波動解析学特論(JE)	1・2④		2			1					
		耐震工学特論(E)	1・2③		2		1						
		構造振動論(E)	1・2①		2		1	1					
		構造設計と解析(JE)	1・2②		2		1						
		コンクリートとその他セメント系材料(E)	1・2③		2					1			
		コンクリート構造物の設計と維持管理(E)	1・2①～②		2		1	1					
		水圏数値解析学(E)	1・2①		2		1						
		水圏工学実践(JE)	1・2通		2		1	1					
		交通システム特論(E)	1・2①		2		1						
		地域・都市計画エクササイズ	1・2③		2		1	2					
		計画数理特論(JE)	1・2①		2			1					
		地盤構造学(E)	1・2③		2		1						
		地震動特論(JE)	1・2②		2			1					
		建設マネジメント(E)	1・2③～④		2								1
			社会基盤特別講義Ⅰ	1・2④		2		1					
	社会基盤特別講義Ⅱ	1・2①～②		2		1							
	社会基盤特別講義Ⅲ(E)	1・2①～②		2		1							
	インターナショナルコミュニケーション	1・2通		2		1							
	環境社会基盤工学輪講Ⅰ	1通		1		11	8		6				
	環境社会基盤工学輪講Ⅱ	2通		1		11	8		6				
	構造力学Ⅲ	1②		2		1							
	耐震・地震工学	1③～④		2			1		1				

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ（未開講）	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ	1・2①		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②③④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②③④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②③④		1								1
	特別研修A1	1・2通		1								1
	特別研修A2	1・2通		2								1
	特別研修A3	1・2通		3								1
	特別研修A4	1・2通		4								1
	特別研修B1	1・2通		1								1
	特別研修B2	1・2通		2								1
	特別研修B3	1・2通		3								1
	特別研修B4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1①～②③④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習DⅠ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習DⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習E	1①～②③④		2								1
小計（22科目）		－	0	45	0	0	0	0	0	0	12	
環境 社会 基盤 国際 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	環境社会基盤国際特別研究Ⅰ	1通		6		11	8		8			
	環境社会基盤国際特別研究Ⅱ	2通		6		11	8		8			
	環境社会基盤国際特別研究Ⅲ	2通		12		11	8		8			
	構造物のための数値解析(E)	1・2①		2		1	1					
	地盤材料学(E)	1・2①～②		2		1						
	地形プロセス学特論(E)	1・2①～②		2			1					
	地図デザイン序説(JE)	1・2①		2		1						
	地盤地震工学特論(E)	1・2③～④		2		1						
	振動波動解析学特論(JE)	1・2④		2			1					
	耐震工学特論(E)	1・2③		2		1						
	構造振動論(E)	1・2①		2		1	1					
	構造設計と解析(JE)	1・2③～④		2		1						
	コンクリートとその他セメント系材料(E)	1・2③		2					1			
	コンクリート構造物の設計と維持管理(E)	1・2③～④		2		1	1					
	水圏数値解析学(E)	1・2①		2		1						
	水圏工学実践(JE)	1・2通		2		1	1					
	交通システム特論(E)	1・2②		2		1						
	地域・都市計画エクササイズ	1・2通		2		1	2					
	計画数理特論(JE)	1・2③～④		2			1					
	地盤構造学(E)	1・2③		2		1						
	地震動特論(JE)	1・2②		2			1					
	建設マネジメント(E)（未開講）	1・2③～④		2								
社会基盤特別講義Ⅰ	1・2通		2		1							
社会基盤特別講義Ⅱ	1・2①～②		2		1							
社会基盤特別講義Ⅲ(E)	1・2通		2		1							
インターナショナルコミュニケーション	1・2通		2		1							
環境社会基盤工学輪講Ⅰ	1通		1		11	8		8				
環境社会基盤工学輪講Ⅱ	2通		1		11	8		8				
構造力学Ⅲ	1②		2		1							
耐震・地震工学	1③～④		2			1		1				

地盤環境工学特論	1・2③～④	2	1								
地盤環境工学特論(E)	1・2④	2	1								
水圏数値解析実践(E)	1・2③	2		1							
科学技術英語特論Ⅰ	1・2③～④	1								1	
科学技術英語特論Ⅱ(E)	1・2③	1								1	
国際工学資格(FE資格)	1・2通	1	1								
地域景観特論(JE)	1・2①～②	2		1							
アドヴァンスト・インターンシップ	1・2①～②	2		1	1						
土木のためのAIとデータサイエンス(JE)	1・2③～④	2		1			1				
水質管理特論(JE)	1・2③	2		1							
生物環境応答特論(E)	1・2④	2					1				
小計(4科目)	—	0	95	0	11	8	0	6	0	2	
合計(58科目)	—	0	129	0	11	8	0	6	0	12	

卒業要件及び履修方法

環境社会基盤専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士(工学)を授与する。

(環境社会基盤国際プログラムの修了要件)

環境社会基盤国際プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- ベトナム国立建設大学とのジョイントマスタープログラムの履修者以外の学生は、環境社会基盤国際特別研究Ⅰ(6単位)及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ(6単位)の2科目12単位を修得すること。なお、環境社会基盤国際特別研究Ⅱを履修するには、環境社会基盤国際特別研究Ⅰの単位を修得していなければならない。
- ベトナム国立建設大学とのジョイントマスタープログラム履修者は、環境社会基盤国際特別研究Ⅲ(12単位)を修得すること。
- 環境社会基盤国際プログラムの専門科目から、英語で開講される選択科目6単位以上を含めて12単位以上を修得すること。なお、次に掲げる授業科目の修了単位の認定については、それぞれ記載のとおりとする。
 - 地盤環境工学特論(2単位)及び地盤環境工学特論(E)(2単位)の2科目を履修した場合は、いずれかの科目を修了単位として認める。
 - 構造力学Ⅲ及び耐震・地震工学は、埼玉大学工学部で未履修の場合に限り、2単位まで修了単位として認める。
 - 科学技術英語特論Ⅰ(1単位)、科学技術英語特論Ⅱ(E)(1単位)又は国際工学資格(FE資格)(1単位)のうち2単位まで修了単位として認める。
- 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は4単位までとする。
- (E)印の付いている科目は英語で開講する科目である。
- (JE)印の付いている科目は日本語と英語を併用する科目である。ただし英語開講科目とはみなさない。

(融合教育プログラムの修了要件)

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ(6単位)及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ(6単位)の2科目12単位を修得すること。
- 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - (a)群から、環境経済学(2単位)又はPublic Policies and SDGs(2単位)の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - (b)群から、環境地質学特論(2単位)、環境生物学特論(2単位)又は水環境工学特論(2単位)の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - (c)群から、グローバルパートナーシップ(1単位)、農作物栽培技術演習(1単位)又はデータ解析学演習(1単位)の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

地盤環境工学特論	1・2③～④	2	1								
地盤環境工学特論(E)	1・2④	2	1								
水圏数値解析実践(E)	1・2③	2		1							
科学技術英語特論Ⅰ	1・2③～④	1								1	
科学技術英語特論Ⅱ(E)	1・2③～④	1								1	
国際工学資格(FE資格)	1・2通	1	1								
地域景観特論(JE)	1・2①～②	2		1							
アドヴァンスト・インターンシップ	1・2①～②	2		1	1						
土木のためのAIとデータサイエンス(JE)	1・2③～④	2		1			1				
水質管理特論(JE)	1・2③	2		1							
生物環境応答特論(E)	1・2④	2							1		
小計(4科目)	—	0	95	0	11	8	0	6	0	2	
合計(63科目)	—	0	140	0	11	8	0	6	0	13	

卒業要件及び履修方法

環境社会基盤専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士(工学)を授与する。

(環境社会基盤国際プログラムの修了要件)

環境社会基盤国際プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- ベトナム国立建設大学とのジョイントマスタープログラムの履修者以外の学生は、環境社会基盤国際特別研究Ⅰ(6単位)及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ(6単位)の2科目12単位を修得すること。なお、環境社会基盤国際特別研究Ⅱを履修するには、環境社会基盤国際特別研究Ⅰの単位を修得していなければならない。
- ベトナム国立建設大学とのジョイントマスタープログラム履修者は、環境社会基盤国際特別研究Ⅲ(12単位)を修得すること。
- 環境社会基盤国際プログラムの専門科目から、英語で開講される選択科目6単位以上を含めて12単位以上を修得すること。なお、次に掲げる授業科目の修了単位の認定については、それぞれ記載のとおりとする。
 - 地盤環境工学特論(2単位)及び地盤環境工学特論(E)(2単位)の2科目を履修した場合は、いずれかの科目を修了単位として認める。
 - 構造力学Ⅲ及び耐震・地震工学は、埼玉大学工学部で未履修の場合に限り、2単位まで修了単位として認める。
 - 科学技術英語特論Ⅰ(1単位)、科学技術英語特論Ⅱ(E)(1単位)又は国際工学資格(FE資格)(1単位)のうち2単位まで修了単位として認める。
- 1)及び2)で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は4単位までとする。
- (E)印の付いている科目は英語で開講する科目である。
- (JE)印の付いている科目は日本語と英語を併用する科目である。ただし英語開講科目とはみなさない。

(融合教育プログラムの修了要件)

融合教育プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ(6単位)及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ(6単位)の2科目12単位を修得すること。
- 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - (a)群から、環境経済学(2単位)又はPublic Policies and SDGs(2単位)の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - (b)群から、**環境分析化学特論**(2単位)、**地盤環境学特論**(2単位)又は水環境工学特論(2単位)の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - (c)群から、グローバルパートナーシップ(1単位)、農作物栽培技術演習(1単位)又はデータ解析学演習(1単位)の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 1)及び2)で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・③～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ(未開講)	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・③～④		1								1
	特別研修A 1	1・2通		1								1
	特別研修A 2	1・2通		2								1
	特別研修A 3	1・2通		3								1
	特別研修A 4	1・2通		4								1
	特別研修B 1	1・2通		1								1
	特別研修B 2	1・2通		2								1
	特別研修B 3	1・2通		3								1
	特別研修B 4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②・③～④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	課題解決型特別演習D	1・2①～②		2								1
課題解決型特別演習E	1・2①～②		2								1	
小計（21科目）	一	0	42	0	0	0	0	0	0	0	12	
環境 社会 基盤 国際 専門 科目	環境社会基盤国際特別研究Ⅰ	1通		6		11	8		8			
	環境社会基盤国際特別研究Ⅱ	2通		6		11	8		8			
	環境社会基盤国際特別研究Ⅲ	2通		12		11	8		8			
	構造物のための数値解析(E)	1・2①～②		2		1	1					
	地盤材料学(E)	1・2①～②		2		1						
	地形プロセス学特論(E)	1・2①～②		2			1					
	地圏デザイン序説(JE)	1・2①		2		1						
	地盤地震工学特論(E)	1・2③～④		2		1						
	振動波動解析学特論(JE)	1・2④		2			1					
	耐震工学特論(E)	1・2③		2		1						
	構造振動論(E)	1・2①		2		1	1					
	構造設計と解析(JE)	1・2①～②		2		1						
	コンクリートとその他セメント系材料(E)	1・2③		2					1			
	コンクリート構造物の設計と維持管理(E)	1・2①～②		2		1	1					
	水圏数値解析学(E)	1・2①		2		1						
	水圏工学実践(JE)	1・2通		2		1	1					
	交通システム特論(E)	1・2②		2		1						
	地域・都市計画エクササイズ	1・2通		2		1	2					
	計画数理特論(JE)	1・2①		2			1					
	地盤構造学(E)	1・2③		2		1						
	地震動特論(JE)	1・2②		2			1					
	建設マネジメント(E)	1・2①～②		2								1
	社会基盤特別講義Ⅰ	1・2④		2		1						
	社会基盤特別講義Ⅱ	1・2①～②		2		1						
	社会基盤特別講義Ⅲ(E)	1・2①～②		2		1						
	インターナショナルコミュニケーション	1・2通		2		1						
	環境社会基盤工学輪講Ⅰ	1通		1		11	8		8			
	環境社会基盤工学輪講Ⅱ	2通		1		11	8		8			
	構造力学Ⅲ	1②		2		1						
	耐震・地震工学	1③～④		2			1		1			
地盤環境工学特論	1・2③～④		2		1							
地盤環境工学特論(E)	1・2④		2		1							
水圏数値解析実践(E)	1・2③		2			1						
科学技術英語特論Ⅰ	1・2③～④		1								1	
科学技術英語特論Ⅱ(E)	1・2①～②		1								1	
国際工学資格(FE資格)	1・2通		1		1							
地域景観特論(JE)	1・2①～②		2			1						

アドヴァンスト・インターンシップ	1・2①～②		2		1	1				
土木のためのAIとデータサイエンス (JE)	1・2③～④		2			1				
水質管理特論 (JE)	1・2③		2		1					
生物環境応答特論 (E)	1・2⑤～⑥		2				1			
小計 (41科目)	-	0	95	0	11	8	0	8	0	2
合計 (62科目)	-	0	137	0	11	8	0	8	0	14

卒業要件及び履修方法

環境社会基盤専攻においては、次に掲げる各プログラムの修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（工学）を授与する。

（環境社会基盤国際プログラムの修了要件）

環境社会基盤国際プログラムを履修する学生にあつては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- ベトナム国立建設大学とのジョイントマスタープログラムの履修者以外の学生は、環境社会基盤国際特別研究Ⅰ（6単位）及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。なお、環境社会基盤国際特別研究Ⅱを履修するには、環境社会基盤国際特別研究Ⅰの単位を修得していなければならない。
- ベトナム国立建設大学とのジョイントマスタープログラム履修者は、環境社会基盤国際特別研究Ⅲ（12単位）を修得すること。
- 環境社会基盤国際プログラムの専門科目から、英語で開講される選択科目6単位以上を含めて12単位以上を修得すること。なお、次に掲げる授業科目の修了単位の認定については、それぞれ記載のとおりとする。
 - 地盤環境工学特論（2単位）及び地盤環境工学特論（E）（2単位）の2科目を履修した場合は、いずれかの科目を修了単位として認める。
 - 構造力学Ⅲ及び耐震・地震工学は、埼玉大学工学部で未履修の場合に限り、2単位まで修了単位として認める。
 - 科学技術英語特論Ⅰ（1単位）、科学技術英語特論Ⅱ（E）（1単位）又は国際工学資格（FE資格）（1単位）のうち2単位まで修了単位として認める。
- 1）及び2）で修得すべき24単位以外の6単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。ただし、特別教育プログラム開講科目は4単位までとする。
- （E）印の付いている科目は英語で開講する科目である。
- （JE）印の付いている科目は日本語と英語を併用する科目である。ただし英語開講科目とはみなさない。

（融合教育プログラムの修了要件）

融合教育プログラムを履修する学生にあつては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。

- 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ（6単位）及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。
- 融合教育プログラムの地球環境における科学技術応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - （a）群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - （b）群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - （c）群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
- 1）及び2）で修得すべき28単位以外の2単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

- （注）
- 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 - 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習D」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「構造設計と解析(JE)」の配当年次を「1・2②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「コンクリート構造物の設計と維持管理(E)」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「交通システム特論(E)」の配当年次を「1・2①」から「1・2②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「地域・都市計画エクササイズ」の配当年次を「1・2③」から「1・2通」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「建設マネジメント(E)」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤工学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤工学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学技術英語特論Ⅱ(E)」の配当年次を「1・2③」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の退職により、「土木のためのAIとデータサイエンス(JE)」の専任教員の配置を「准教授1、助教1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生物環境応答特論(E)」の配当年次を「1・2④」から「1・2①～②」に変更。

【令和5年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習C」の単位数を「1」から「2」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅠ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅡ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「構造物のための数値解析(E)」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「構造設計と解析(JE)」の配当年次を「1・2②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「コンクリート構造物の設計と維持管理(E)」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「交通システム特論(E)」の配当年次を「1・2①」から「1・2②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「地域・都市計画エクササイズ」の配当年次を「1・2③」から「1・2通」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「計画数理特論(JE)」の配当年次を「1・2①」から「1・2①～②」に変更。
- ・教員の任期満了により、「建設マネジメント(E)」の後任を検討中。
- ・開講講義数のバランスのため、「社会基盤特別講義Ⅰ」の配当年次を「1・2④」から「1・2通」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「社会基盤特別講義Ⅲ(E)」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2通」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤工学輪講Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤工学輪講Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授11、准教授8、助教6」から「教授11、准教授8、助教8」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学技術英語特論Ⅱ(E)」の配当年次を「1・2③」から「1・2③～④」に変更。
- ・教員の退職により、「土木のためのAIとデータサイエンス(JE)」の専任教員の配置を「准教授1、助教1」から「准教授1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「生物環境応答特論(E)」の配当年次を「1・2④」から「1・2①～②」に変更。

- (注) ・ 2(1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	58 科目	0 科目	58 科目	0 科目 [0]	63 科目 [5]	0 科目 [0]	63 科目 [5]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	国際教育特別演習Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
2	建設マネジメント(E)	2	1・2③～④	専門	選択	担当教員任期満了のため。後任検討中。
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>

隔年開講科目：令和6年度開講予定。

建設マネジメント(E)：専攻内には他科目が十分に開講されており、また今後他教員が代替する予定であり教育上の問題はない。

<学生への周知方法>

オンラインツール（WEB教務システム及びWEBシラバス）及びガイダンスにより周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{58} = \boxed{3.44} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	167,509 m ²	0 m ²	0 m ²		167,509 m ²				
	運動場用地	95,531 m ²	0 m ²	0 m ²		95,531 m ²				
	小 計	263,040 m ²	0 m ²	0 m ²		263,040 m ²				
	そ の 他	131,515 m ²	0 m ²	0 m ²		131,515 m ²				
	合 計	394,555 m ²	0 m ²	0 m ²		394,555 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
		140,745 m ² (140,745 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		140,745 m ² (140,745 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 改修等による増減（４） 種類変更等による増減（５）			
		92 室	87 93 97 室	279 270 272 室	4 室 (補助職員 0 人)	2 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			令和４年10月 専任助教２名を新規 採用のため（５）		
		理工学研究科 環境社会基盤専攻			27 25 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能 なため、大学全体の数		
		理工学研究科 環境社会基盤 専攻	903,761 [276,939] (906,343 [276,784])	22,199 [5,564] (22,345 [5,589])	13,541 [13,530] (13,914 [13,901])	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)		0 (0)	
		計	903,761 [276,939] (906,343 [276,784])	22,199 [5,564] (22,345 [5,589])	13,541 [13,530] (13,914 [13,901])	2,505 (2,506)	4,688 (4,792)		0 (0)	
	(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体 書架増設のため（４） 書架増設のため（５）	
		8,439 m ²	919		911,944 917,969 918,333					
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		4,474 m ²	野球場		テニスコート 他					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
		教員１人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円		
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生１人当り 納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 学 校 名	埼 玉 大 学										平均入学定員 超過率0.7倍以 下の学科数	0	平均入学定員 超過率1.15倍 以上の学科数	0	収容定員充足 率0.7倍以下の 学科数	0	収容定員充足 率1.15倍以上 の学科数	1
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考					
教養学部	4	160	年次 人	700	—	1.05	—	1.11	1.04	—	昭和40	埼玉県さいたま市 桜区下大久保255						
教養学科	4	160	3年次 30	700	学士 (教養)	1.05	—	1.11	1.04	—	昭和40							
経済学部	4	295	3年次 10	1,200	—	1.06	—	1.11	1.06	—	平成27							
経済学科(昼間コース)	4	280	3年次 10	1,140	学士 (経済学)	1.06	—	1.12	1.07	—	平成27		同上					
経済学科(夜間主コース)	4	15	—	60	学士 (経済学)	1.04	—	0.93	0.86	—	平成27		同上					
教育学部	4	380	—	1,520	—	1.02	1.02	1.05	1.03	—	平成11	同上						
学校教育教員養成 課程	4	360	—	1,440	学士 (教育学)	1.02	1.02	1.05	1.03	—	平成11		同上					
養護教諭養成課程	4	20	—	80	学士 (教育学)	1.02	—	1.05	1.03	—	平成18		同上					
理学部	4	210	—	840	—	1.04	—	1.05	1.01	—	平成7	同上						
数学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.09	—	1.15	1.07	—	平成7		同上					
物理学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.04	—	1.01	0.98	—	平成7		同上					
基礎化学科	4	50	—	200	学士 (理学)	1.04	—	1.03	1.00	—	平成7		同上					
分子生物学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.01	—	1.02	0.98	—	平成7		同上					
生体制御学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.03	—	1.03	1.02	—	平成7		同上					
工学部	4	490	—	1,960	—	1.01	1.01	1.07	1.02	—	平成30	同上						
機械工学・システ ムデザイン学科	4	110	—	440	学士 (工学)	1.03	—	1.13	1.05	—	平成30		同上					
電気電子物理工学 科	4	110	—	440	学士 (工学)	0.99	—	1.07	0.99	—	平成30		同上					
情報工学科	4	80	—	320	学士 (工学)	1.04	1.03	1.06	1.02	—	平成30		同上					
応用化学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.00	—	1.02	0.98	—	平成30		同上					
環境社会デザイン 学科	4	100	—	400	学士 (工学)	1.02	1.02	1.07	1.04	—	平成30		同上					
大学全体	4	1,535	3年次 40	6,220	—	—	—	—	—	—	—	—						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

【認可時又は届出時】

- 17 -

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		五十嵐 善哉 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		加藤 哲平 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ 土木のためのAIとデータサイエンス (JIE)※
専 助教		Goit Chandra Shekhar ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 耐震・地震工学※
専 助教		Senavirathna M D H Jayasanka ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ 生物環境応答特論 (E)
専 助教		富樫 陽太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		Luan Yao ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ コンクリートとその他セメント系材料 (E) 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		五十嵐 善哉 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		
専 助教		Goit Chandra Shekhar ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 耐震・地震工学※
専 助教		Senavirathna M D H Jayasanka ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ 生物環境応答特論 (E)
専 助教		富樫 陽太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		Luan Yao ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ コンクリートとその他セメント系材料 (E) 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		Zafar Usama ＜令和4年10月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		中村 謙吾 ＜令和4年10月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		須ヶ間 淳 ＜令和4年11月＞ 修士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		五十嵐 善哉 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		
専 助教		Goit Chandra Shekhar ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 耐震・地震工学※
専 助教		Senavirathna M D H Jayasanka ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ 生物環境応答特論 (E)
専 助教		富樫 陽太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		Luan Yao ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ コンクリートとその他セメント系材料 (E) 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		Zafar Usama ＜令和4年10月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		中村 謙吾 ＜令和4年10月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
専 助教		須ヶ間 淳 ＜令和4年11月＞ 修士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 環境社会基盤国際特別研究Ⅲ 環境社会基盤工学輪講Ⅰ 環境社会基盤工学輪講Ⅱ
兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営特論
兼任 教授		長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 修士（工学）
		課題解決型特別演習A
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B
兼任	教授（研究科長）	黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		課題解決型特別演習C
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）
		国際教育特別演習
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報）
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化）
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	梶山 いづみ ＜令和4年4月＞ 文学士
		科学技術日本語Ⅲ
兼任	講師	Simon Jian-Hong Liu ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		建設マネジメント(E)
兼任	講師	Gaetan Moreau ＜令和4年4月＞ Ph. D（フランス）
		科学技術英語特論Ⅰ 科学技術英語特論Ⅱ(E)
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		課題解決型特別演習AⅠ 課題解決型特別演習AⅡ
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士
		課題解決型特別演習B
兼任	教授	黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学博士
		課題解決型特別演習C
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士（工学）
		課題解決型特別演習D
兼任	教授	石川 能幸 ＜令和4年8月＞ 経営学士
		課題解決型特別演習E
兼任	教授	土屋 政幸 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		課題解決型特別演習C
兼任	准教授	長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）
		国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 ＜令和4年4月＞ 修士（文化情報）
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 ＜令和4年4月＞ 学士（外国文化）
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	梶山 いづみ ＜令和4年4月＞ 文学士
		科学技術日本語Ⅲ
兼任	講師	Gaetan Moreau ＜令和4年4月＞ Ph. D（フランス）
		科学技術英語特論Ⅰ 科学技術英語特論Ⅱ(E)

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実（実）、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・加藤哲平助教就任辞退。後任未定であるが、令和4年10月から専任教員採用予定で公募中。
- ・令和4年10月 Zafar Usama 助教就任。
- ・令和4年10月 中村謙吾助教就任。
- ・令和4年11月 須ヶ間淳助教就任。

【令和5年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
8	6	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
11	8	0	6	25	0	11	8	0	8	27	0
(11)	(8)	(0)	(5)	(24)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
24	11	1	0			24	11	3	0		
(23)	(11)	(1)	(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
11	8	0	8	27	0	11	8	0	8	27	0
[0]	[0]	[0]	[2]	[2]	[0]	[0]	[0]	[0]	[2]	[2]	[0]
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
24	11	3	0			24	11	3	0		
[0]	[0]	[2]	[0]			[0]	[0]	[2]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{27}{25} = \boxed{108} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{27} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	加藤 哲平	R4.3	選択	環境社会基盤国際特別研究Ⅰ	①	R4.4.1付け他大学へ転任のため就任辞退（４）			
				選択	環境社会基盤国際特別研究Ⅱ	①				
				選択	環境社会基盤国際特別研究Ⅲ	①				
				選択	環境社会基盤工学輪講Ⅰ	①				
				選択	環境社会基盤工学輪講Ⅱ	①				
				選択	主客のためのAIとデータサイエンス(AE)	①				
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	6	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	6	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）		
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	6	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	6	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{25} = 4\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>
 対象科目は複数の教員で担当する科目であるため、専攻内の専任教員が代替しており教育上の問題はない。

<学生への周知方法>
 学生に対しては、オンラインツール(WEB教務システム及びWEBシラバス)により周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年度)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<理工学研究科 環境社会基盤専攻> 該当なし

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 教育部長、副教育部長、各プログラム選出の教員からなる教育企画委員会を設置している。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 必要に応じて随時（年2～3回程度）開催している。案件によりメール等での意見交換を随時行っている。 c 委員会の審議事項等 FD活動の企画及び実施に関する事項、FDに関する必要事項の他、研究科教育カリキュラムに係る事項 ② 実施状況 a 実施内容 - FDに関連した講演会 - 学生による授業評価アンケート結果の共有 - 新任教員のための研修会（全学的に実施） b 実施方法 全教員を対象としたFDシンポジウムや学生による授業評価結果を共有し資質向上を図ることとしている。 c 開催状況（教員の参加状況含む） 毎年度定期的に開催している。教員全員がいずれかの機会に参加できるように周知している。 d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 アンケート結果などにより各教員へ周知し、授業改善への取組を促している。 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 各学期末に全学的に実施している。 b 教員や学生への公開状況、方法等 全教員に対して評価結果を配付し、学生からの意見をフィードバックしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

入学定員の充足状況、教員の配置状況、施設・設備の整備状況、教育課程の編成状況など、いずれも当初の計画に沿って着実に実施している。特に新たに開設した特別教育プログラムを含めた人材育成に重点的に取り組んでいる。今後も設置の趣旨・目的に沿って確実に実施すると共に、教育・研究の水準の向上に取り組んでいく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年10月頃 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和6年10月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和5年度に評価機関（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）の評価を受ける予定

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 （博士前期課程）

融合教育プログラム 地球環境における科学技術の応用と融合プログラム

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ……」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜融合教育プログラム 地球環境における科学技術の応用と融合プログラム＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	3
5. 教員組織の状況	11

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名

埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

2 授業科目の概要

＜理工学研究科 融合教育プログラム 地球環境における科学技術の応用と融合プログラム＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共 通 科 目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2							1	
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2							1	
	国際教育特別演習	1・2①～②		2							1	
	科学技術日本語Ⅰ	1・2③～④		1							2	
	科学技術日本語Ⅱ	1・2③～④		1							2	
	科学技術日本語Ⅲ	1・2③～④		1							1	
	特別研修A1	1・2通		1							1	
	特別研修A2	1・2通		2							1	
	特別研修A3	1・2通		3							1	
	特別研修A4	1・2通		4							1	
	特別研修B1	1・2通		1							1	
	特別研修B2	1・2通		2							1	
	特別研修B3	1・2通		3							1	
	特別研修B4	1・2通		4							1	
	課題解決型特別演習A	1・2③～④		2							1	
	課題解決型特別演習B	1・2①～②		2							1	
	課題解決型特別演習C	1・2③		1							1	
	小計（17科目）	—	0	34	0	0	0	0	0	0	10	
専門 科 目	生命科学専攻	分子生物学特別研究1	1通	6							19	
	分子生物学特別研究2	2通	6								19	
	生体制御学特別研究1	1通	6								13	
	生体制御学特別研究2	2通	6								13	
	物質科学専攻	物理学特別研究1	1通	6							19	
	物理学輪講Ⅰ	1・2通	3								19	
	物理学輪講Ⅱ	1・2通	3								19	
	基礎化学特別研究	1～2通	12								14	
		応用化学特別研究	1～2通	12								27
	数理電子情報専攻	数学特別研究1	1通	6								13
		数学特別研究2	2通	6								13
		電気電子理工学特別研究Ⅰ	1通	6								30
		情報工学特別研究Ⅰ	1通	6								20
		プレゼンテーション特別演習	1・2通	2								15
	機械科学専攻	機械科学特別研究Ⅰ	1通	3								22
		機械科学特別研究Ⅱ	2通	3								22
		機械科学輪講Ⅰ	1通	3								26
機械科学輪講Ⅱ		2通	3								26	
基盤 環 境 社 会	環境社会基盤国際特別研究Ⅰ	1通	6								25	
	環境社会基盤国際特別研究Ⅱ	2通	6								25	
	小計（20科目）	—	0	110	0	0	0	0	0	0	206	
地球 環 境 に よ る	(a)群	地球システム科学特論	1・2①～②	2							1	
		未来デザイン・バックキャスト論	1・2③～④	2							1	
		国際電気・環境規格特論	1・2③～④	2							2	
		環境経済学	1・2①～②	2							1	
		Public Policies and SDGs	1・2①～②	2							1	
		小計（5科目）	—	0	10	0	0	0	0	0	0	6

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共通 科目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ（未開講）	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ	1・2①		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2③～④		1								1
	特別研修A1	1・2通		1								1
	特別研修A2	1・2通		2								1
	特別研修A3	1・2通		3								1
	特別研修A4	1・2通		4								1
	特別研修B1	1・2通		1								1
	特別研修B2	1・2通		2								1
	特別研修B3	1・2通		3								1
	特別研修B4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習DⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習DⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習E	1・2③～④		2								1
	小計（22科目）	—	0	45	0	0	0	0	0	0	0	12
専門 科目	生命科学専攻	分子生物学特別研究1	1通	6								22
	分子生物学特別研究2	2通	6									22
	生体制御学特別研究1	1通	6									14
	生体制御学特別研究2	2通	6									14
	物質科学専攻	物理学特別研究1	1通	6								19
	物理学輪講Ⅰ	1・2通	3									19
	物理学輪講Ⅱ	1・2通	3									19
	基礎化学特別研究	1～2通	12									15
	応用化学特別研究	1～2通	12									28
	数理電子情報専攻	数学特別研究1	1通	6								13
	数学特別研究2	2通	6									13
	電気電子理工学特別研究Ⅰ	1通	6									30
	情報工学特別研究Ⅰ	1通	6									22
	プレゼンテーション特別演習	1・2通	2									18
	機械科学専攻	機械科学特別研究Ⅰ	1通	3								22
	機械科学特別研究Ⅱ	2通	3									22
	機械科学輪講Ⅰ	1通	3									28
	機械科学輪講Ⅱ	2通	3									28
環境社会基盤専攻	環境社会基盤国際特別研究Ⅰ	1通	6								27	
環境社会基盤国際特別研究Ⅱ	2通	6									27	
	小計（20科目）	—	0	110	0	0	0	0	0	0	0	218
地球 環境 に 関 心 を も つ 人 群	地球システム科学特論	1・2③		2								1
	未来デザイン・バックキャスト論	1・2①～②		2								1
	国際電気・環境規格特論	1・2③～④		2								2
	環境経済学	1・2③		2								1
	Public Policies and SDGs	1・2③		2								1
	小計（5科目）	—	0	10	0	0	0	0	0	0	0	6

おける科学技術の応用と融合プログラム専門科目	資源循環制御科学	1-23~4		2								1
	光応用技術特論	1-23~4		2								1
	植物分子育種学特論	1-21~2		2								2
	エネルギー変換化学特論	1-2①		2								1
	地域景観特論	1-21~2		2								1
	Rural environment and ecosystem	1-23~4		2								1
	環境地質学特論	1-2③		2								1
	環境生物学特論	1-2④		2								1
	水環境工学特論	1-2②		2								1
	小計（9科目）	—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	10
	応用学際インターンシップ	1-2通		2								1
	グローバルパートナーシップ	1-23~4		1								1
	農作物栽培技術演習	1-23~4		1								1
(c)群	データ解析学演習	1-21~2		1								1
	科学技術応用学際特別演習Ⅰ	1-21~2		1								10
	科学技術応用学際特別演習Ⅱ	1-23~4		1								10
	科学技術応用学際特別輪講Ⅰ	1①~②		1								10
	科学技術応用学際特別輪講Ⅱ	1③~④		1								10
	小計（8科目）	—	0	9	0	0	0	0	0	0	0	13
合計（59科目）			—	0	181	0	0	0	0	0	0	223

卒業要件及び履修方法

融合教育プログラムにおいては、次に掲げる修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）又は修士（工学）を授与する。

- （融合教育プログラムの修了要件）
本プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。
- 1) 所属する専攻に応じ、次のとおり修得すること。
 - ・生命科学専攻に所属する学生は、分子生物学特別研究Ⅰ（6単位）及び分子生物学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位又は生体制御学特別研究Ⅰ（6単位）及び生体制御学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。
 - ・物質科学専攻に所属する学生は、物理学特別研究Ⅰ（6単位）、物理学輪講Ⅰ（3単位）及び物理学輪講Ⅱ（3単位）の3科目12単位、基礎化学特別研究（12単位）の1科目12単位又は応用化学特別研究（12単位）1科目12単位を修得すること。
 - ・数理電子情報専攻に所属する学生は、数学特別研究Ⅰ（6単位）及び数学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位、電気電子物理学特別研究Ⅰ（6単位）の1科目6単位又は情報工学特別研究Ⅰ（6単位）及びプレゼンテーション特別演習（2単位）の2科目8単位を修得すること。
 - ・機械科学専攻に所属する学生は、機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
 - ・環境社会基盤専攻に所属する学生は、環境社会基盤国際特別研究Ⅰ（6単位）及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。
 - 2) 地球環境における科学技術の応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
 - 3) 1)及び2)で修得すべき単位数以外の単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。

おける科学技術の応用と融合プログラム専門科目	資源循環制御科学	1-2①~②		2								1
	光応用技術特論	1-23~4		2								1
	植物分子育種学特論	1-23~4		2								2
	エネルギー変換化学特論	1-2①~②		2								1
	地域景観特論	1-21~2		2								1
	Rural environment and ecosystem	1-23~4		2								1
	環境分析化学特論	1-2④		2								1
	地圏環境学特論	1-2③		2								1
	水環境工学特論	1-2②		2								1
	小計（9科目）	—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	10
	応用学際インターンシップ	1-2通		2								1
	グローバルパートナーシップ	1-2①~②		1								1
	農作物栽培技術演習	1-2①		1								1
(c)群	データ解析学演習	1-2②		1								1
	科学技術応用学際特別演習Ⅰ	1-21~2		1								10
	科学技術応用学際特別演習Ⅱ	1-23~4		1								10
	科学技術応用学際特別輪講Ⅰ	1-2①~②		1								10
	科学技術応用学際特別輪講Ⅱ	1-23~4		1								10
	小計（8科目）	—	0	9	0	0	0	0	0	0	0	13
合計（64科目）			—	0	192	0	0	0	0	0	0	238

卒業要件及び履修方法

融合教育プログラムにおいては、次に掲げる修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）又は修士（工学）を授与する。

- （融合教育プログラムの修了要件）
本プログラムを履修する学生にあっては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。
- 1) 所属する専攻に応じ、次のとおり修得すること。
 - ・生命科学専攻に所属する学生は、分子生物学特別研究Ⅰ（6単位）及び分子生物学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位又は生体制御学特別研究Ⅰ（6単位）及び生体制御学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。
 - ・物質科学専攻に所属する学生は、物理学特別研究Ⅰ（6単位）、物理学輪講Ⅰ（3単位）及び物理学輪講Ⅱ（3単位）の3科目12単位、基礎化学特別研究（12単位）の1科目12単位又は応用化学特別研究（12単位）1科目12単位を修得すること。
 - ・数理電子情報専攻に所属する学生は、数学特別研究Ⅰ（6単位）及び数学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位、電気電子物理学特別研究Ⅰ（6単位）の1科目6単位又は情報工学特別研究Ⅰ（6単位）及びプレゼンテーション特別演習（2単位）の2科目8単位を修得すること。
 - ・機械科学専攻に所属する学生は、機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。
 - ・環境社会基盤専攻に所属する学生は、環境社会基盤国際特別研究Ⅰ（6単位）及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。
 - 2) 地球環境における科学技術の応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。
 - ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(b)群から、**環境分析化学特論**（2単位）、**地圏環境学特論**（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。
 - ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。
 - 3) 1)及び2)で修得すべき単位数以外の単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。
- 4) 3)が4単位以上の場合は、特別教育プログラム開講科目は4単位までとする。**

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
課程 共 通 科 目	技術者のための産業経営特論	1・2①～②		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅰ	1・2①～②		2								1
	国際教育特別演習Ⅱ（未開講）	1・2①～②		2								1
	科学技術日本語Ⅰ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅱ	1・2①～②・③～④		1								2
	科学技術日本語Ⅲ	1・2①～②・③～④		1								1
	特別研修A 1	1・2通		1								1
	特別研修A 2	1・2通		2								1
	特別研修A 3	1・2通		3								1
	特別研修A 4	1・2通		4								1
	特別研修B 1	1・2通		1								1
	特別研修B 2	1・2通		2								1
	特別研修B 3	1・2通		3								1
	特別研修B 4	1・2通		4								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②・③～④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	課題解決型特別演習D	1・2③～④		2								1
課題解決型特別演習E	1・2③～④		2								1	
小計（21科目）	—	0	42	0	0	0	0	0	0	0	12	
専 門 科 目	生命科学専攻											
	分子生物学特別研究1	1通		6								20
	分子生物学特別研究2	2通		6								20
	生体制御学特別研究1	1通		6								13
	生体制御学特別研究2	2通		6								13
	物質科学専攻											
	物理学特別研究1	1通		6								18
	物理学輪講Ⅰ	1・2通		3								18
	物理学輪講Ⅱ	1・2通		3								18
	基礎化学特別研究	1～2通		12								15
	応用化学特別研究	1～2通		12								27
	数理電子情報専攻											
	数学特別研究1	1通		6								12
	数学特別研究2	2通		6								12
	電気電子物理工学特別研究Ⅰ	1通		6								30
	情報工学特別研究Ⅰ	1通		6								21
プレゼンテーション特別演習	1・2通		2								16	
機械科学専攻												
機械科学特別研究Ⅰ	1通		3								22	
機械科学特別研究Ⅱ	2通		3								22	
機械科学輪講Ⅰ	1通		3								27	
機械科学輪講Ⅱ	2通		3								27	
基盤環境専攻												
環境社会基盤国際特別研究Ⅰ	1通		6								27	
環境社会基盤国際特別研究Ⅱ	2通		6								27	
小計（20科目）	—	0	110	0	0	0	0	0	0	0	210	
地 球 環 境 に お け る 科 学 技 術 の 応 用 と 融 合 プ ロ ジェ ク ト	（a）群											
	地球システム科学特論	1・2③		2								1
	未来デザイン・バックキャスト論	1・2③～④		2								1
	国際電気・環境規格特論	1・2③～④		2								2
	環境経済学	1・2③		2								1
	Public Policies and SDGs	1・2④		2								1
	小計（5科目）	—	0	10	0	0	0	0	0	0	0	6
	（b）群											
	資源循環制御科学	1・2③～④		2								1
	光応用技術特論	1・2③～④		2								1
	植物分子育種学特論	1・2③～④		2								2
	エネルギー変換化学特論	1・2③～④		2								1
	地域景観特論	1・2③～④		2								1
	Rural environment and ecosystem	1・2③～④		2								1
	環境地質学特論	1・2④		2								1
	環境生物学特論	1・2③		2								1
水環境工学特論	1・2②		2								1	
小計（9科目）	—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	10	

グ ラ ム 専 門 科 目 (c) 群	応用学際インターンシップ	1・2通		2							1
	グローバルパートナーシップ	1・2①～②		1							1
	農作物栽培技術演習	1・2①		1							1
	データ解析学演習	1・2②		1							1
	科学技術応用学際特別演習Ⅰ	1・2①～②		1							10
	科学技術応用学際特別演習Ⅱ	1・2③～④		1							10
	科学技術応用学際特別輪講Ⅰ	1・2⑤～⑥		1							10
	科学技術応用学際特別輪講Ⅱ	1・2⑦～⑧		1							10
小計（8科目）		—	0	9	0	0	0	0	0	0	13
合計（6・3科目）		—	0	189	0	0	0	0	0	0	229
卒業要件及び履修方法											
融合教育プログラムにおいては、次に掲げる修了要件を満たし、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（理学）又は修士（工学）を授与する。 （融合教育プログラムの修了要件） 本プログラムを履修する学生にあつては、下記の履修方法により、合わせて30単位以上を修得すること。 1) 所属する専攻に応じ、次のとおり修得すること。 ・生命科学専攻に所属する学生は、分子生物学特別研究Ⅰ（6単位）及び分子生物学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位又は生体制御学特別研究Ⅰ（6単位）及び生体制御学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。 ・物質科学専攻に所属する学生は、物理学特別研究Ⅰ（6単位）、物理学輪講Ⅰ（3単位）及び物理学輪講Ⅱ（3単位）の3科目12単位、基礎化学特別研究（12単位）の1科目12単位又は応用化学特別研究（12単位）1科目12単位を修得すること。 ・数理電子情報専攻に所属する学生は、数学特別研究Ⅰ（6単位）及び数学特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位、電気電子物理学特別研究Ⅰ（6単位）の1科目6単位又は情報工学特別研究Ⅰ（6単位）及びプレゼンテーション特別演習（2単位）の2科目8単位を修得すること。 ・機械科学専攻に所属する学生は、機械科学特別研究Ⅰ（3単位）、機械科学特別研究Ⅱ（3単位）、機械科学輪講Ⅰ（3単位）及び機械科学輪講Ⅱ（3単位）の4科目12単位を修得すること。 ・環境社会基盤専攻に所属する学生は、環境社会基盤国際特別研究Ⅰ（6単位）及び環境社会基盤国際特別研究Ⅱ（6単位）の2科目12単位を修得すること。 2) 地球環境における科学技術の応用と融合プログラム専門科目から、次のとおり16単位以上を修得すること。 ・(a)群から、環境経済学（2単位）又はPublic Policies and SDGs（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。 ・(b)群から、環境地質学特論（2単位）、環境生物学特論（2単位）又は水環境工学特論（2単位）の2単位以上を含めて6単位以上を修得すること。 ・(c)群から、グローバルパートナーシップ（1単位）、農作物栽培技術演習（1単位）又はデータ解析学演習（1単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。 3) 1)及び2)で修得すべき単位数以外の単位については、理工学研究科博士前期課程開講科目から修得することができる。											

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習D」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・教員の採用により、「分子生物学特別研究1」の教員等の配置を「兼任・兼任19」から「兼任・兼任20」に変更。
- ・教員の採用により、「分子生物学特別研究2」の教員等の配置を「兼任・兼任19」から「兼任・兼任20」に変更。
- ・教員の退職により、「物理学特別研究1」の教員等の配置を「兼任・兼任19」から「兼任・兼任18」に変更。
- ・教員の退職により、「物理学特別研究2」の教員等の配置を「兼任・兼任19」から「兼任・兼任18」に変更。
- ・教員の採用により、「基礎化学特別研究」の教員等の配置を「兼任・兼任14」から「兼任・兼任15」に変更。
- ・教員の退職により、「数学特別研究1」の教員等の配置を「兼任・兼任13」から「兼任・兼任12」に変更。
- ・教員の退職により、「数学特別研究2」の教員等の配置を「兼任・兼任13」から「兼任・兼任12」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「情報工学特別研究Ⅰ」の教員等の配置を「兼任・兼任20」から「兼任・兼任21」に変更。
- ・教員の昇任により、「プレゼンテーション特別演習」の教員等の配置を「兼任・兼任15」から「兼任・兼任16」に変更。
- ・教員の採用により、「機械科学論Ⅰ」の教員等の配置を「兼任・兼任26」から「兼任・兼任27」に変更。
- ・教員の採用により、「機械科学論Ⅱ」の教員等の配置を「兼任・兼任26」から「兼任・兼任27」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅰ」の教員等の配置を「兼任・兼任25」から「兼任・兼任27」に変更。
- ・教員の採用及び退職により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅱ」の教員等の配置を「兼任・兼任25」から「兼任・兼任27」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「地球システム科学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「未来デザイン・バックキャスト論」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「環境経済学」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「Public Policies and SDGs」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「資源循環制御科学」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「植物分子育種学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「エネルギー変換化学特論」の配当年次を「1・2①」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「環境地質学特論」の配当年次を「1・2③」から「1・2④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「環境生物学特論」の配当年次を「1・2④」から「1・2③」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「グローバルパートナーシップ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「農作物栽培技術演習」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「データ解析学演習」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学技術応用学際特別論Ⅰ」の配当年次を「1①～②」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学技術応用学際特別論Ⅱ」の配当年次を「1③～④」から「1・2③～④」に変更。

【令和5年度】

- ・教育内容の充実を図るために、「国際教育特別演習Ⅱ」を新設。
- ・「国際教育特別演習Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「国際教育特別演習」から「国際教育特別演習Ⅰ」に変更し、隔年開講に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習C」の単位数を「1」から「2」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅠ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅡ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・教員の採用により、「分子生物学特別研究1」の専任教員等の配置を「兼任・兼任19」から「兼任・兼任22」に変更。
- ・教員の採用により、「分子生物学特別研究2」の専任教員等の配置を「兼任・兼任19」から「兼任・兼任22」に変更。
- ・教員の採用により、「生体制御学特別研究1」の専任教員等の配置を「兼任・兼任13」から「兼任・兼任14」に変更。
- ・教員の採用により、「生体制御学特別研究2」の専任教員等の配置を「兼任・兼任13」から「兼任・兼任14」に変更。
- ・教員の採用により、「基礎化学特別研究」の専任教員等の配置を「兼任・兼任14」から「兼任・兼任15」に変更。
- ・教員の採用により、「応用化学特別研究」の専任教員等の配置を「兼任・兼任27」から「兼任・兼任28」に変更。
- ・教員の採用により、「情報工学特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任20」から「兼任・兼任22」に変更。
- ・教員の採用により、「プレゼンテーション特別演習」の専任教員等の配置を「兼任・兼任15」から「兼任・兼任18」に変更。
- ・教員の採用により、「機械科学論Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任26」から「兼任・兼任28」に変更。
- ・教員の採用により、「機械科学論Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任26」から「兼任・兼任28」に変更。
- ・教員の採用により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任25」から「兼任・兼任27」に変更。
- ・教員の採用により、「環境社会基盤国際特別研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任25」から「兼任・兼任27」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「地球システム科学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「未来デザイン・バックキャスト論」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「環境経済学」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「Public Policies and SDGs」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「資源循環制御科学」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「植物分子育種学特論」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「エネルギー変換化学特論」の配当年次を「1・2①」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「環境分析化学特論」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「地圏環境学特論」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「グローバルパートナーシップ」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「農作物栽培技術演習」の配当年次を「1・2③～④」から「1・2①」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「データ解析学演習」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学技術応用学際特別論Ⅰ」の配当年次を「1①～②」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学技術応用学際特別論Ⅱ」の配当年次を「1③～④」から「1・2③～④」に変更。

(注) ・ 2(1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	59 科目	0 科目	59 科目	0 科目 [0]	64 科目 [5]	0 科目 [0]	64 科目 [5]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	国際教育特別演習Ⅰ	2	1・2①～②	専門	選択	隔年開講科目のため。代替措置無し。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	環境地質学特論	2	1・2③	専門	選択	教員の退職のため。代替措置有り。
2	環境生物学特論	2	1・2④	専門	選択	教員の退職のため。代替措置有り。
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<大学の所見>

隔年開講科目：令和6年度開講予定。

環境地質学特論、環境生物学特論：同配当年次の「環境分析化学特論」と「地圏環境学特論」を新設しており、教育上の問題はない。

<学生への周知方法>

オンラインツール（WEB教務システム及びWEBシラバス）及びガイダンスにより周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{3}{59} = \boxed{5.08} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

5 教員組織の状況

＜理工学研究科 融合教育プログラム 地球環境における科学技術の応用と融合プログラム＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【令和4年度】			【令和5年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 担当授業科目名
兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営特論	兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営特論	兼任 教授		小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営特論
		長澤 壮之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4 数学特別研究1 数学特別研究2			長澤 壮之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4 数学特別研究1 数学特別研究2			長澤 壮之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研修A1 特別研修A2 特別研修A3 特別研修A4 特別研修B1 特別研修B2 特別研修B3 特別研修B4 数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 修士(工学) 課題解決型特別演習A	兼任 教授		新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 修士(工学) 課題解決型特別演習A I 課題解決型特別演習A II	兼任 教授		新井 正敏 ＜令和4年4月＞ 修士(工学) 課題解決型特別演習A I 課題解決型特別演習A II
		寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習B			寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習B			寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習B
兼任 教授(研究科長)		黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習C エネルギー変換化学特論 科学技術応用学際特別演習 I 科学技術応用学際特別演習 II 科学技術応用学際特別論議 I 科学技術応用学際特別論議 II 応用化学特別研究	兼任 教授		黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習C エネルギー変換化学特論 科学技術応用学際特別演習 I 科学技術応用学際特別演習 II 科学技術応用学際特別論議 I 科学技術応用学際特別論議 II 応用化学特別研究	兼任 教授		黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学士 エネルギー変換化学特論 科学技術応用学際特別演習 I 科学技術応用学際特別演習 II 科学技術応用学際特別論議 I 科学技術応用学際特別論議 II 応用化学特別研究
			兼任 教授		伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士(工学) 課題解決型特別演習D	兼任 教授		伊佐 俊紀 ＜令和4年8月＞ 修士(工学) 課題解決型特別演習D I 課題解決型特別演習D II
			兼任 教授		石川 龍孝 ＜令和4年8月＞ 経営学士 課題解決型特別演習E	兼任 教授		石川 龍孝 ＜令和4年8月＞ 経営学士 課題解決型特別演習E
						兼任 教授		土屋 政幸 ＜令和5年4月＞ 医学博士 課題解決型特別演習C
兼任 教授		川合 真紀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 植物分子育種学特論 科学技術応用学際特別演習 I 科学技術応用学際特別演習 II 科学技術応用学際特別論議 I 科学技術応用学際特別論議 II	兼任 教授		川合 真紀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 植物分子育種学特論 科学技術応用学際特別演習 I 科学技術応用学際特別演習 II 科学技術応用学際特別論議 I 科学技術応用学際特別論議 II	兼任 教授		川合 真紀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2 植物分子育種学特論 科学技術応用学際特別演習 I 科学技術応用学際特別演習 II 科学技術応用学際特別論議 I 科学技術応用学際特別論議 II
		小竹 敬久 ＜令和4年4月＞ 博士(学術) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2			小竹 敬久 ＜令和4年4月＞ 博士(学術) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2			小竹 敬久 ＜令和4年4月＞ 博士(学術) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任 教授		戸澤 謙 ＜令和4年4月＞ 博士(農学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2	兼任 教授		戸澤 謙 ＜令和4年4月＞ 博士(農学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2	兼任 教授		戸澤 謙 ＜令和4年4月＞ 博士(農学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
		西山 佳孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2			西山 佳孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2			西山 佳孝 ＜令和4年4月＞ 博士(工学) 分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		日原 由香子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任 教授		小林 哲也 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		坂田 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		竹澤 大輔 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		塚原 伸治 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		弥益 恭 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		鈴木 健 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		田代 信 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		谷井 義彰 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		石井 昭彦 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究
兼任 教授		上野 啓司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任 教授		斎藤 雅一 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任 教授		高柳 敏幸 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究
兼任 教授		若狭 雅信 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		日原 由香子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任 教授		小林 哲也 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		坂田 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		竹澤 大輔 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		塚原 伸治 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		弥益 恭 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		鈴木 健 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		田代 信 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		谷井 義彰 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		石井 昭彦 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究
兼任 教授		上野 啓司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任 教授		斎藤 雅一 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任 教授		高柳 敏幸 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究
兼任 教授		若狭 雅信 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		日原 由香子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任 教授		小林 哲也 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		坂田 一郎 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		竹澤 大輔 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		塚原 伸治 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		弥益 恭 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 教授		鈴木 健 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		田代 信 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		谷井 義彰 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 教授		石井 昭彦 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究
兼任 教授		上野 啓司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任 教授		斎藤 雅一 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任 教授		高柳 敏幸 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究
兼任 教授		若狭 雅信 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		基礎化学特別研究

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		王 青耀 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究 資源循環制御科学 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別論議Ⅰ 科学技術応用学際特別論議Ⅱ
兼任 教授		齋藤 伸吾 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		武田 博明 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		根本 直人 ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		応用化学特別研究
兼任 教授		松岡 浩司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		三浦 勝清 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		山口 祥一 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		岸本 崇 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		下川 航也 ＜令和4年4月＞ 博士（数理科学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		福井 敏純 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		Bez Richard Neal ＜令和4年4月＞ Doctor of Philosophy (ｲﾅﾌﾞﾙ ﾏ)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		町原 秀二 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		伊藤 和人 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		王 青耀 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究 資源循環制御科学 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別論議Ⅰ 科学技術応用学際特別論議Ⅱ
兼任 教授		齋藤 伸吾 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		武田 博明 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		根本 直人 ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		応用化学特別研究
兼任 教授		松岡 浩司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		三浦 勝清 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		山口 祥一 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		岸本 崇 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		福井 敏純 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		Bez Richard Neal ＜令和4年4月＞ Doctor of Philosophy (ｲﾅﾌﾞﾙ ﾏ)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		町原 秀二 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		伊藤 和人 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		王 青耀 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究 資源循環制御科学 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別論議Ⅰ 科学技術応用学際特別論議Ⅱ
兼任 教授		齋藤 伸吾 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		武田 博明 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		根本 直人 ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		応用化学特別研究
兼任 教授		松岡 浩司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		三浦 勝清 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		山口 祥一 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任 教授		岸本 崇 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		福井 敏純 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		Bez Richard Neal ＜令和4年4月＞ Doctor of Philosophy (ｲﾅﾌﾞﾙ ﾏ)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		町原 秀二 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		横山 知郎 ＜令和5年4月＞ 博士（数理科学）
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 教授		伊藤 和人 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理工学特別研究Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		内村 太郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		奥井 義昭 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		長田 昌彦 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		川本 健 ＜令和4年4月＞ 博士（農学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		久保田 尚 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		桑野 二郎 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		齊藤 正人 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		田中 規夫 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		藤野 毅 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 未来デザイン・バックキャスト 論 応用学際インターンシップ 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別輪講Ⅰ 科学技術応用学際特別輪講Ⅱ
兼任 教授		牧 剛史 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		松本 泰尚 ＜令和4年4月＞ Ph.D（イギリス） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		広田 幸紀 ＜令和4年4月＞ 博士（経済学） Public Policies and SDGs
兼任 教授		安藤 聡彦 ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） グローバルパートナーシップ
兼任 准教授		長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		内村 太郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		奥井 義昭 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		長田 昌彦 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		川本 健 ＜令和4年4月＞ 博士（農学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		久保田 尚 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		桑野 二郎 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		齊藤 正人 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		田中 規夫 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		藤野 毅 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 未来デザイン・バックキャスト 論 応用学際インターンシップ 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別輪講Ⅰ 科学技術応用学際特別輪講Ⅱ
兼任 教授		牧 剛史 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		松本 泰尚 ＜令和4年4月＞ Ph.D（イギリス） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		広田 幸紀 ＜令和4年4月＞ 博士（経済学） Public Policies and SDGs
兼任 教授		安藤 聡彦 ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） グローバルパートナーシップ
兼任 准教授		長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		内村 太郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		奥井 義昭 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		長田 昌彦 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		川本 健 ＜令和4年4月＞ 博士（農学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		久保田 尚 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		桑野 二郎 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		齊藤 正人 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		田中 規夫 ＜令和4年4月＞ 工学博士 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		藤野 毅 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ 未来デザイン・バックキャスト 論 応用学際インターンシップ 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別輪講Ⅰ 科学技術応用学際特別輪講Ⅱ
兼任 教授		牧 剛史 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		松本 泰尚 ＜令和4年4月＞ Ph.D（イギリス） 環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 教授		広田 幸紀 ＜令和4年4月＞ 博士（経済学） Public Policies and SDGs
兼任 教授		安藤 聡彦 ＜令和4年4月＞ 博士（社会学） グローバルパートナーシップ
兼任 准教授		長沢 誠 ＜令和4年4月＞ 修士（教育学） 国際教育特別演習Ⅰ【隔年】 国際教育特別演習Ⅱ【隔年】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山口 貴之 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究I 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	准教授	大朝 由美子 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究I 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	准教授	杉原 慎昭 <令和4年4月> 博士(薬学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	藤原 陸司 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	前田 公憲 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	石丸 雄大 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	荻原 仁志 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	乙須 拓洋 <令和4年4月> 博士(農学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	木下 英典 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	小玉 康一 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	鈴木 美穂 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	関口 和彦 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	幡野 健 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	藤森 厚裕 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山口 貴之 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究I 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	准教授	大朝 由美子 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究I 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	准教授	杉原 慎昭 <令和4年4月> 博士(薬学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	藤原 陸司 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	前田 公憲 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	石丸 雄大 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	荻原 仁志 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	乙須 拓洋 <令和4年4月> 博士(農学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	木下 英典 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	小玉 康一 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	鈴木 美穂 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	教授	関口 和彦 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	幡野 健 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	藤森 厚裕 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	山口 貴之 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究I 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	准教授	吉田 健太郎 <令和5年4月> 博士(人間・環境学)
		物理学特別研究I 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	准教授	大朝 由美子 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究I 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	准教授	杉原 慎昭 <令和4年4月> 博士(薬学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	藤原 陸司 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	前田 公憲 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任	准教授	石丸 雄大 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	教授	荻原 仁志 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	乙須 拓洋 <令和4年4月> 博士(農学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	木下 英典 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	小玉 康一 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	鈴木 美穂 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	教授	関口 和彦 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	幡野 健 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任	准教授	藤森 厚裕 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	八木澤 順治 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任	准教授	有賀 健高 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）
		環境経済学
兼任	准教授	荒木 祐二 ＜令和4年4月＞ 博士（環境学）
		農作物栽培技術演習
兼任	講師	是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	講師	松岡 聡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	講師	齋藤 英樹 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任	講師	佐藤 大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任	講師	太刀川 達也 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任	講師	安武 幹雄 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任	助教	高橋 大輔 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	高橋 朋子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	高橋 拓子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	井上 悠子 ＜令和4年4月＞ 博士（食品栄養科学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	八木澤 順治 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任	教授	有賀 健高 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）
		環境経済学
兼任	准教授	荒木 祐二 ＜令和4年4月＞ 博士（環境学）
		農作物栽培技術演習
兼任	講師	是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	准教授	松岡 聡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	講師	齋藤 英樹 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任	講師	佐藤 大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任	講師	太刀川 達也 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任	講師	安武 幹雄 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任	助教	高橋 大輔 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	高橋 朋子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	高橋 拓子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	野村 勇太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	井上 悠子 ＜令和4年4月＞ 博士（食品栄養科学）
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	八木澤 順治 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任	教授	有賀 健高 ＜令和4年4月＞ Ph.D（アメリカ合衆国）
		環境経済学
兼任	准教授	荒木 祐二 ＜令和4年4月＞ 博士（環境学）
		農作物栽培技術演習
兼任	講師	是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	准教授	松岡 聡 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	講師	齋藤 英樹 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任	講師	佐藤 大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		基礎化学特別研究
兼任	講師	太刀川 達也 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任	講師	安武 幹雄 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		応用化学特別研究
兼任	講師	長谷川 圭介 ＜令和5年4月＞ 博士（情報理工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学特講Ⅰ 機械科学特講Ⅱ
兼任	助教	高橋 大輔 ＜令和4年4月＞ 博士（農学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	高橋 朋子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	高橋 拓子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	助教	野村 勇太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		竹見 祥大 <令和4年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		吉原 亮平 <令和4年4月> 博士(農学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		古館 宏之 <令和4年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		江幡 修一郎 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		勝田 哲 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		小林 拓矢 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		品岡 寛 <令和4年4月> 博士(工学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		星野 晋太郎 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		道村 真司 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		長嶋 宏樹 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 助教		中田 憲男 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 助教		古川 俊輔 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 助教		矢後 友暁 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		竹見 祥大 <令和4年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		吉原 亮平 <令和4年4月> 博士(農学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		古館 宏之 <令和4年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		江幡 修一郎 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 准教授		勝田 哲 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		小林 拓矢 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		品岡 寛 <令和4年4月> 博士(工学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		星野 晋太郎 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 准教授		道村 真司 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		長嶋 宏樹 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 准教授		中田 憲男 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 助教		古川 俊輔 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 准教授		矢後 友暁 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		竹見 祥大 <令和4年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		吉原 亮平 <令和4年4月> 博士(農学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		古館 宏之 <令和4年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		川出 健介 <令和5年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		金谷 萌子 <令和5年4月> 博士(理学)
		生体制御学特別研究1 生体制御学特別研究2
兼任 助教		江幡 修一郎 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 准教授		勝田 哲 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		小林 拓矢 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 准教授		品岡 寛 <令和4年4月> 博士(工学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		星野 晋太郎 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 准教授		道村 真司 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任 助教		長嶋 宏樹 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 准教授		中田 憲男 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 助教		古川 俊輔 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究
兼任 准教授		矢後 友暁 <令和4年4月> 博士(理学)
		基礎化学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		石原 日出一 <令和4年4月> 修士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		WANG Weiqian <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		小玉 翔平 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		坂口 美幸 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		半田 友衣子 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		松下 隆彦 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		江頭 信二 <令和4年4月> 博士(数理科学)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		金光 秋博 <令和4年4月> 博士(数理科学)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		Jean Stefan KOSKIVIRTA <令和4年4月> PhD in Mathematics (フランス)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		高橋 悠樹 <令和4年4月> PhD in Mathematics (ドイツ)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		石川 良 <令和4年4月> 博士(理学)
		電気電子物理工学特別研究 I
兼任 助教		福田 優貴 <令和4年4月> 博士(工学)
		電気電子物理工学特別研究 I
兼任 助教		清水 麻希 <令和4年4月> 博士(理学)
		電気電子物理工学特別研究 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		Lim Hong En <令和4年4月> 博士(理学)
兼任 助教		基礎化学特別研究
兼任 助教		石原 日出一 <令和4年4月> 修士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		WANG Weiqian <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		小玉 翔平 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		坂口 美幸 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		半田 友衣子 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		松下 隆彦 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		江頭 信二 <令和4年4月> 博士(数理科学)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		金光 秋博 <令和4年4月> 博士(数理科学)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 准教授		Jean Stefan KOSKIVIRTA <令和4年4月> PhD in Mathematics (フランス)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		高橋 悠樹 <令和4年4月> PhD in Mathematics (ドイツ)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		石川 良 <令和4年4月> 博士(理学)
		電気電子物理工学特別研究 I
兼任 准教授		福田 優貴 <令和4年4月> 博士(工学)
		電気電子物理工学特別研究 I
兼任 助教		清水 麻希 <令和4年4月> 博士(理学)
		電気電子物理工学特別研究 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		Lim Hong En <令和4年4月> 博士(理学)
兼任 助教		基礎化学特別研究
兼任 助教		石原 日出一 <令和4年4月> 修士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		WANG Weiqian <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		小玉 翔平 <令和4年4月> 博士(工学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		坂口 美幸 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 准教授		半田 友衣子 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
兼任 助教		松下 隆彦 <令和4年4月> 博士(理学)
		応用化学特別研究
		鈴木 陽太 <令和5年4月> 博士(理学)
兼任 助教		応用化学特別研究
兼任 助教		江頭 信二 <令和4年4月> 博士(数理科学)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		金光 秋博 <令和4年4月> 博士(数理科学)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 准教授		Jean Stefan KOSKIVIRTA <令和4年4月> PhD in Mathematics (フランス)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		高橋 悠樹 <令和4年4月> PhD in Mathematics (ドイツ)
		数学特別研究1 数学特別研究2
兼任 助教		石川 良 <令和4年4月> 博士(理学)
		電気電子物理工学特別研究 I
兼任 准教授		福田 優貴 <令和4年4月> 博士(工学)
		電気電子物理工学特別研究 I
兼任 助教		清水 麻希 <令和4年4月> 博士(理学)
		電気電子物理工学特別研究 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		成瀬 雅人 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		藤川 紗千恵 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		間邊 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		菅野 円隆 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		木村 慧 ＜令和4年4月＞ 博士（情報理工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		島田 裕 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		杉浦 陽介 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		安井 希子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		阿部 壮志 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		鄭 穎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		成澤 慶宣 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		山田 典晴 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		成瀬 雅人 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		藤川 紗千恵 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		間邊 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		菅野 円隆 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 准教授		島田 裕 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ プレゼンテーション特別演習
兼任 助教		杉浦 陽介 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		安井 希子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		入山 太朗 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		鈴木 亮太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 准教授		阿部 壮志 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		鄭 穎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		成澤 慶宣 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		山田 典晴 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		成瀬 雅人 ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		藤川 紗千恵 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 助教		間邊 哲也 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		電気電子物理学特別研究Ⅰ
兼任 准教授		菅野 円隆 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ プレゼンテーション特別演習
兼任 准教授		島田 裕 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ プレゼンテーション特別演習
兼任 助教		杉浦 陽介 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		入山 太朗 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		鈴木 亮太 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 助教		清川 宏晴 ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		情報工学特別研究Ⅰ
兼任 准教授		阿部 壮志 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学特別研究Ⅰ 機械科学特別研究Ⅱ 機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		鄭 穎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ
兼任 助教		成澤 慶宣 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		機械科学輪講Ⅰ 機械科学輪講Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		山田 洋平 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論講Ⅰ 機械科学論講Ⅱ
兼任 助教		五十嵐 善哉 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		加藤 哲平 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Goit Chandra Shekhar <令和4年4月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Senavirathna M D H Jayasanka <令和4年4月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ Rural environment and ecosystem 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別論講Ⅰ 科学技術応用学際特別論講Ⅱ
兼任 助教		富樫 陽太 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Luan Yao <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 連携教授		今本 尚子 <令和4年4月> 医学博士
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		山田 洋平 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論講Ⅰ 機械科学論講Ⅱ
兼任 助教		大澤 優輔 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論講Ⅰ 機械科学論講Ⅱ
兼任 助教		五十嵐 善哉 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Goit Chandra Shekhar <令和4年4月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Senavirathna M D H Jayasanka <令和4年4月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ Rural environment and ecosystem 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別論講Ⅰ 科学技術応用学際特別論講Ⅱ
兼任 助教		富樫 陽太 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Luan Yao <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Zafar Usama <令和4年10月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		中村 謙吾 <令和4年10月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		須ヶ岡 淳 <令和4年11月> 修士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 連携教授		今本 尚子 <令和4年4月> 医学博士
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教		山田 洋平 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論講Ⅰ 機械科学論講Ⅱ
兼任 助教		大澤 優輔 <令和4年4月> 博士(工学)
		機械科学論講Ⅰ 機械科学論講Ⅱ
兼任 助教		木山 景仁 <令和5年4月> 博士(工学)
		機械科学論講Ⅰ 機械科学論講Ⅱ
兼任 助教		東田 義和 <令和5年4月> 博士(工学)
		機械科学論講Ⅰ 機械科学論講Ⅱ
兼任 助教		五十嵐 善哉 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Goit Chandra Shekhar <令和4年4月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Senavirathna M D H Jayasanka <令和4年4月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ Rural environment and ecosystem 科学技術応用学際特別演習Ⅰ 科学技術応用学際特別演習Ⅱ 科学技術応用学際特別論講Ⅰ 科学技術応用学際特別論講Ⅱ
兼任 助教		富樫 陽太 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Luan Yao <令和4年4月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		Zafar Usama <令和4年10月> 博士(学術)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		中村 謙吾 <令和4年10月> 博士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 助教		須ヶ岡 淳 <令和4年11月> 修士(工学)
		環境社会基盤国際特別研究Ⅰ 環境社会基盤国際特別研究Ⅱ
兼任 連携教授		今本 尚子 <令和4年4月> 医学博士
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	連携教授	鈴木 匡 <令和4年4月> 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	高橋 俊二 <令和4年4月> 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	堂前 直 <令和4年4月> 博士(学術)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	上坂 友洋 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携教授	望月 優子 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携教授	八戸 昭一 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境地質学特論
兼任	連携准教授	仁尾 真紀子 <令和4年4月> Ph.D(アメリカ合衆国)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携准教授	米倉 哲志 <令和4年4月> 博士(農学)
		環境生物学特論
兼任	連携准教授	見島 伊織 <令和4年4月> 博士(工学)
		水環境工学特論
兼任	講師	有馬 百子 <令和4年4月> 博士(工学)
		知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 <令和4年4月> 修士(文化情報)
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 <令和4年4月> 学士(外国文化)
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	連携教授	鈴木 匡 <令和4年4月> 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	高橋 俊二 <令和4年4月> 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	堂前 直 <令和4年4月> 博士(学術)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	上坂 友洋 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携教授	望月 優子 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携教授	八戸 昭一 <令和4年4月> 博士(工学)
		環境地質学特論
兼任	連携准教授	仁尾 真紀子 <令和4年4月> Ph.D(アメリカ合衆国)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携准教授	米倉 哲志 <令和4年4月> 博士(農学)
		環境生物学特論
兼任	連携准教授	見島 伊織 <令和4年4月> 博士(工学)
		水環境工学特論
兼任	講師	有馬 百子 <令和4年4月> 博士(工学)
		知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 <令和4年4月> 修士(文化情報)
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 <令和4年4月> 学士(外国文化)
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	連携教授	鈴木 匡 <令和4年4月> 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	高橋 俊二 <令和4年4月> 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	堂前 直 <令和4年4月> 博士(学術)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	関 原明 <令和5年4月> 博士(理学)
		分子生物学特別研究1 分子生物学特別研究2
兼任	連携教授	上坂 友洋 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携教授	望月 優子 <令和4年4月> 博士(理学)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携教授	大塚 宣寿 <令和5年4月> 博士(工学)
		環境分析化学特論
兼任	連携准教授	仁尾 真紀子 <令和4年4月> Ph.D(アメリカ合衆国)
		物理学特別研究1 物理学輪講Ⅰ 物理学輪講Ⅱ
兼任	連携准教授	見島 伊織 <令和4年4月> 博士(工学)
		水環境工学特論
兼任	連携准教授	清元 栄起 <令和5年4月> 博士(理学)
		地圏環境学特論
兼任	講師	有馬 百子 <令和4年4月> 博士(工学)
		知的財産権の概要とその活用
兼任	講師	小林 寛典 <令和4年4月> 修士(文化情報)
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ
兼任	講師	吉田 美幸 <令和4年4月> 学士(外国文化)
		科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士	兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士	兼任	講師	梶山 いづみ <令和4年4月> 文学士
		科学技術日本語Ⅲ			科学技術日本語Ⅲ			科学技術日本語Ⅲ
兼任	講師	松野 信夫 <令和4年4月> 工学修士	兼任	講師	松野 信夫 <令和4年4月> 工学修士			
		国際電気・環境規格特論			国際電気・環境規格特論			
兼任	講師	三崎 貴弘 <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	講師	三崎 貴弘 <令和4年4月> 博士(工学)			
		データ解析学演習			データ解析学演習			
						兼任 講師		須藤 宏 <令和5年4月> 理学修士
								国際電気・環境規格特論
						兼任 講師		内田 智夫 <令和5年4月> 博士(学術)
								データ解析学演習

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。
・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・ 下川航也教授就任辞退。
- ・ 佐藤丈准教授就任辞退。
- ・ 木村慧助教就任辞退。
- ・ 加藤哲平助教就任辞退。
- ・ 令和4年4月 野村勇太助教就任。
- ・ 令和4年4月 Lim Hong En助教就任。
- ・ 令和4年4月 入山太嗣助教就任。
- ・ 令和4年4月 鈴木亮太助教就任。
- ・ 令和4年4月 大澤優輔助教就任。
- ・ 令和4年10月 Zafar Usama 助教就任。
- ・ 令和4年10月 中村謙吾助教就任。
- ・ 令和4年11月 須ヶ間淳助教就任。

【令和5年度】

- ・ 荒木稚子教授辞任。
- ・ 吉川宣一准教授辞任。
- ・ 井上悠子助教辞任。
- ・ 安井希子助教辞任。
- ・ 山田典靖助教辞任。
- ・ 令和5年4月 横山知郎教授就任。
- ・ 令和5年4月 岩崎慶教授就任。
- ・ 令和5年4月 吉田健太郎准教授就任。
- ・ 令和5年4月 PUNPONGSANON PARINYA 准教授就任。
- ・ 令和5年4月 長谷川圭介講師就任。
- ・ 令和5年4月 川出健介助教就任。
- ・ 令和5年4月 鈴木陽太助教就任。
- ・ 令和5年4月 清川宏暁助教就任。
- ・ 令和5年4月 木山景仁助教就任。
- ・ 令和5年4月 末田美和助教就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 （博士前期課程）

特別教育プログラム(A) 6年一貫型イノベーション人材育成プログラム

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ……」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜特別教育プログラム(A) 6年一貫型イノベーション人材育成プログラム＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	3
5. 教員組織の状況	9

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名

埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

2 授業科目の概要

<理工学研究科 特別教育プログラム(A) 6年一貫型イノベーション人材育成プログラム>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
特別教育 プログラム（A）	社会デザインプロセス論	2・3・4①～②		2								1
	社会的意思決定論	2・3・4③～④		2								3
	システムデザイン序論	2・3・4③～④		2								1
	イノベーションとマーケティング	2・3・4①～②		2								1
	機械と職業	3①～②		2								1
	電気電子と職業	3③～④		2								1
	情報と職業	3①～②		2								6
	化学と職業	3③～④		2								5
	技術者と社会デザイン	3①～②		2								8
	産業創成論	2・3・4③～④		2								1
	技術者のための産業経営論	2・3・4①～②		2								1
	課題解決型演習Ⅰ	2・3・4①～②		2								2
	課題解決型演習Ⅱ	2・3・4③～④		2								2
	ものづくり創造演習	4通		2								1
	課題探索型セミナーⅠ	3通		2								2
	課題探索型セミナーⅡ	3③～④		2								2
	環境まちづくり	3①～②		2								1
	課題探求型演習Ⅰ	3③～④		2								6
	課題探求型演習Ⅱ	2③～④		2								2
	科学技術と知的財産	2・3・4③～④		2								1
小計（20科目）	—	0	40	0	0	0	0	0	0	0	36	
(a) 2	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・③～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	イノベーションとマーケティング特論	1・2通		2								1
	課題解決型特別演習A	1・2①～②・③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
海外インターンシップ	1・2通		2								1	
小計（7科目）	—	0	13	0	0	0	0	0	0	0	5	
合計（27科目）		—	0	53	0	0	0	0	0	0	0	38
卒業要件及び履修方法												
(特別教育プログラム(A)の修了要件) 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を満たし、かつ、下記の履修方法により、合わせて12単位以上を修得すること。 1) 学部開講科目群(a)1から、3科目6単位以上を修得すること。 2) 大学院開講科目群(a)2から、技術者のための産業経営特論(2単位)、課題解決型特別演習A(2単位)又は課題解決型特別演習B(2単位)の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。 3) 1)及び2)で修得すべき10単位以外の2単位については、本プログラムから修得すること。												

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
特別 教育 プログラム（A）	社会デザインプロセス論	2・3・4①～②		2								1
	社会的意識決定論	2・3・4③～④		2								3
	システムデザイン序論	2・3・4③～④		2								1
	イノベーションとマーケティング	2・3・4①～②		2								1
	機械と職業	3①～②		2								1
	電気電子と職業	3③～④		2								1
	情報と職業	3①～②		2								6
	化学と職業	3③～④		2								5
	技術者と社会デザイン	3①～②		2								8
	産業創成論	2・3・4③～④		2								1
	技術者のための産業経営論	2・3・4①～②		2								1
	課題解決型演習Ⅰ	2・3・4①～②		2								2
	課題解決型演習Ⅱ	2・3・4③～④		2								2
	ものづくり創造演習	4通		2								1
	課題探索型セミナーⅠ	3通		2								2
	課題探索型セミナーⅡ	3③～④		2								2
	環境まちづくり	3①～②		2								1
	課題探求型演習Ⅰ	3③～④		2								6
	課題探求型演習Ⅱ	2③～④		2								2
	科学技術と知的財産	2・3・4③～④		2								1
	小計（20科目）	—	0	40	0	0	0	0	0	0	0	36
(a) 2	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・③～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・2①～②		2								1
	イノベーションとマーケティング特論	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習DⅠ	1・2③～④		2								1
	海外インターンシップ	1・2通		2								1
小計（9科目）	—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	7	
合計（29科目）		—	0	58	0	0	0	0	0	0	0	41
卒業要件及び履修方法												
(特別教育プログラム(A)の修了要件) 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を満たし、かつ、下記の履修方法により、合わせて12単位以上を修得すること。 1) 学部開講科目群(a)1から、3科目6単位以上を修得すること。 2) 大学院開講科目群(a)2から、技術者のための産業経営特論(2単位)、課題解決型特別演習AⅠ(2単位)又は課題解決型特別演習B(2単位)の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。 3) 1)及び2)で修得すべき10単位以外の2単位については、本プログラムから修得すること。												

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
特別 教育 プログラム（A）	社会デザインプロセス論	2・3・4①～②		2								1
	社会的意思決定論	2・3・4③～④		2								3
	システムデザイン序論	2・3・4③～④		2								1
	イノベーションとマーケティング	2・3・4①～②		2								1
	機械と職業	3①～②		2								1
	電気電子と職業	3③～④		2								1
	情報と職業	3①～②		2								6
	化学と職業	3③～④		2								5
	技術者と社会デザイン	3①～②		2								8
	産業創成論	2・3・4③～④		2								1
	技術者のための産業経営論	1・1・4③～④		2								1
	課題解決型演習Ⅰ	2・3・4①～②		2								2
	課題解決型演習Ⅱ	2・3・4③～④		2								2
	ものづくり創造演習	4通		2								1
	課題探索型セミナーⅠ	3通		2								2
	課題探索型セミナーⅡ	3③～④		2								2
	環境まちづくり	3①～②		2								1
	課題探求型演習Ⅰ	3③～④		2								6
	課題探求型演習Ⅱ	2③～④		2								2
	科学技術と知的財産	2・3・4③～④		2								1
	小計（20科目）	—	0	40	0	0	0	0	0	0	0	36
(a) 2	技術者のための産業経営特論	1・2①～②・③～④		2								1
	知的財産権の概要とその活用	1・4③～④		2								1
	イノベーションとマーケティング特論	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅠ	1・2①～②		2								1
	課題解決型特別演習AⅡ	1・2③～④		2								1
	課題解決型特別演習B	1・4③～④		2								1
	課題解決型特別演習C	1・2③		1								1
	海外インターンシップ	1・2通		2								1
小計（8科目）	—	0	15	0	0	0	0	0	0	0	5	
合計（28科目）		—	0	55	0	0	0	0	0	0	0	39
卒業要件及び履修方法												
（特別教育プログラム（A）の修了要件） 本プログラムを履修する学生にあつては、所属する専攻・プログラムの修了要件を満たし、かつ、下記の履修方法により、合わせて12単位以上を修得すること。 1) 学部開講科目群(a)1から、3科目6単位以上を修得すること。 2) 大学院開講科目群(a)2から、技術者のための産業経営特論（2単位）、 課題解決型特別演習AⅠ （2単位）又は課題解決型特別演習B（2単位）の2単位以上を含めて4単位以上を修得すること。 3) 1)及び2)で修得すべき10単位以外の2単位については、本プログラムから修得すること。												

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講**となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。**
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「**臨地実務実習**」による授業科目には「【臨】」、「**連携実務実習**」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・開講講義数のバランスのため、「技術者のための産業経営論」の配当年次を「2・3・4①～②」から「2・3・4③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「知的財産権の概要とその活用」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「イノベーションとマーケティング特論」の配当年次を「1・2通」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。

【令和5年度】

- ・開講講義数のバランスのため、「技術者のための産業経営論」の配当年次を「2・3・4①～②」から「2・3・4③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「イノベーションとマーケティング特論」の配当年次を「1・2通」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習AⅡ」を新設。
- ・「課題解決型特別演習AⅡ」の新設に伴い、授業科目の名称を「課題解決型特別演習A」から「課題解決型特別演習AⅠ」に変更し、配当年次を「1・2①～②・③～④」から「1・2①～②」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「課題解決型特別演習B」の配当年次を「1・2①～②」から「1・2①～②・③～④」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習C」の単位数を「1」から「2」に変更し、開講講義数のバランスのため、配当年次を「1・2③」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅠ」を新設。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	27 科目	0 科目	27 科目	0 科目 [0]	29 科目 [2]	0 科目 [0]	29 科目 [2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{27} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

5 教員組織の状況

<理工学研究科 特別教育プログラム（A）6年一貫型イノベーション人材育成プログラム>

（1）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任	教授	久保田 尚 <令和4年4月> 工学博士 社会デザインプロセス論 社会的意思決定論	兼任	教授	久保田 尚 <令和4年4月> 工学博士 社会デザインプロセス論 社会的意思決定論	兼任	教授	久保田 尚 <令和4年4月> 工学博士 社会デザインプロセス論 社会的意思決定論
兼任	教授	綿貫 啓一 <令和4年4月> 工学博士 システムデザイン序論	兼任	教授	綿貫 啓一 <令和4年4月> 工学博士 システムデザイン序論	兼任	教授	綿貫 啓一 <令和4年4月> 工学博士 システムデザイン序論
兼任	教授(研究科長)	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士 イノベーションとマーケティング 課題解決型特別演習C 海外インターンシップ	兼任	教授	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士 イノベーションとマーケティング 課題解決型特別演習C 海外インターンシップ	兼任	教授	黒川 秀樹 <令和4年4月> 工学博士 イノベーションとマーケティング 海外インターンシップ
兼任	教授	伊藤 和人 <令和4年4月> 博士(工学) 電気電子と職業	兼任	教授	伊藤 和人 <令和4年4月> 博士(工学) 電気電子と職業	兼任	教授	伊藤 和人 <令和4年4月> 博士(工学) 電気電子と職業
兼任	教授	小室 孝 <令和4年4月> 博士(工学) 情報と職業※	兼任	教授	小室 孝 <令和4年4月> 博士(工学) 情報と職業※	兼任	教授	小室 孝 <令和4年4月> 博士(工学) 情報と職業※
兼任	教授	島村 徹也 <令和4年4月> 工学博士 情報と職業※	兼任	教授	島村 徹也 <令和4年4月> 工学博士 情報と職業※	兼任	教授	島村 徹也 <令和4年4月> 工学博士 情報と職業※
兼任	教授	内田 淳史 <令和4年4月> 博士(工学) 情報と職業※	兼任	教授	内田 淳史 <令和4年4月> 博士(工学) 情報と職業※	兼任	教授	内田 淳史 <令和4年4月> 博士(工学) 情報と職業※
兼任	教授	川本 健 <令和4年4月> 博士(農学) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	川本 健 <令和4年4月> 博士(農学) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	川本 健 <令和4年4月> 博士(農学) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I
兼任	教授	齊藤 正人 <令和4年4月> 博士(工学) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	齊藤 正人 <令和4年4月> 博士(工学) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	齊藤 正人 <令和4年4月> 博士(工学) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I
兼任	教授	松本 泰尚 <令和4年4月> Ph.D(イギリス) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	松本 泰尚 <令和4年4月> Ph.D(イギリス) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	松本 泰尚 <令和4年4月> Ph.D(イギリス) 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I
兼任	教授	桑野 二郎 <令和4年4月> 工学博士 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I 課題探求型演習II	兼任	教授	桑野 二郎 <令和4年4月> 工学博士 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I 課題探求型演習II	兼任	教授	桑野 二郎 <令和4年4月> 工学博士 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I 課題探求型演習II
兼任	教授	田中 規夫 <令和4年4月> 工学博士 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	田中 規夫 <令和4年4月> 工学博士 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I	兼任	教授	田中 規夫 <令和4年4月> 工学博士 技術者と社会デザイン※ 課題探求型演習I
兼任	教授	新井 正敏 <令和4年4月> 修士(工学) 産業創成論 課題解決型演習I 課題解決型演習II イノベーションとマーケティング特論 課題解決型特別演習A	兼任	教授	新井 正敏 <令和4年4月> 博士(工学) 産業創成論 課題解決型演習I 課題解決型演習II イノベーションとマーケティング特論 課題解決型特別演習A I 課題解決型特別演習A II	兼任	教授	新井 正敏 <令和4年4月> 博士(工学) 産業創成論 課題解決型演習I 課題解決型演習II イノベーションとマーケティング特論 課題解決型特別演習A I 課題解決型特別演習A II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営論 技術者のための産業経営特論
兼任	教授	小原 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅠ
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習B
兼任	准教授	小嶋 文 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 社会的意思決定論 技術者と社会デザイン※
兼任	准教授	深堀 清隆 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 社会的意思決定論 環境まちづくり
兼任	准教授	後藤 祐一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 情報と職業※
兼任	准教授	安積 卓也 ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学） 情報と職業※
兼任	准教授	松永 康佑 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 情報と職業※
兼任	准教授	小口 千明 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 技術者と社会デザイン※
兼任	准教授	原 正之 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） ものづくり創造演習
兼任	准教授	前田 慎市 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅠ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営論
兼任	教授	重原 孝臣 ＜令和4年9月＞ 理学博士 技術者のための産業経営論
兼任	教授	小原 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅠ
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習B
兼任	准教授	小嶋 文 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 社会的意思決定論 技術者と社会デザイン※
兼任	准教授	深堀 清隆 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 社会的意思決定論 環境まちづくり
兼任	准教授	後藤 祐一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 情報と職業※
兼任	准教授	安積 卓也 ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学） 情報と職業※
兼任	准教授	松永 康佑 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 情報と職業※
兼任	准教授	小口 千明 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 技術者と社会デザイン※
兼任	准教授	原 正之 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） ものづくり創造演習
兼任	准教授	前田 慎市 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅠ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	小林 裕一 ＜令和4年4月＞ 経済学士 技術者のための産業経営特論
兼任	教授	重原 孝臣 ＜令和4年9月＞ 理学博士 技術者のための産業経営論
兼任	教授	小原 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅠ
兼任	教授	寺本 進 ＜令和4年4月＞ 工学士 課題解決型特別演習B
兼任	教授	伊佐 俊紀 ＜令和5年4月＞ 修士（工学） 課題解決型特別演習DⅠ
兼任	教授	土屋 政幸 ＜令和5年4月＞ 医学博士 課題解決型特別演習C
兼任	准教授	小嶋 文 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 社会的意思決定論 技術者と社会デザイン※
兼任	准教授	深堀 清隆 ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 社会的意思決定論 環境まちづくり
兼任	准教授	後藤 祐一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 情報と職業※
兼任	教授	安積 卓也 ＜令和4年4月＞ 博士（情報科学） 情報と職業※
兼任	准教授	松永 康佑 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 情報と職業※
兼任	准教授	小口 千明 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 技術者と社会デザイン※
兼任	准教授	原 正之 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） ものづくり創造演習
兼任	准教授	前田 慎市 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅠ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	琴坂 信哉 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅡ
兼任	准教授	程島 竜一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅡ
兼任	助教	Goit Chandra Shekhar ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 課題探求型演習Ⅰ
兼任	助教	Luan Yao ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探求型演習Ⅱ
兼任	講師	笠谷 昌史 ＜令和4年4月＞ 工学修士 機械と職業
兼任	講師	西尾 拓 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	山田 明宏 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	足立 美紀 ＜令和4年4月＞ 学士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	藤原 和崇 ＜令和4年4月＞ 学士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	長友 義幸 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	古里 実 ＜令和4年4月＞ 工学博士 技術者と社会デザイン※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	琴坂 信哉 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅡ
兼任	准教授	程島 竜一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅡ
兼任	助教	Goit Chandra Shekhar ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 課題探求型演習Ⅰ
兼任	助教	Luan Yao ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探求型演習Ⅱ
兼任	講師	笠谷 昌史 ＜令和4年4月＞ 工学修士 機械と職業
兼任	講師	西尾 拓 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	山田 明宏 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	足立 美紀 ＜令和4年4月＞ 学士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	藤原 和崇 ＜令和4年4月＞ 学士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	大橋 東洋 ＜令和4年4月＞ 修士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	古里 実 ＜令和4年4月＞ 工学博士 技術者と社会デザイン※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	琴坂 信哉 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅡ
兼任	准教授	程島 竜一 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探索型セミナーⅡ
兼任	助教	Goit Chandra Shekhar ＜令和4年4月＞ 博士（学術） 課題探求型演習Ⅰ
兼任	助教	Luan Yao ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 課題探求型演習Ⅱ
兼任	講師	連川 敬彦 ＜令和5年4月＞ 工学修士 機械と職業
兼任	講師	西尾 拓 ＜令和4年4月＞ 博士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	足立 美紀 ＜令和4年4月＞ 学士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	藤原 和崇 ＜令和4年4月＞ 学士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	大橋 東洋 ＜令和4年4月＞ 修士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	中村 圭介 ＜令和5年4月＞ 博士（工学） 化学と職業※
兼任	講師	古里 実 ＜令和4年4月＞ 工学博士 技術者と社会デザイン※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	宮内 正臣 ＜令和4年4月＞ 経営修士
		課題解決型演習Ⅰ 課題解決型演習Ⅱ
兼任	講師	杉岡 真紀 ＜令和4年4月＞ 修士（被服材料学）
		科学技術と知的財産
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的財産権の概要とその活用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	宮内 正臣 ＜令和4年4月＞ 経営修士
		課題解決型演習Ⅰ 課題解決型演習Ⅱ
兼任	講師	杉岡 真紀 ＜令和4年4月＞ 修士（被服材料学）
		科学技術と知的財産
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的財産権の概要とその活用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	宮内 正臣 ＜令和4年4月＞ 経営修士
		課題解決型演習Ⅰ 課題解決型演習Ⅱ
兼任	講師	杉岡 真紀 ＜令和4年4月＞ 修士（被服材料学）
		科学技術と知的財産
兼任	講師	有馬 百子 ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		知的財産権の概要とその活用

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。

その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**

- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の歳年齢**を記入してください。
- ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実（実）、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし。

【令和5年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

学校コード F111110101945

注3

設置年度

令和

4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 （博士前期課程）

特別教育プログラム(B) データサイエンティストとしての素養を備えた理工系人材育成プログラム

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学

令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

＜特別教育プログラム(B) データサイエンティストとしての素養を備えた理工系人材育成プログラム＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	3
5. 教員組織の状況	9

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名

埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

2 授業科目の概要

<理工学研究科 特別教育プログラム(B) データサイエンティストとしての素養を備えた理工系人材育成プログラム>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
特別 教育 プログラム (B)	確率・統計基礎	2①～②	2								3
	データサイエンス基礎	1①～②	2								1
	機械学習特論	1-2③～④	2								1
	データマイニング特別演習	2①～②	2								1
	小計（4科目）	—	8	0	0	0	0	0	0	0	4
合計（4科目）			—	8	0	0	0	0	0	0	4
卒業要件及び履修方法											
(特別教育プログラム(B)の修了要件) 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を 満たし、かつ、本プログラムの必修科目8単位を修得すること。											

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
特別 教育 プログラム (B)	確率・統計基礎	1・2①～②	2								3
	データサイエンス基礎	1①～②	2								1
	機械学習特論	1-2③～④	2								1
	データマイニング特別演習	2①～②		2							1
	課題解決型特別演習DⅡ	1-2⑤～⑥		2							1
特別 教育 プログラム (B)	課題解決型特別演習E	1-2⑦～⑧		2							1
	小計（6科目）	—	6	6	0	0	0	0	0	0	6
合計（6科目）			—	6	6	0	0	0	0	0	6
卒業要件及び履修方法											
(特別教育プログラム(B)の修了要件) 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を 満たし、かつ、本プログラムの必修科目6単位及び選択科目2単位以上、計8単位以 上を修得すること。ただし、情報工学プログラムの学生は本プログラムを修了す ることはできない。											

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
特 別 教 育 （ B ） プ ロ ゲ	確率・統計基礎	1・20～21	2								3
	データサイエンス基礎	1①～②	2								1
	機械学習特論	1・23～24	2								1
	データマイニング特別演習	2①～②	2								1
	小計（4科目）	—	8	0	0	0	0	0	0	0	4
合計（4科目）			—	8	0	0	0	0	0	0	4
卒業要件及び履修方法											
（特別教育プログラム（B）の修了要件） 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を 満たし、かつ、本プログラムの必修科目8単位を修得すること。											

- （注）
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・開講講義数のバランスのため、「確率・統計基礎」の配当年次を「2①～②」から「1・2①～②」に変更。

【令和5年度】

- ・開講講義数のバランスのため、「確率・統計基礎」の配当年次を「2①～②」から「1・2①～②」に変更。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習DⅡ」を新設。
- ・教育内容の充実を図るために、「課題解決型特別演習E」を新設。
- ・「課題解決型特別演習DⅡ」及び「課題解決型特別演習E」の新設に伴い、「データマイニング特別演習」を「必修」から「選択」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	0 科目	0 科目	4 科目	3 科目 [△ 1]	3 科目 [3]	0 科目 [0]	6 科目 [2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

5 教員組織の状況

<理工学研究科 特別教育プログラム（B）データサイエンティストとしての素養を備えた理工系人材育成プログラム>

（1）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	平松 薫 <令和4年4月> 博士（情報学）
		データサイエンス基礎 機械学習特論 データマイニング特別演習
兼任	教授	小室 孝 <令和4年4月> 博士（工学）
		確率・統計基礎
兼任	准教授	小嶋 文 <令和4年4月> 博士（学術）
		確率・統計基礎
兼任	講師	吉川 美佐子 <令和4年4月> 博士（理学）
		確率・統計基礎

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	平松 薫 <令和4年4月> 博士（情報学）
		データサイエンス基礎 機械学習特論 データマイニング特別演習
兼任	教授	小室 孝 <令和4年4月> 博士（工学）
		確率・統計基礎
兼任	准教授	小嶋 文 <令和4年4月> 博士（学術）
		確率・統計基礎
兼任	講師	吉川 美佐子 <令和4年4月> 博士（理学）
		確率・統計基礎

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任（予定）年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	平松 薫 <令和4年4月> 博士（情報学）
		データサイエンス基礎 機械学習特論 データマイニング特別演習
兼任	教授	小室 孝 <令和4年4月> 博士（工学）
		確率・統計基礎
兼任	教授	伊佐 俊紀 <令和5年4月> 修士（工学）
		課題解決型特別演習DⅡ
兼任	教授	石川 能幸 <令和5年4月> 経産学士
		課題解決型特別演習E
兼任	准教授	小嶋 文 <令和4年4月> 博士（学術）
		確率・統計基礎
兼任	講師	吉川 美佐子 <令和4年4月> 博士（理学）
		確率・統計基礎

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任・兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。
・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実（実））、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし。

【令和5年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

学校コード F111110101945
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

埼玉大学大学院 理工学研究科 （博士前期課程）

特別教育プログラム(C) 6年一貫型ハイグレード理数教育プログラム (HiSEP-6)

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人 埼玉大学
令和5年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

理工学研究科

<特別教育プログラム(C) 6年一貫型ハイグレード理数教育プログラム (HiSEP-6) >	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	3
5. 教員組織の状況	9

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人埼玉大学

(2) 大 学 名

埼玉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(サカイ タカフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(イシイ アキヒコ) 石井 昭彦 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

2 授業科目の概要

<理工学研究科 特別教育プログラム(C) 6年一貫型ハイグレード理数教育プログラム (HiSEP-6) >

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
特別 教育 プログラム (C)	1	入門セミナー	1①～②		2								5
		基礎セミナー	1③～④		2								6
		特別研究Ⅰ	1通		2								5
		特別研究Ⅱ	2通		2								5
		科学プレゼンテーションⅠ	2・3・4③～④		2								5
		HiSEP特別講義Ⅰ	1・2・3通	2									5
		アウトリーチ活動Ⅰ	1・2・3通	1									1
		アウトリーチ活動Ⅱ	1・2・3通		1								1
		インターンシップ	1・2・3・4③		1								1
	小計（9科目）	—	3	12	0	0	0	0	0	0	0	11	
	2	科学プレゼンテーションⅡ	1①～②	2									5
		科学プレゼンテーションⅢ	2①～②	2									5
		HiSEP特別講義Ⅱ	1①～②	2									5
		HiSEP特別講義Ⅲ	1③～④		2								5
		海外インターンシップ	1・2通		2								1
	小計（5科目）	—	6	4	0	0	0	0	0	0	0	8	
合計（14科目）			—	9	16	0	0	0	0	0	0	12	
卒業要件及び履修方法													
(特別教育プログラム (C) の修了要件) 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を 満たし、かつ、本プログラムの必修科目9単位及び選択科目4単位以上、計13単位以 上を修得すること。													

【令和5年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
特別 教育 プログラム (C)	1	入門セミナー	1①～②		2								5
		基礎セミナー	1③～④		2								6
		特別研究Ⅰ	1通		2								5
		特別研究Ⅱ	2通		2								5
		科学プレゼンテーションⅠ	2・3・4②～④		2								5
		HiSEP特別講義Ⅰ	1・2・3③	1									5
		HiSEP特別講義Ⅱ	1・2・3③	1									5
		アウトリーチ活動Ⅰ	1・2・3通	1									1
		アウトリーチ活動Ⅱ	1・2・3通		1								1
		インターンシップ	1・2・3・4③		1								1
	小計（10科目）	—	3	12	0	0	0	0	0	0	0	11	
	2	科学プレゼンテーションⅡ	1③～④	2									5
		科学プレゼンテーションⅢ	2③～④	2									5
		HiSEP特別講義Ⅲ	1①～②	2									5
		HiSEP特別講義Ⅳ	2③～④		2								5
		海外インターンシップ	1・2通		2								1
		小計（5科目）	—	6	4	0	0	0	0	0	0	0	8
合計（15科目）			—	9	16	0	0	0	0	0	0	12	
卒業要件及び履修方法													
（特別教育プログラム（C）の修了要件） 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を満たし、かつ、本プログラムの必修科目9単位及び選択科目4単位以上、計13単位以上を修得すること。													

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
特別教育プログラム (C)	入門セミナー	1①～②		2							5
	基礎セミナー	1③～④		2							6
	特別研究Ⅰ	1通		2							5
	特別研究Ⅱ	2通		2							5
	科学プレゼンテーションⅠ	2・3・4③～④		2							5
	HiSEP特別講義Ⅰ	1・2・3②	1								5
	HiSEP特別講義Ⅱ	1・2・3②	1								5
	アウトリーチ活動Ⅰ	1・2・3通	1								1
	アウトリーチ活動Ⅱ	1・2・3通		1							1
	インターンシップ	1・2・3・4通		1							1
	小計（10科目）	—	3	12	0	0	0	0	0	0	11
	科学プレゼンテーションⅡ	1③～④	2								5
	科学プレゼンテーションⅢ	2③～④	2								5
	HiSEP特別講義Ⅲ	1①～②	2								5
	HiSEP特別講義Ⅳ	2③～④	2								5
	海外インターンシップ	1・2通		2							1
	小計（5科目）	—	6	4	0	0	0	0	0	0	8
合計（15科目）			—	9	16	0	0	0	0	0	12
卒業要件及び履修方法											
（特別教育プログラム（C）の修了要件） 本プログラムを履修する学生にあっては、所属する専攻・プログラムの修了要件を満たし、かつ、本プログラムの必修科目9単位及び選択科目4単位以上、計13単位以上を修得すること。											

- （注） ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・開講講義数のバランスのため、「HiSEP特別講義Ⅰ」の配当年次を「1・2・3通」から「1・2・3①」に変更し、単位数を「必修2」から「必修1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「HiSEP特別講義Ⅱ」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学プレゼンテーションⅡ」の配当年次を「1①～②」から「1③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学プレゼンテーションⅢ」の配当年次を「2①～②」から「2③～④」に変更。
- ・「HiSEP特別講義Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「HiSEP特別講義Ⅱ」から「HiSEP特別講義Ⅲ」に変更。
- ・「HiSEP特別講義Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「HiSEP特別講義Ⅲ」から「HiSEP特別講義Ⅳ」に変更し、配当年次を「1③～④」から「2③～④」に変更。

【令和5年度】

- ・開講講義数のバランスのため、「HiSEP特別講義Ⅰ」の配当年次を「1・2・3通」から「1・2・3①」に変更し、単位数を「必修2」から「必修1」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「HiSEP特別講義Ⅱ」を新設。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学プレゼンテーションⅡ」の配当年次を「1①～②」から「1③～④」に変更。
- ・開講講義数のバランスのため、「科学プレゼンテーションⅢ」の配当年次を「2①～②」から「2③～④」に変更。
- ・「HiSEP特別講義Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「HiSEP特別講義Ⅱ」から「HiSEP特別講義Ⅲ」に変更。
- ・「HiSEP特別講義Ⅱ」の新設に伴い、授業科目の名称を「HiSEP特別講義Ⅲ」から「HiSEP特別講義Ⅳ」に変更し、配当年次を「1③～④」から「2③～④」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	9 科目	0 科目	14 科目	6 科目 [1]	9 科目 [0]	0 科目 [0]	15 科目 [1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

5 教員組織の状況

＜理工学研究科 特別教育プログラム（C）6年－貴型ハイグレード理数教育プログラム（HiSEP-6）＞

（1）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名
兼任	教授	長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 入門セミナー 基礎セミナー HiSEP特別講義Ⅰ インターンシップ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ
兼任	教授	田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ アウトリーチ活動Ⅰ アウトリーチ活動Ⅱ
兼任	教授 (研究科長)	黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学博士 海外インターンシップ
兼任	准教授	山口 雅利 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ
兼任	准教授	津田 佐知子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ
兼任	准教授	海老原 円 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	准教授	藤原 隆司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	講師	佐藤 大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ
兼任	講師	是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	助教	江頭 信二 ＜令和4年4月＞ 博士（数理科学） 科学プレゼンテーションⅠ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ
兼任	講師	井上 直也 ＜令和4年4月＞ 理学博士 基礎セミナー HiSEP特別講義Ⅰ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名
兼任	教授	長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 入門セミナー 基礎セミナー HiSEP特別講義Ⅰ インターンシップ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	教授	田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ アウトリーチ活動Ⅰ アウトリーチ活動Ⅱ
兼任	教授	黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学博士 海外インターンシップ
兼任	准教授	山口 雅利 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	准教授	津田 佐知子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	准教授	海老原 円 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	准教授	藤原 隆司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	講師	佐藤 大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	講師	是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	助教	江頭 信二 ＜令和4年4月＞ 博士（数理科学） 科学プレゼンテーションⅠ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ
兼任	講師	井上 直也 ＜令和4年4月＞ 理学博士 基礎セミナー HiSEP特別講義Ⅰ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名
兼任	教授	長澤 壯之 ＜令和4年4月＞ 理学博士 入門セミナー 基礎セミナー HiSEP特別講義Ⅰ インターンシップ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	教授	田中 秀造 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ アウトリーチ活動Ⅰ アウトリーチ活動Ⅱ
兼任	教授	黒川 秀樹 ＜令和4年4月＞ 工学博士 海外インターンシップ
兼任	准教授	山口 雅利 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	准教授	津田 佐知子 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	准教授	海老原 円 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	准教授	藤原 隆司 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	講師	佐藤 大 ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 入門セミナー 基礎セミナー 科学プレゼンテーションⅠ HiSEP特別講義Ⅰ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ
兼任	講師	是枝 晋 ＜令和4年4月＞ 理学博士 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
兼任	助教	江頭 信二 ＜令和4年4月＞ 博士（数理科学） 科学プレゼンテーションⅠ 科学プレゼンテーションⅡ 科学プレゼンテーションⅢ
兼任	講師	井上 直也 ＜令和4年4月＞ 理学博士 基礎セミナー HiSEP特別講義Ⅰ HiSEP特別講義Ⅱ HiSEP特別講義Ⅲ HiSEP特別講義Ⅳ

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし。

【令和5年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。